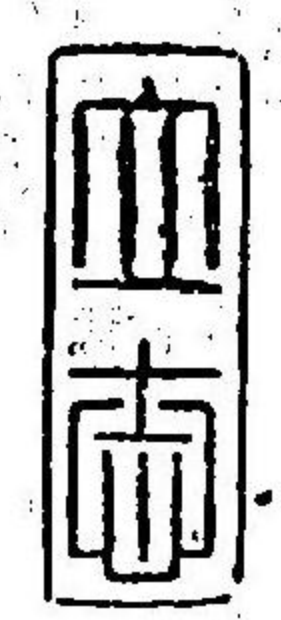
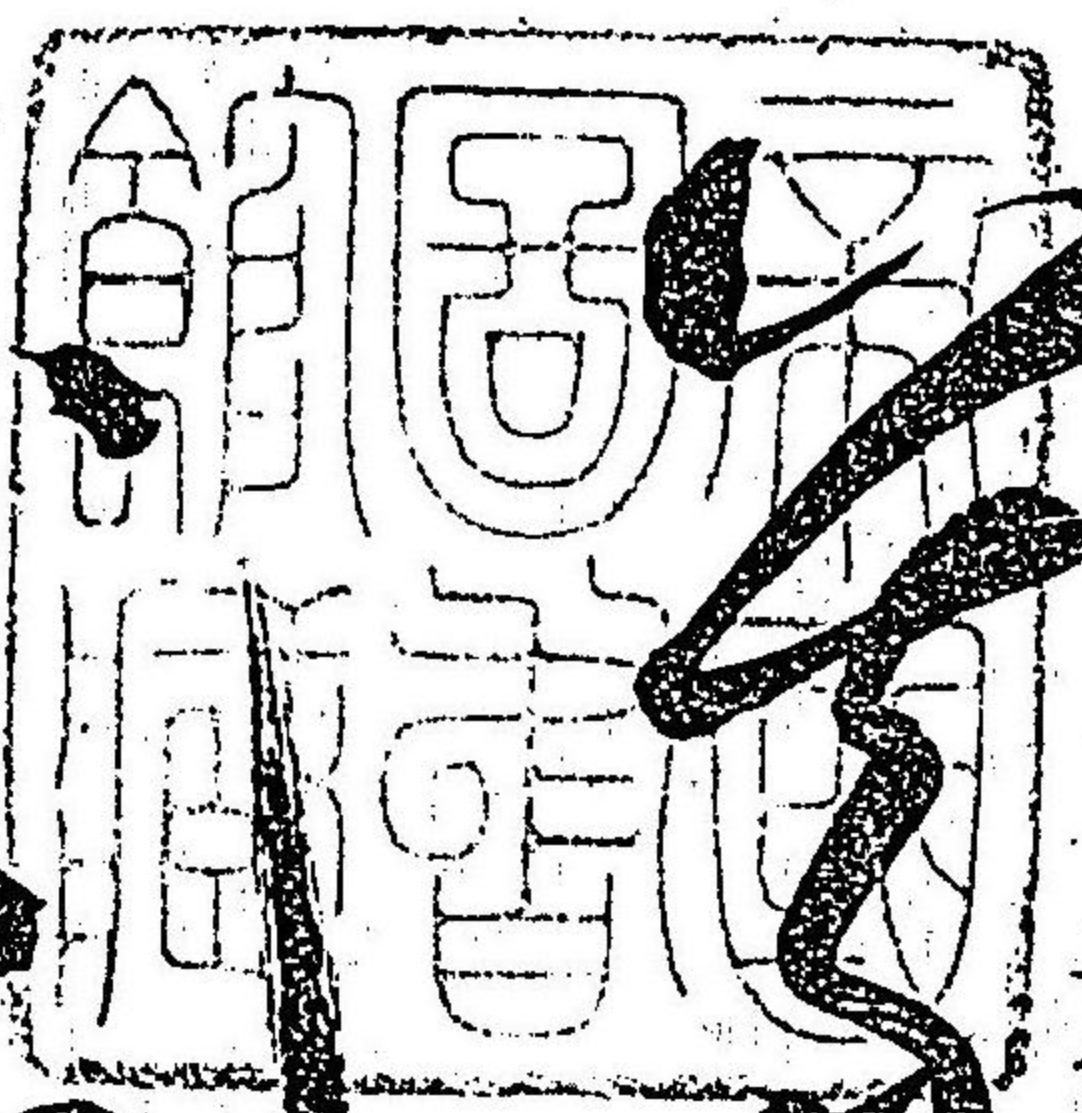


不
物
家
以
名
氏



明正一年季秋

鍾汝旌治



我知世世誰能解
官報坊刻亦無在
乃藉以書其書
其法理直研之

民國二十一年冬月

海山樓



我邦法典註釋義解
官報坊刻字多矣茲如
戶籍法考之書亦多惟
要法理直解之人儻取

山村盡之為西島利
事北島尾崎二君者
見于此以者著戶籍
法家解其書大簡通

疏解或如指法者獨
不要直解之人為益
而已抑史事在戶籍者
實動澤田之留戶所

善法不可得也其出書
誠之謂用也也也
然其者之意也此也
哉嗚呼厥極彼法典之

之也亦律一守証而為
序

明正三年九月下院

從五位石川重玄



戶籍法義解目次

○第一章 戶籍吏及ヒ戶籍役場

○第二章 身分登記簿

○第三章 登記手續

○第四章 身分ニ關スル届出

第一節 通則

第二節 出生

第三節 嫡出子否認

第四節 私生子認知

第五節 養子縁組

第六節 養子縁縁

第七節 婚姻

第八節 離婚

第九節 後見

第十節 隠居

一

一一

一九

四六

四六

六九

九三

九五

一〇五

一二五

一三七

一五一

一五八

一七〇

第十一節	失踪	一八〇
第十二節	死亡	一八七
第十三節	家督相續	一九七
第十四節	推定家督相續人ノ廢除	二〇九
第十五節	家督相續人ノ指定	二一五
第十六節	入籍離籍及ヒ復籍拒絕	二二〇
第十七節	廢家及ヒ絶家	二三六
第十八節	分家及ヒ廢絶家再興	二四一
第十九節	國籍ノ得喪	二四六
第二十節	氏名及ヒ族稱ノ變更	二六二
第二十一節	身分登記ノ變更	二六八
第五章	戶籍簿	二七一
第六章	戶籍ノ記載手續	二七六
第七章	戶籍ニ關スル届出	三〇〇
第八章	抗告	三一四

第九章 罰則

○身分登記及戶籍ニ關スル届出申請書式

出生届(嫡出子ノ例)	一	四
全 (私生子ノ例)	一	五
全 (庶子ノ例)	一	五
全 (庶子ノ父ノ家ニ入ルコトヲ得サル例)	一	六
全 (父ノ未定ナル例)	二	六
全 (父ノ定マリタル例)	二	七
養兒發見届	二	七
全 調査	二	七
養兒引受届	三	七
出生届(養兒引取ノ例)	三	八
出生口頭届出調査	三	八
嫡出子否認届	三	八
私生子認知届	四	〇
全 (死亡ノ例)	四	〇
全 (胎兒ノ例)	四	〇
私生子認知登記取消申請	一	四
養子縁組届	一	五
全 (養家ヨリ更ニ養子ノ例)	一	五
全 (婚家ヨリ更ニ養子ノ例)	一	六
全 (遺言ニ因ル例)	一	六
養子縁組登記取消申請(裁判ニ因ラサルトキノ例)	二	七
全 (裁判ニ因リタルトキノ例)	二	七
養子離縁届(協議離縁ノ例)	二	七
全 (裁判ニ因ル離縁ノ例)	二	七
婚姻届	三	七
全 (入夫婚姻ノ例)	三	八
離婚届(協議離婚ノ例)	三	八
全 (裁判ニ因ル離婚ノ例)	三	九
後見開始届	四	〇
後見人届(後見人更迭ノ例)	四	〇

後見人任務終了届	一〇	離籍届	一五
隠居届	一一	全 (離籍セラルル者ト共ニ家ヲ去ル者アルキノ例)	一五
隠居取消申請	一一	全 (戸主ノ同意ヲ得スシテ養子ヲ爲シタル者ノ例)	一五
失踪届	一一	離籍ニ付キ一家創立届	一六
失踪取消申請	一一	復籍拒絶届	一六
死亡届	一二	復籍拒絶ニ付一家創立	一六
家督相續届	一二	復籍スヘキ家ノ廢家(絶家)ニ付一家創立届	一七
全 (家督相續回復ニ付届出ノ例)	一二	廢家届	一七
全 (相續人胎兒ノ例)	一二	絶家及ヒ一家創立届	一七
家督相續取消申請	一三	分家届	一七
推定家督相續人廢除届	一三	絶家再興届	一八
指定家督相續届	一三	國籍取得届(縁組ニ因リ國籍取得ノ例)	一八
入籍届	一三	全 (認知ニ因リ國籍取得ノ例)	一九
家督相續人指定取消届	一四	全 (歸化ノ例)	一九
指定家督相續届(遺言執行者ヨリ届出ノ例)	一四	國籍喪失届	一九
家督相續人指定取消届(全)	一四	國籍回復届	一九
家督相續人指定登記取消申請(被相續人ヨリ申請ノ例)	一四	名變更届	二〇
入籍届(私生子ノ例)	一四	氏復舊届	二〇
全 (自己ノ親族ヲ婚家ノ家族ト爲スノ例)	一五	族稱變更届	二〇

身分登記變更申請	二〇
轉籍届(戸籍吏ノ管轄地外ヘ轉籍ノ例)	二〇
本籍地變更届(戸籍吏ノ管轄地内ニ於テ本籍變更ノ例)	二〇
就籍届	二一
除籍届	二二
〇戸籍法取扱手續(司法省訓令第五號)	二三

戸籍法目次(終)

戸籍法

第一章 戸籍吏及ヒ戸籍役場

第一條 戸籍及ヒ身分登記ニ關スル事務ハ戸籍吏之ヲ管掌シ戸籍役場ニ於テ之ヲ取扱フ

本條ハ如何ナル人カ如何ナル所ニ於テ戸籍及ヒ身分登記ニ關スル事務ヲ取扱フカヲ定メタルモノナリ

戸籍ニ關スル事務ハ第七十條乃至第二百二條ニ於テ之ヲ規定シ身分登記ニ關スル事務ハ第七條乃至第六十九條ニ於テ之ヲ定メタリ此等戸籍及ヒ身分登記ニ關スル事務ハ戸籍吏ニ於テ之ヲ支配スルモノナレハ濫リニ他人ニ委任スルコトヲ得ス若シ此規定ニ背キ其責任ヲ忽ニスルトキハ第二百十二條乃至第二百十三條等ニ依リ罰セラレ他人ノ爲シタル事ナレハ其失策ハ我之ヲ知ラスト云フカ如キコトハ之ヲ許サス又其事務ハ戸籍役場ニ於テ之ヲ取扱フモノナレハ私宅又ハ役場外ニ於テ之ヲナスヲ許サザルナリ

第二條 市町村長ヲ以テ戸籍吏トス但區ヲ置キタル市ニ於テハ區長ヲ以テ之ニ充

○第一章 戸籍吏及ヒ戸籍役場 第一條、第二條

ツルコトヲ得

本條ハ戶籍吏ハ市町村長及區長ヲ以テ戶籍吏トナス旨ヲ定メタルモノナリ
戶籍吏ハ市町村長ノ資格ヲ有スル者又區長ヲ置キタル市ニ於テハ區長ノ資格ヲ有スル
者ニアラザレハ之ニ當ルコトヲ得ス助役又ハ書記カ第三條ノ例外及ヒ代理トシテ職
務ヲ執ル場合ハ格別ナリトス戶籍吏ハ市町村長及區長ノ資格ヲ有スルコトハ必要ナ
レハ市町村長及區長トハ全ク別物ニシテ彼此互ニ其職務ノ性質ヲ異ニスル故必ス混
同ナキヲ要ス戶籍及身分ノコトヲ取扱フトキ市町村長ト云ハスシテ戶籍吏ト稱スル
ナリ

但書ニ區長ヲ置キタル市トハ例セハ東京市ノ麹町區日本橋區京橋區等ノ如キ大坂市ノ
東區北區等ノ如キ是ナリ此等諸區ニハ例レモ區長ヲ置キ區役所アルヲ以テ區長ハ戶
籍吏トナルヲ得ルナリ然レモ市長自ラ戶籍吏タルハ當然ナレハ區長ヲ以テ戶籍吏ニ
充ツル旨ノ命令ナキ以上ハ市長ニ於テ戶籍吏ノ事務ヲ執ラサル可カラス

市町村長ヲ置カサル地ニ於テハ市町村長ノ職務ヲ行フ吏員ヲ以テ戶籍吏ト爲ス(第二
百十六條)

第三條 戶籍吏又ハ之ト家ヲ同シクスル者ノ戶籍又ハ身分登記ニ關スル事件ニ付

テハ市町村長又ハ區長ノ事務ヲ代理ス可キ者戶籍吏ノ職務ヲ行フ

戶籍吏又ハ之ト家ヲ同シクスル者ト前項ノ規定ニ依リ戶籍吏ノ職務ヲ行フヘキ
者又ハ之ト家ヲ同シクスル者トノ戶籍又ハ身分登記ニ關スル事件ニ付テハ市ニ
在リテハ市參事會員ノ一人町村又ハ區長ニ在リテハ他ノ吏員ノ上席者戶籍吏ノ職
務ヲ行フ

本條ハ助役其他ノ吏員カ戶籍吏ノ職務ヲ行フヘキ場合ヲ規定セリ

一 項 戶籍吏又ハ戶籍吏ト家ヲ同シクスル子孫兄弟父母ノ如キ者ノ戶籍又ハ身分登
記ニ關スル事件ニ付テハ市町村長又ハ區長ノ事務ヲ代理ス可キ市參事會員助役又
ハ區長代理者ニ於テ之ヲ爲ス可キモノトス

二 項 戶籍吏又ハ戶籍吏ト同家ノ父母兄弟子孫ト前項ノ助役又ハ其同家ノ父母兄弟
子孫ニ關スル戶籍又ハ身分登記ハ市ニ在リテハ市參事會員ノ一人町村又ハ區長ニ在
リテハ書記ノ上席者ノ如キ者之ヲ取扱フ可キモノトセリ例セハ戶籍吏カ婚姻シタ
ル届出ノ如キ(戶籍吏ノ身分登記ノ例)戶籍吏ノ弟カ他家ノ養子ト爲リタル届出ノ如
キ(戶籍吏ト家ヲ同フスル者ノ例)其登記ハ助役ニ於テ之ヲナス可キモノナリ

○第一章 戶籍吏及ヒ戶籍役場 第三條

第二項ハ戸籍吏カ助役ノ妹ヲ娶リタルカ如キ(戸籍吏ト戸籍吏ノ職務ヲ行フ者ノ家族トノ間ニ生シタル例)戸籍吏ノ娘カ助役ノ子ト婚姻シタルカ如キ(戸籍吏ノ家族ト戸籍ノ職務ヲ行フ者ノ家族間ニ生シタル例)其届出事務ノ登記ハ市ニ在リテハ市參事會員ノ一人町村又ハ區ニ在リテハ上席ノ書記之ヲ取扱フナリ

第一項ト第二項ト異ナル點ハ第一項ハ戸籍吏又ハ其家ヲ同フスル父母兄弟子孫ノ戸籍身分ニ關スル規定ニシテ自家ノミニ關スルト又ハ戸籍吏ノ事務ヲ代理スル助役市參事會員書記以外ノモノト婚姻養子縁組離婚等ノ關係ヲ生シタル場合ヲ規定ス第二項ハ戸籍吏又ハ其家ヲ同フスル父母兄弟子孫ト戸籍ノ事務ヲ代理スル助役市參事會員書記又ハ其家ヲ同スル父母兄弟子孫トノ間ニ婚姻養子縁組等ノ關係ヲ生シタル場合ニシテ要スルニ何レモ自家ノ身分ニ關スル事務柄ナレハ公平ヲ維持スルタメ取扱フコトヲ禁シタルモノナリ

本條ニ家ヲ同クスルトハ同一戸主ノ下ニ在ルヲ云フ例ハ戸籍吏カ戸主ナレハ其下ニ在ル父母兄弟姊妹ノ如キ父カ戸主ナレハ其下ニ在ル戸籍吏及ヒ其他ノ家族ノ如キ場合ヲ云フ故ニ假令ハ父母子孫兄弟ニテモ同一戸主ノ下ニ在ラスシテ他家ノ妻養子トナリタル身分ニ關スル事務ハ之ヲ取扱フモ妨グナシ

市町村長區長ノ事務ヲ代理ス可キモノハ市制第六十條第六十九條町村制第七十條第六十三條ニ於テ規定シ町村區ノ他ノ吏員トハ町村助役町村書記及ヒ區長代理者ヲ云フ

市町村長ノ職務ヲ行フヘキ吏員ノ事務ヲ代理スヘキ者ナキ地又ハ市參事會員其他戸籍吏ノ職務ヲ行フヘキ吏員ナキ地ニ於テハ監督區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ノ長司法大臣ノ認可ヲ得テ豫メ其事務ヲ代理スヘキ者ヲ定ム

本條ハ戸籍吏ノ職務ヲ代理スル場合ト混スヘカラス戸籍吏自身ノ身分ニ關係スルトキハ自カラ其職務ヲ取扱フ能力ナキモノトシ市町村長ノ職務ヲ代理スヘキ助役等ハ當然戸籍吏ノ職務ヲ執ルモノナレトモ戸籍吏病氣其他ノ事故ニテ助役等カ戸籍吏ノ職務ヲ執ルトキハ之レヲ代理ト稱シ其旨ヲ記載スヘキモノトス

(參照)市制第六十條 凡ソ市ハ處務便宜ノ爲メ市參事會ノ意見ヲ以テ之ヲ數區ニ分テ每區々長及其代理者各一名ヲ置クコトヲ得

區長及其代理者ハ名譽職トス但東京京都大坂ニ於テハ區長ヲ有給吏員ト爲スコトヲ得

區長及ヒ其代理者ハ市會ニ於テ其區若クハ隣區ノ公民中選舉權ナ有スルモノヨリ之ヲ選舉ス區會(第一百

三條)ヲ設クル區ニ於テハ其區會ニ於テ之ヲ選舉ス但東京京都大坂ニ於テハ市參事會之ヲ選任ス

東京京都大坂ニ於テ前條ニ依リ區ニ附屬員並ニ市長ヲ置クコトヲ得

全 第六十九條 市參事會員ハ市長ノ職務ヲ補助シ市長故障アルトキハ之ヲ代理ス

○第一章 戸籍吏及ヒ戸籍役場 第三條

市長ハ市會ノ同意ヲ得テ市參事會員ヲシテ市行政事務ノ一部ヲ分掌セシムルコトヲ得此場合ニ於テハ名譽職會員ハ職務取扱ノ爲メニ要スル實費辨償ノ外勤務ニ相當スル報酬ヲ受クルコトヲ得
市條例ヲ以テ助役及名譽職會員ノ特別ナル職務並ニ市長代理ノ順序ヲ規定ス可シ若シ條例ノ規定ナキトキハ府縣知事ノ定ムルニ從ヒ上席者之ヲ代理ス可シ

町村制第六十三條

町村ニ書記其他必要ノ附屬員並便丁ヲ置キ相當ノ給料ヲ給ス其人員ハ町村會ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム

但町村長ニ相當ノ書記料ヲ給與シテ書記ノ事務ヲ委任スルコトヲ得

町村附屬員ハ町村長ノ聽選ニ依リ町村會之ヲ選任シ使丁ハ町村長之ヲ任用ス

全 第七十條

町村助役ハ町村長ノ事務ヲ補助ス

町村長ハ町村會ノ同意ヲ得テ助役ヲシテ町村行政事務ノ一部ヲ分掌セシムルコトヲ得

助役ハ町村長故障アルトキ之ヲ代理ス助役數名アルトキハ上席者之ヲ代理ス可シ

第四條 戶籍役場ハ市役所又ハ町村役場ヲ以テ之ニ充ツ但區長ヲ以テ戶籍吏ニ充

ツル場合ニ於テハ區役所ヲ以テ之ニ充ツ

本條ハ如何ナル所ヲ以テ戶籍役場トスルガテ規定セリ

戶籍役場ハ戶籍身分ニ關スル事務ヲ取扱フ所ニシテ市役所又ハ町村役場ヲ以テ之ニ充テ區長カ戶籍吏タル場合ニハ區役所ヲ以テ充ツルコトトセリ故ニ市役所區役所又ハ町村役場以外ノ所ニテハ戶籍身分ニ關スル事務ヲ取扱フコトヲ得サルナリ此規定

ハ便宜ヨリ來リタルモノニシテ市町村長及ヒ區長ハ同時ニ戶籍吏タルモノナレハ若シ市町村役場ト戶籍役場トヲ異ニスルルトキハ執務上不便ヲ來ステ以テナリ市町村長ヲ置カサル地ニ於テハ市町村長ノ職務ヲ行フ吏員ノ役場ヲ以テ戶籍役場トス第二百十六條第一項

第五條 戶籍及ヒ身分登記ニ關スル事務ハ戶籍役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ一人ノ判事又ハ監督判事之ヲ監督ス

戶籍及ヒ身分登記ニ關スル事務ノ監督ニ付テハ司法行政ノ監督ニ關スル規定ヲ準用ス

本條第一項ハ戶籍及ヒ身分登記ニ關スル事務ノ監督ハ如何ナル人カ之ヲ爲スヘキカヲ規定シ第二項ハ其事務ノ監督ハ如何ニシテ之ヲナス可キカヲ定メタルモノナリ
一項 戶籍及ヒ身分登記ニ關スル事務ハ一般ノ司法行政ノ區劃ニ從ヒ戶籍役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ判事ニ於テ之ヲ監督ス可キ旨ヲ定メタルモノニシテ從來行政部ニ於テ監督シタルモノヲ司法部ニ移シタルモノナリ本項ニ一人ノ判事又ハ監督判事ト云フハ裁判所構成法第十一條末項ニ判事二人ヲ置キタル區裁判所ニ

○第一章 戶籍吏及ヒ戶籍役場 第四條、第五條

於テハ司法大臣ハ其一人ヲ監督判事トシ之ニ其行政事務ヲ委任ス「トアリテ判事二人以上ノ區裁判所ニハ必ス監督判事アレトモ判事一人ノ區裁判所ハ單ニ一人ノ判事ト稱スルナリ

二項 戶籍及身分登記ニ關スル事務ノ監督ハ司法行政ノ監督ニ關スル規定ニ依ル可キ旨ノ定メニシテ裁判所構成法ノ規定スル處ナリ司法行政ノ監督ニ關スル最高ノ機關ハ司法大臣ニシテ即司法大臣ハ大審院及各控訴院ヲ各控訴院ハ其所轄内ノ各地方裁判所ヲ各地方裁判所ハ又其管轄内ノ各區裁判所ヲ各區裁判所ハ各其管轄内ノ各戶籍役場ヲ漸次ニ監督スルヲ云フ大審院ハ最上ノ裁判所ナレモ司法行政ニ關シテハ院自ラノ行政事務ノ外管轄區域内ニ關スル行政事務ノ監督ナシ爰ニ司法行政ノ事務トハ裁判事務ニ對スル名稱ニシテ裁判事務ハ相互獨立ニシテ行政事務トハ大ニ其性質ヲ異ニスレトモ事範圍外ニ涉ルヲ以テ説明セス準用トハ便宜斟酌シテ應用スルト云フ意義ニシテ各條ノ規定ヲ其儘引用スルヲ得サルトキハ多少ノ變化ヲ以テ當テ欲メルヲ云フ然レモ杓子定木トナラサルコトニ注意ス可シ

(參照)裁判所構成法第百三十四條 合議裁判所長區裁判所ノ判事若クハ監督判事持事長持事正ハ司法大臣ノ由テ以

テ司法行政ノ職務ヲ行フノ官吏トス

全 第百三十五條 司法行政監督權ノ施行ハ左ノ規程ニ依ル

第一 司法大臣ハ各裁判所及各檢事局ヲ監督ス

第二 大審院長ハ大審院ヲ監督ス

第三 控訴院長ハ其控訴院及其ノ管轄區域内ノ下級裁判所ヲ監督ス

第四 地方裁判所長ハ其ノ裁判所若クハ其ノ支部及其ノ管轄區域内ノ區裁判所ヲ監督ス

第五 區裁判所ノ一人ノ判事若クハ監督判事ハ其ノ裁判所所屬ノ書記及執達吏ヲ監督ス

第六 檢事總長ハ其ノ檢事局及下級檢事局ヲ監督ス

第七 檢事長ハ其ノ檢事局及其局ノ附置セラレタル控訴院管轄區域内ノ檢事局ヲ監督ス

第八 檢事正ハ其ノ檢事局及其ノ局ノ附置セラレタル地方裁判所管轄區域内ノ檢事局ヲ監督ス

全 第百三十六條 前條ニ掲ケタル監督權ハ左ノ事項ヲ包含ス

第一 官吏不適當又ハ不充分ニ取扱ヒタル事務ニ付其注意ヲ促シ並ニ適當ニ其ノ事務ヲ取扱フ「
ナ之ニ訓令スル事

第二 官吏ノ職務上ト否トニ拘ラス其ノ地位ニ不相應ナル行狀ニ付キ之ニ警告スル事

但シ其警告ヲ爲ス前其ノ官吏ヲシテ聲明ヲ爲スコトヲ得セシムヘシ

全 第百三十七條 第十八條及第八十四條ニ掲ケタル官吏ハ第百卅五條ニ依リ行フヘキ監督ヲ受クル官吏中ニ之ヲ包含ス

全 第百三十八條 裁判所若クハ檢事局ノ官吏ニシテ適當ニ其ノ職務ヲ行ハサル者又ハ其ノ行狀其ノ地位ニ不相應ナル者

ニ付第百三十六條ヲ適用スルコト能ハサルトキハ懲戒法ニ從ヒテ之ヲ訴追ス

第一章 戶籍吏及ヒ戶籍役場 第五條

全 第三百三十九條 前數條ニ掲ケタル司法行政ノ職務及監督權ハ列事若ハ檢事其ノ官吏タルノ資格又ハ其ノ他ノ資格ヲ以

テ爲シタル事ヲ對シテ起リタル請求ニ付其ノ請求ヲ滿足セシムル爲メ之ヲ執行スルヲ得ス

全 第四百十條 司法事務取扱ノ方法ニ對スル抗告殊ニ或事務ノ取扱方ニ對シ又ハ取扱ノ延滞若ハ拒絕ニ對スル抗告ハ此

ノ編ニ掲ケタル司法行政ノ職務及監督權ニ依リ之ヲ處分ス

全 第四百十一條 裁判所及檢事局ハ司法大臣又ハ監督官アル列事若クハ檢事ノ要求アルトキハ法律上ノ事項又ハ司法行政

政ニ關スル事項ニ付意見ヲ述フ

第六條 戶籍吏カ其職務ノ執行ニ付キ届出人其他ノ者ニ損害ヲ加ヘタルトキハ其損害カ戶籍吏ノ故意又ハ重大ナル過失ニ因リテ生ジタル場合ニ限り之ヲ賠償スル責ニ任ス

本條ハ戶籍ノ職務ノ執行ニ付損害ノ責任ヲ負フ可キ場合ヲ規定シタルモノナリ

例ヘハ戶籍吏カ第四百十條ニ依リ届出人カ指定シタル外ノ家督相續人ヲ故意ヲ以テ

登記シ又ハ見易キ誤リヲ釀シ他人ヲ登記シタルカ爲メ届出人又ハ眞實指定相續人ニ

損害ヲ蒙ラシメタルトキハ之ヲ賠償セサル可ラス

本條ニ故意トハ知りツ、不正ノコトヲ爲スヲ云ヒ重大ナル過失トハ何人カ見テモ甚

クシキ誤リヲ云フ而シテ重大ナルヤ否ハ事實ノ問題ナレハ時ト場合トニヨリ之ヲ定

メサル可カラス

第二章 身分登記簿

第七條 身分登記簿ハ本籍人身分登記簿及ヒ非本籍人身分登記簿ノ二種トシ各正副二本ヲ備フ

各種ノ登記簿ハ第四章第二節乃至第二十一節ニ掲ケタル届出事件ノ區別ニ從ヒ各別冊ト爲ス但便宜ニ依リ之ヲ合綴スルコトヲ得

本條第一項ハ身分登記簿ノ種類ヲ定メ第二項ハ其編綴方ヲ定メタルモノナリ

一項 登記簿ノ種類ハ分テ二種ト爲シ一ヲ本籍人身分登記簿ト云ヒ二ヲ非本籍人身

分登記簿ト云フ本籍人身分登記簿トハ登記ス可キ戶籍役場ノ管轄内ニ本籍ヲ有ス

ル人ノ身分ヲ登記スル帳簿ニシテ非本籍人身分登記簿トハ登記ス可キ戶籍役場管

轄内ニ本籍ヲ有セシテ寄留中滞在中又ハ偶然ニ身分上ノ變動ヲ來タシタル場合ニ

其出來事ヲ其地ニ於テ登記スル帳簿ナリ例セハ寄留中他家ノ養子トナリタルカ如

キ旅行中子ヲ産ミタル如キ偶然死屍ノ漂着シタル如キ何レモ其事實ノ生ジタル地

ニ於テ届出若ハ報告アルトキハ非本籍人身分登記簿ニ登記スルナリ要スルニ第一

○第二章 身分登記簿 第七條

種ハ通常ノ身分登記簿ニシテ第二種ハ變例ノ身分登記簿ナリ以上兩種類ノ身分登記簿ハ何レモ正本副本ノ二通ヲ備ヘ置カサル可ラス

二項 二種ノ登記簿ハ第四章第二節乃至第二十一節ニ掲ケタル出生、嫡出子、否認、私生子、認知、養子、縁組等届出事件ノ區別ニ從ヒ各別冊トナス可キモノナレド宜ニ依リ之ヲ合綴スルハ妨ケナシ

第八條 身分登記簿ハ一年毎ニ之ヲ編製ス

本條ハ身分登記簿ノ編製年限ヲ定メタルモノニシテ毎年之ヲ調製セサル可ラス是レ取扱ニ便利ナル爲メ此規定ヲ設ケタルモノナラン

第九條 戶籍吏ハ豫メ翌年ノ身分登記簿ト爲スヘキ帳簿ヲ作り監督官ノ契印ヲ請フコトヲ要ス

監督官カ帳簿ノ送付ヲ受ケタルトキハ職印ヲ以テ每葉ノ綴目ニ契印シ表紙ノ裏面ニ其枚數ヲ記シ職氏名ヲ署シ職印ヲ押捺シテ之ヲ戶籍吏ニ還付スルコトヲ要ス

本條ハ戶籍吏ノ身分登記簿トナス可キ帳簿ヲ作ル手續ヲ定メタルモノナリ

一項 戶籍吏ハ前以テ翌年使用スル身分登記簿トナスヘキ帳簿ヲ作り監督官タル區

裁判所ノ一人ノ判事又ハ監督判事ノ契印ヲ受ケサル可ラス此手續ヲナサザルトキハ身分登記簿トシテ使用スルヲ得サルナリ

二項 右監督官カ戶籍吏ヨリ帳簿ノ送付ヲ受ケタルトキハ職名ノ記載アル印ヲ用イ一枚毎ニ其綴目ニ契印ヲナシ表紙ノ裏ニ紙數ヲ記シ其職名及氏名ヲ書シ職印ヲ押シ之ヲ戶籍吏ニ返付セザル可カラズ

副本ニモ亦皆此手續ヲ踏ムヘキモノニ付注意ス可シ

第十條 身分登記簿ノ用紙力不足ナルトキハ戶籍吏ハ更ニ帳簿ヲ作りテ契印ヲ請フコトヲ要ス

本條ハ身分登記簿ノ用紙力不足ニ至リタルキトノ場合ニ應スル規定ナリ

身分登記簿ノ用紙力不足スルトキハ戶籍吏ハ更ニ帳簿ヲ作り前條ト全シク監督官ノ契印ヲ請ハサル可ラス監督官ハ前條第二項ノ手續ヲ爲シ之ヲ戶籍吏ニ返付スルコトヲ要スルナリ

第十一條 身分登記簿ノ正本ハ永久ニ之ヲ戶籍役場ニ保存スルコトヲ要ス

登記ヲ終結シタル身分登記簿ノ副本ハ遲滞ナク之ヲ監督區裁判所ヲ管轄スル地

方裁判所ニ納付スルコトヲ要ス

地方裁判所ハ其納付ヲ受ケタル身分登記簿ノ副本ヲ永久ニ保存スルコトヲ要ス
本條ハ身分登記簿ノ處分方ヲ定メタルモノナリ

一 項 身分登記簿ノ正本ハ無期永久ニ之ヲ戶籍役場ニ保存ス可キコトヲ規定シタル
モノニシテ元來人ノ身分ハ一時限リノモノニアラス數代ニ逆リテ親等ノ順序ヲ定
ムルカ如キ場合ニハ身分登記簿ニ依ラサル可ラス若シ身分登記簿ノ保存セラレザ
ルニ於テハ他日相續等ニ付争ノ起リタル場合ニ大ニ不便ヲ感スルコトアル可シ是
レ永久ノ保存ヲ必要トスル所以ナリ

正本トハ届出書報告書等ニ依リ登記セラレタル原本ニシテ副本トハ原本ニヨリ全
時ニ謄寫シタルモノナリ(第三十九條第一項)

二 項 登記ノ終結ハ年ノ終リニ於テ之ヲ爲シ其終結シタル身分登記簿ノ副本ハ猶豫
ナク監督區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ニ納付スルコトヲ要スルナリ

三 項 右身分登記簿ノ納付ヲ受ケタル地方裁判所ハ其副本ヲ永久ニ保存セサル可ラ
ス
遲滞ナクトハ猶豫ナクト云フ意ニシテ納付トハ監督ノ權アル官廳ニ送付スルヲ云

第十二條 身分登記簿ハ事變ヲ避クル爲メニスル場合ヲ除ク外之ヲ戶籍役場ニ持

出スコトヲ得ス但登記ヲ終結シタル登記簿ニ付キ裁判所又ハ豫審判事ノ命令ア
リタルトキハ此限ニ在ラス

本條ハ或場合ヲ除ク外身分登記簿ハ戶籍役場外ニ持出スコトヲ得サル旨ヲ定メタリ
身分登記簿ハ人ノ身分ヲ登記シタル大切ノ帳簿ナレハ紛失ヲ防キ書入抹消等ノ憂ヲ
生スルカ如キ場合ハ嚴重ニ取締ラサル可ラサルヲ以テ役場外ニ持出スコトヲ禁シタ
ルナリ然レトモ左ノ場合ニ於テハ例外トシテ持出スコトヲ許セリ

(一) 事變ヲ避クルトキ、火災洪水等ノ如キ事變ノ生シタル場合ニハ燒失流失ヲ防ク爲メ
帳簿ヲ外へ持出スノ要アルヲ以テナリ

(二) 裁判所又ハ豫審判事ノ命令アリタルトキ、爰ニ裁判所ト豫審判事トヲ區別シタルハ
其性質ヲ異ニスルニ由ル判事ノ命令ハ凡テ裁判所判事ヲ代表シテ之ヲ爲シ豫審判事ノ
命令ハ單獨ニ豫審判事タルノ資格ニ於テ之ヲ爲スヲ以テナリ而シテ裁判所ガ民事
若クハ刑事事件ニ付キ身分登記簿ヲ証據トシテ取調フルノ必要アルトキ又ハ豫審

判事カ刑事々件取調ノ証據トシテ取調フルノ必要アルトキハ戶籍役場へ照會シテ之ヲ取寄スルコトヲ得ルナリ此等ハ元來官吏ノ取調ナレハ前述スル紛失抹消書入等ノ恐ナキノミナラス實際民刑事事件ノ取調上必要ナルニ因ル然レトモ未ダ終結セサル登記簿ニ付テハ仮へ裁判所若クハ豫審判事ノ命令ト雖トモ之ヲ送付スルニ及ハサルナリ何トナレハ終結セサル帳簿ハ日々記入シツ、在ルモノナレハ若シ外へ持出ストキハ其間執務ヲ中止セサルヲ得サルニ至ル可クハナリ此點ハ(一)ノ場合ト異ナルヲ以テ能ク注意ス可シ

第十三條 何人ト雖手数料ヲ納付シテ身分登記簿ノ閱覽又ハ登記ノ謄本若クハ抄

本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スル者アルトキハ戶籍吏之ヲ作り原本ト相違ナキ旨ヲ附記シ職氏名ヲ署シ職印ヲ押捺シテ交付スルコトヲ要ス

手数料ノ外郵送料ヲ納付シテ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スル者アルトキハ戶籍吏之ヲ送付スルコトヲ要ス

戶籍吏カ閱覽又ハ交付ノ請求ヲ許サ、ル場合ニ於テハ書面ヲ以テ其旨ヲ請求者

ニ告知スルコトヲ要ス

本條ハ何人ト雖モ身分登記簿ノ閱覽又ハ登記ノ謄本抄本ノ交付ヲ求ムルコトヲ得ル旨ヲ規定シタルモノニテ第二項以下ハ其細則ヲ定メタルモノナリ

一項 何人ト雖モ手数料ヲ納付スルルハ身分登記簿ヲ閱覽シ又ハ或ル部分ノ登記ノ謄本抄本ヲ求ムルコトヲ得可シ是レ民法ノ親族及相続ノ規定ニ關シテ一般人ニ利害ノ關係ヲ及ホスコトアルヘキヲ以テナリ例ヘハ甲カ乙ニ金ヲ貸サント欲シ乙ノ未成年ナルヤ否ヤ若シ未成年ナリトセハ后見人ヲ有スルヤ否ヤ又ハ戶主ナルヤ否ヤヲ取調フルカ如キ甲ノ身ニ取リテハ大ニ利害ノ關係ヲ有スルカ如シ爰ニ登記ノ謄本ト云フハ自己ノ要スル部分ノ全部ノ寫シニシテ抄本トハ必要ナル事項ノ拔書ナリ官吏公吏カ其職務ヲ以テ身分登記簿、戶籍簿ノ閱覽又ハ其謄本若クハ抄本ヲ求ムルトキハ手数料等ヲ要セス(司法省訓令第五號第十三條)

二項 本項以下ハ第一項ノ細則ニシテ寫シ又ハ拔書ノ交付ヲ求ムル者アルトキハ戶籍吏之ル作り末尾ニ原本ト相違ナキ旨ヲ附記シ戶籍吏何ノ某ト書シ職印ヲ押捺シテ之ヲ交付セサル可ラス是レ寫シ又ハ拔書ノ真正ナルコトヲ保証スルナリ

三項 本項ハ謄本又ハ抄本ヲ求ムルニハ必ス自ラ戶籍役場ニ出頭シテ爲スヲ要セス

○第二章 身分登記簿 第十三條

手數料ノ外郵送料ヲ納ムルトキハ之ヲ交付セサル可ラサルコトヲ規定シタルモノナリ

四項 戶籍吏カ登記簿ノ閱覽又ハ謄本抄本ノ交付ヲ許サザル場合ニ於テハ書面ヲ以テ其旨ヲ請求者ニ通知セサル可ラス是レ第二百三條ニ因リ請求者ヨリ抗告ヲ爲サント欲スルトキハ口頭ノ通知ニテハ戶籍吏ノ許サザル証據ヲ取調フルニ困難ナレハナリ

第十四條 身分登記簿ノ全部又ハ一部カ滅失シタルトキハ司法大臣ハ其旨ヲ告示シ且身分登記簿ノ再製又ハ補完ニ付キ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ要ス

本條ハ身分登記簿ノ全部又ハ一部カ滅失シタル場合ニ司法大臣ノ爲スヘキ處分ヲ定メタルモノナリ

身分登記簿カ火災洪水其他ノ事變ニテ全部又ハ一部カ滅失シタルトキハ最上監督ノ任アル司法大臣ハ其滅失シタル旨ヲ告示シ全部失ヒタルトキハ再製ヲ命シ一部失ヒタルトキハ其部分ヲ補フ可キコトヲ命シ之レヲ達スルニ付テ必要ナル處分ヲ命セサル可ラス必要ナル處分トハ其時ノ事情ニ因リ異ルモ豫テ地方裁判所ニ納付シタル副本ニ因リ再製シ之ヲモ滅失シタルトキハ區裁判所ニ保存スル身分ニ關スル書類ニ

依リ補完ヲ命スルカ如シ

第二章 登記手續

第十五條 身分登記簿ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ爲ス

- 一 戶籍吏カ身分ニ關スル届出ヲ受ケ又ハ其届書ノ送付ヲ受ケタルトキ
- 二 戶籍吏カ身分ニ關スル報告ヲ受ケタルトキ
- 三 戶籍吏カ身分ニ關スル證書ノ謄本ヲ受ケ又ハ其謄本ノ送付ヲ受ケタルトキ
- 四 戶籍吏カ身分ニ關スル事項ヲ記載シタル航海日誌ノ謄本ノ送付ヲ受ケタルトキ

五 戶籍吏カ登記ノ取消又ハ變更ノ申請若クハ請求ヲ受ケタルトキ

六 戶籍吏カ登記ヲ爲スヘキ旨ノ裁判ヲ受ケタルトキ

本條ハ身分登記ヲ爲ス場合ヲ定メタルモノナリ而シテ其場合ヲ分テ六ト爲ス

(一) 戶籍吏カ直接ニ届出義務者ヨリ届出ヲ受クルハ通例ノ場合ナレハ別ニ説明ヲ要セスト雖トモ其届書ノ送付ヲ受ケタルトキハ第三十三條乃至第三十五條及ヒ第

○第二章 身分登記簿第十四條 第三章 身分登記簿第十五條 一九

六十一條ノ場合ニシテ本籍地外ノ戸籍役場ニ届書ヲ差出シタルトギノ如キ場合
是レナリ其詳細ナルコトハ同條ノ下ニ於テ説明ス可シ

(二) 戸籍吏カ身分ニ關スル報告ヲ受クル場合ハ第二百二十九條第一項ノ死刑ヲ執行セ
ラタレル者及ヒ在監中死去シタル者ノ報告ヲ監獄ノ長ヨリ戸籍吏ニ爲ストキ第
百三十一條ノ難船シテ乗組員カ死亡シタル場合ニ取調ヲ爲シタル官廳若クハ公
署ヨリ戸籍吏ニ報告ヲ爲ストキ第三百三十二條第一項ノ死亡者ノ本籍人名分明ナ
ラサル場合ニ警察官ヨリ戸籍吏ニ報告ヲナストキ同條第二項ノ死亡者ノ本籍人
名分明トナリタル場合ニ警察官ヨリ戸籍吏ニ報告ヲ爲ストキ第三百六十六條ノ處
刑ニ因リテ族稱ヲ失ヒタル場合ニ於テ裁判所ハ其者ノ本籍地ノ戸籍役場ニ報告
スルトキノ如キヲ云フ

(三) 戸籍吏カ身分ニ關スル証書ノ謄本ヲ受クル場合トハ第六十條第二項ノ日本ノ公
使又ハ領事カ駐在セサル外國ニ於テ日本人カ身分上ニ關スル届出ヲ爲ストキハ
本人歸國ノ後一ヶ月内ニ本籍地ノ戸籍吏ニ其在住スル國ノ法式ニ從ヒ作りタル
届出事件ニ關スル証書ノ謄本ヲ差出ササル可ラサルカ如キ是レナリ又其謄本ノ
送付ヲ受クル場合トハ第六十條第一項ノ外國ニ在ル日本人カ其在住スル外國ノ

法式ニ從ヒ日本ノ公使又ハ領事ニ届出事件ニ關スル証書ヲ作り差出シタルトキ
其公使又ハ領事ハ三ヶ月内ニ之ヲ外務大臣ニ發送スル場合ヲ云フ

(四) 戸籍吏カ身分ニ關スル事項ヲ記載シタル航海日誌ノ謄本ノ送付ヲ受ケタルト
ハ第七十八條第二項戸籍吏カ艦長又ハ船長ヨリ其出生ニ關スル航海日誌ノ謄本
ノ送付ヲ受ケ又ハ同條第三項艦長又ハ船長ヨリ日本ノ公使領事及ヒ外務大臣ヲ
經テ右謄本ノ送付ヲ受ケタルト又第三百三十條第二項戸籍吏カ艦長又ハ船長ヨリ
出生ニ關スル航海日誌ノ謄本ノ送付ヲ受ケ同條第三項艦長又ハ船長ヨリ日本ノ
公使領事及ヒ外務大臣ヲ經由シテ右謄本ノ送付ヲ受ケタルトキ是レナリ

(五) 登記ノ取消トハ既ニ爲シタル登記ヲ消滅セシムルノ謂ナリ變更トハ前登記ヲ消
滅セシムルニ非シテ改ルヲ云フ請求トハ檢事ヨリ訴ヲ起シ登記取消ノ裁判カ確
定シタルト檢事ヨリ取消ヲ求ル場合ニテ申請又ハ人民ヨリ其取消ヲ求ムル場合
ヲ云フ今戸籍吏カ登記取消ノ申請又ハ請求ヲ受クル場合ヲ別舉スレハ左ノ如シ
(イ) 妻ノ生ミタル子カ裁判ニヨリ其夫ノ子ニアラスト定メラレタルトキハ第七十
二條ニ因リ爲シタル登記ノ取消ヲ申請セサル可ラス(第七十三條第二項)
(ロ) 棄兒ノ父母カ現出シテ其兒ヲ引取りタルトキ第七十五條ニ因リ爲シタル棄兒

○第三章 登記手續 第十五條

- 發見ノ登記ノ取消ヲ申請セサル可ラス(第七十六條)
- (ハ) 胎内ニテ認知セラレタル私生子カ死体ニテ分娩シタルトキハ第八十一條ニ因リ爲シタル認知登記ノ取消ヲ申請セサル可カラス(第八十四條)
- (ニ) 縁組カ無効ト爲リタルトキハ登記ノ取消ヲ申請セサル可カラス(第九十一條)
- (ホ) 縁組ノ無効又ハ取消ノ裁判カ確定シタルトキハ其訴ヲ提記シタル者ヨリ登記ノ取消ヲ申請セサル可カラス(第九十二條)
- (ヘ) 婚姻カ無効ナルトキハ登記ノ取消ヲ申請セサル可ラス(第九十五條)
- (ト) 婚姻ノ無効又ハ取消ノ裁判カ確定シタルトキハ其訴ヲ起シタル者ヨリ登記ノ取消ヲ申請セサルヘカラス(第九十六條)
- (チ) 隠居ノ取消ノ裁判カ確定シタルトキハ其訴ヲ起シタル者ヨリ登記ノ取消ヲ申請セサル可ラス(第九十二條)
- (リ) 失跡ノ宣告ノ取消アリタルトキハ取消ヲ請求シタル者ヨリ登記ノ取消ヲ申請セサル可ラス(第九十四條)
- (ヌ) 家督相續回復ノ裁判カ確定シタルトキハ前ニ爲シタル家督相續ノ登記ノ取消ヲ申請セサル可カラス(第九十九條)

- (ル) 胎兒ヲ家督相續人トシテ届出テタル場合ニ其胎兒カ死體ニテ生レタルトキハ家督相續ノ登記ノ取消ヲ申請セサル可カラス(第三十六條)
- (ヲ) 推定家督相續人廢除ノ取消ノ裁判カ確定シタルトハ登記ノ取消ヲ申請セサル可カラス(第三十九條)
- (ワ) 家督相續人指定ノ取消ノ届出ヲ爲スモノハ同時ニ家督相續人指定ノ登記ノ取消ヲ申請セサル可カラス(第四十三條 第四十四條)
- (カ) 家督相續人ノ指定カ其效力ヲ失ヒタルトキ(第四十五條) 右ノ外登記變更ノ申請アリタル場合ハ即チ
- (イ) 嫡出子否認ノ裁判カ確定シタルトキ既ニ出生ノ登記ヲ爲シタル者ニ付テハ登記ノ變更ヲ申請セサル可ラス(第七十九條)
- (ロ) 身分登記變更ノ許可ノ裁判カ確定シタルトキ(第六十八條)
- (ハ) 確定判決ニ依リテ身分登記ノ變更スル場合(第六十九條)
- (六) 登記ヲ拒ミタル戸籍吏カ登記ヲ爲ス可キ旨ノ裁判ヲ受ケタルトキヲ云フ(第二百七條)

第十六條 前條ニ掲ケタル場合ト雖モ届出送付其他ノ手續カ本法ノ規定ニ依リタ

第三章 登記手續 第十六條

ルモノニアラサレハ登記ヲ爲スコトヲ得ス

本條ハ仮令前條ニ掲ケタル場合ト雖トモ届出送付等ノ手續カ適法ナラサル可ラサル場合ヲ定メタルモノナリ

前條ニ掲ケタル一乃至六ノ場合ト雖トモ戸籍吏ハ必シモ身分登記ヲ爲サザル可ラサルモノニアラズ届出送付其他ノ手續ニシテ此戸籍法ノ定メニ違背スル廉アレハ戸籍吏ハ登記ヲ拒ムコトヲ得可シ例ヘハ未成年者カ直ニ身分ニ關スル届出ヲ爲シタルカ如キハ明カニ第四十六條ニ違背セリ醫師ノ診斷書檢案書又ハ警察官ノ檢視調書ヲ添付セシテ死亡届ヲ爲シタルカ如キ第百二十五條ノ規定ニ違背スルカ如シ

第十七條 登記ハ法律ニ特別ノ規定アル場合ヲ除ク外之ヲ取消シ又ハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

本條ハ登記ノ取消又ハ變更ハ法律ニ規定アル場合ニ限ルヘキ旨ヲ定メタルモノナリ登記ハ本法其他ノ法律ニ於テ特別ニ定メラレタル場合ヲ除ク外之ヲ取消シ又ハ變更スルコトヲ許サ、ルナリ而シテ其登記ヲ取消シ又ハ變更スルコトヲ得可キ場合ハ概零第十五條第五號ニ於テ説明シタレハ就テ參照セラレヨ爰ニ法律ト云ヒ本法ト云ハ

サルハ他ノ法律ヲモ包含スル意義ニシテ例ヘハ民法第九百八十一條ノ場合ノ如シ

(參照)民法第九百八十一條 被相続人カ遺言ヲ以テ家督相續人ノ指定又ハ其取消ヲ爲ス意思ヲ表示シタルトキハ遺言執行者ハ

其遺言カ効力ヲ生シタル後遺言ナク之ヲ戸籍吏ニ届出ツルコトヲ要ス此場合ニ於テ指定又ハ其取

消ハ被相続人ノ死亡ノ時ニ溯リテ其効力ヲ生ス

第十八條 戸籍吏カ届出報告其他登記ニ關スル書類ヲ受理シタルトキハ其書類ニ

受付ノ番號及年月日ヲ記載シ遲滞ナク登記ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス

本條ハ戸籍吏カ登記ニ關スル書類ヲ受理シタルトキノ手續ヲ定メタルモノナリ

戸籍吏カ第十五條ニ因リ届出報告等ニテ登記ニ關スル書類ヲ受理シタルトキハ其受付ケタル書類ニ受付ノ番號及ヒ其時ノ年月日ヲ記載シ猶豫ナク登記ノ手續ヲ爲サザル可カラス然レモ登記ニ關セサル書類ナルトキハ本條ノ規定ヲ適用スルニ及ハサル可シ

第十九條 登記ハ本籍人非本籍人及ヒ登記ヲ爲スヘキ事件ノ區別ニ從ヒ相當ノ登記簿ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

本條ハ登記ハ何レノ登記簿ニ之ヲ爲スヘキヤヲ定メタルモノナリ戸籍吏カ登記ヲ爲スニハ先ツ登記ノ目的トナルヘキ人ハ本籍人ナルヤ非本籍人ナル

○第三章 登記手續 第十八條 第十九條

ヤヲ定メ若シ本籍人ト定マレハ本籍人ノ登記簿へ又非本籍人ト定マレハ非本籍人登記簿へ出生縁組婚姻死亡等ノ區別ニ從ヒ登記セサル可カラス是レ帳簿ノ整頓登記ノ整理ヲ要スル所以ナリ相當ノ登記簿トハ死亡届ナレハ死亡ノ登記簿出生ナレハ出生ノ登記簿ト云フ意ナリ

第二十條 被登記者ノ本籍カ届出其他ノ事由ニ因リ戶籍吏ノ管轄ニ歸シ又ハ其管轄ヲ離ル、場合ニ於テハ本籍人身分登記簿ニ登記ヲ爲スコトヲ要ス

一個ノ登記ニシテ本籍人及ヒ非本籍人ニ關スルトキハ同時ニ本籍人身分登記簿及ヒ非本籍人身分登記簿ニ登記ヲ爲シ各登記ノ欄外ニ交互ノ參看ノ符號ヲ附記スルコトヲ要ス

本條ハ本籍人登記簿ニ登記ス可キヤ又ハ非本籍人登記簿ニ登記ス可キヤニ付疑アル場合ヲ規定シタルモノナリ

一項 被登記者トハ登記ノ目的トナル人ニシテ即チ登記セラル、者ヲ云フ被登記者ノ本籍カ届出其他ノ事由ニ因リ戶籍吏ノ管轄ニ皈スル場合トハ例へハ登記セラル、モノカ養子縁組婚姻ノ届出又ハ其他ノ事由ニ因リ甲戶籍役場ノ管轄内ヨリ乙戶

籍役場ノ管轄内ニ皈シタルトキハ乙戶籍役場ハ本籍人身分登記簿ニ登記ヲ爲サ、ル可カラス又ハ其管轄ヲ離ル、場合トハ前例ニテ甲戶籍役場ヲ云フ此甲戶籍役場ニ於テモ亦本籍人身分登記簿ニ登記セサル可カラス

二項 一個ノ登記ニシテ本籍人及ヒ非本籍人ニ關スルトキ例へハ甲カ其本籍地ニ於テ寄留人乙ヲ其婦ニ娶リタルカ或ハ甲カ乙家へ入婿ト爲リタルカ如キ場合ニシテ前例ハ乙者ハ其非本籍寄留地ヲ離レ甲家ノ本籍ニ入りタルモノナレハ此婚姻ナル一ノ出來事ハ同時ニ本籍人身分登記簿及ヒ非本籍人身分登記簿ニ影響ヲ及ホスナリ又後例ニ於テ甲者ハ其本籍ヲ離レ乙家ノ非本籍寄留地ニ入りタシモノナレハ此入婿ナル一ノ登記ハ前例ノ如ク同時ニ兩登記簿ニ關係ヲ及ホスヲ以テ本籍人身分登記簿及ヒ非本籍人身分登記簿ニ登記ヲ爲シ兩登記簿ノ欄外ニ彼レ是レ見合ハス所ノ符號ヲ附記セサル可ラス

符號トハ本籍人身分登記簿國籍得喪之部第何號參看ト爲スノ類ヲ云フ

第二十一條 被登記者ノ本籍カ分明ナラサルトキハ非本籍人身分登記簿ニ登記ヲ

爲スコトヲ要ス

○第三章 登記手續 第二十條 第二十一條

登記セラル、者ノ本籍カ何處ニアルヤ明カナラサルトキハ此者ノ身分登記ニ關スルコトハ非本籍人身分登記簿ニ登記ヲ爲サル可ラス
漂死人行キ倒レ等ニ付テハ本條ヲ適用スル場合多々アル可シ

第二十二條 登記ニハ第四章ノ規定ニ依リ届出報告申請若クハ請求ヲ爲シ又ハ航海日誌ノ謄本ニ記載シタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

證書ノ謄本ニ依リテ爲ス登記ニハ其謄本ニ記載シタル事項ヲ記載スル事ヲ要ス
裁判ニ依リテ爲ス登記ニハ其裁判ヲ以テ命セラレタル登記事項ヲ記載スルコトヲ要ス

本條ハ登記ハ身分ニ關スル書類ノ如何ナル事項ヲ記載スヘキヤヲ定メタルモノナリ
一項 登記ニハ第四章各節ノ規定例ヘハ出生、嫡出子否認、私生子認知、養子縁組、同離縁婚姻、離婚等ニ依リ届出第十五條第一號參照報告同條第二號參照申請若クハ請求同條第五號參照又ハ航海日誌ノ謄本(同條第四號參照)ニ記載シタル事項ヲ記載セサル可ラス

二項 戶籍吏カ第十五條第三號ニ因リ證書ノ謄本ヲ受付ケタルトキハ其登記ハ右條

本ニ記載シタル事項ヲ記載セサル可ラス

三項 戶籍吏カ第十五條第六號ノ裁判ニ依リテ登記ヲ命セラレタルトキハ其命セラレタル登記事項ヲ記載セサル可ラス

以上届出報告申請謄本裁判等ノ書類ニ記載ス可キ事項ハ第四章ノ各節中ニ規定シア
ルヲ以テ各相當ノ場所ニ於テ説明スルコトト爲サン

第二十三條 登記ヲ爲スヘキ事實ガ第四章第二節乃至第二十一節ニ掲ケタル届出事件ノ二個以上ニ涉ルトキハ各別ニ登記ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ登記ニハ各登記ニ付必要ナル事項ノミヲ記載シ各登記ノ欄外ニ交互參看ノ符合ヲ附記スルコトヲ要ス

本條ハ届出事件ノ二個以上ニ涉ル登記ヲ爲スヘキ場合ニ關スル規定ナリ

一項 登記ヲ爲スヘキ事實カ一届事件ニシテ第四章第二節乃至第二十一節ニ掲ケタル二個以上ノ事件ニ涉ルトキハ各別箇ニ登記ヲ爲サル可ラス例ヘハ外國人ノ私生子カ日本人タル父ニ依リテ認知セラレタルトキハ認知者ハ届書ニ子ノ原國籍及ヒ母ノ國籍ヲ記セサル可ラス然ルニ一方ニ於テハ認知届タルヲ以テ認知届ニ必要

○第三章 登記手續 第二十二條 第二十三條

ナル事項即チ第八十條ノ記載ヲ要スルナリ此ノ如キ場合ニ於テハ戸籍吏ハ第一百五十八條ニ依リ國籍取得ノ登記ヲ爲スト同時ニ他方ニ於テハ私生子認知ノ登記ヲ爲サ、ル可ラス

二項 前項ノ如ク届出事件ノ二個以上ニ渉ル場合ニハ之ヲ各登記簿ニ記入スルニ當リ前例ニテ云ヘハ國籍取得ノコトハ國籍取得ニ關スル事項ノミヲ記載シ私生子認知ノコトハ私生子認知ニ關スル事項ノミヲ記載セサル可ラス而シテ各登記簿ノ欄外ニハ彼レ此レ見合ハス符合ヲ附記ス可シ是レ一通ノ届書中ニ二個以上ニ渉ル事實ヲ包含スルニ因リ隨テ登記簿モ二個以上ニ渉ルヲ以テ益參看スルノ必要ヲ感ス可シ

各登記ニ付必要ナル事項云々トアリ一事件ニシテ二個以上ニ渉ル事柄ナレハ一方ニ於テハ必要ナルモ他方ニ於テハ必要ナラサルコトアリ前例ニテ云ヘハ子ノ原國籍及ヒ母ノ國籍ハ國籍取得ニハ必要ナルモ私生子認知ニハ必要ナラサルカ如シ

第二十四條 登記取消ノ登記ハ取消ノ申請又ハ請求ノ目的タル登記ノ欄外ニ之ヲ爲シ原登記ヲ抹消スルコトヲ要ス

本條ハ登記取消ノ登記ハ何レノ欄ニ記入スヘキヤテ定メタルモノナリ

取消登記ハ其取消サルヘキ原登記ノ欄外ニ其事由ヲ記載シテ之ヲ爲シ原登記ハ之ヲ消サ、ル可ラス

取消ノ申請又ハ請求ノ目的タル云々ハ申請又ハ請求ノ目的物件タル原登記ヲ云フ

第二十五條 登記變更ノ登記ハ其目的タル登記ノ欄外ニ之ヲ爲シ且其申請ノ基本タル裁判ノ旨趣ニ從ヒテ原登記ヲ變更スルコトヲ要ス

登記變更ノ登記ハ前條取消ノ場合ト同シク其變更スヘキ目的物件タル登記ノ欄外ニ之ヲ爲シ尙ホ其申請ノ基本トナリタル裁判ノ旨意例ヘハ第七十九條嫡出子否認ノ裁判ニ於テ其裁判ノ旨意ガ夫ノ不在中妻カ懷妊シテ出生シタル子ナリト認定サレタルカ如キ場合ナリニ從ヒテ原登記ヲ變更スルヲ要スルナリ但第七十九條未段及ヒ第七十二條ニ因リ既ニ出生ノ登記ヲ爲シタル場合ニ限ル

第二十六條 本籍分明ナラサル者ノ登記ヲ爲シタル後其者ノ本籍カ分明ト爲リタル旨ノ届出又ハ報告アリタルトキハ原登記ノ欄外ニ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

本籍分明ト爲リタル者カ本籍人ナリシトキハ前項ノ規定ニ依ラス更ニ本籍人身分登記簿ニ登記ヲ爲シ其登記及ヒ前登記ノ欄外ニ交互參看ノ符號ヲ附記スルコ

トヲ要ス

前二項ノ登記ヲ爲シタル後其者ノ本籍ニ付キ更ニ届出又ハ報告アリタルトキハ届出又ハ報告アリタルコト及ヒ其年月日ヲ登記ノ欄外ニ記載スルヲ以テ足ル

本條ハ本籍分明ナラサル者カ分明トナリタルトキノ登記々載方ヲ定メタルモノナリ
一項 第二十一條ノ規定ニ依リ本籍分明ナラサル者ノ身分登記ヲ非本籍人身分登記簿ニ爲シタル後其者ノ本籍カ分明ト爲リタル旨ノ届出又ハ官廳公署ヨリ報告アリタルトキハ原登記ノ欄外ニ其分明ト爲リタル本籍ノ登記ヲ爲サ、ル可ラス

二項 若シ本籍分明ト爲リタル者カ本籍人ナリシトキハ前項ノ如ク欄外ノ登記ヲ爲サス更ニ本籍人身分登記簿ニ登記ヲ爲シ其登記及ヒ前非本籍人身分登記ノ欄外ニ彼レ是レ見合ハス符號ヲ附記セサル可ラス

一項ト二項ト異ナル所以ハ第一項ハ非本籍人ノ場合ニシテ前登記モ後ノ登記モ非本籍人身分登記簿ニ登記ヲ爲ス可キ場合ナレハ欄外ノ登記ヲ以テ足レリトシ之ニ反シテ第二項ハ前登記ハ非本籍人ノ登記ニシテ後ノ登記ハ本籍人登記ナレハ隨テ其登記簿ヲ異ニスル故此區別ヲ爲シタルモノナリ

三項 前二項ノ登記ヲ爲シタル後其者ノ本籍ニ付キ更ニ届出又ハ報告アリタルトキハ届出又ハ報告アリタルコト及ヒ其年月日ヲ二度目ニ爲シタル登記ノ欄外ニ記載セサル可ラス

第二十七條 日本ノ國籍ヲ失ヒタル者カ國籍喪失ノ届出ヲ爲サ、リシトキハ戶籍吏ハ戶籍役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ許可ヲ得テ國籍喪失ノ登記ヲ爲ス

コトヲ要ス

本條ハ日本ノ國籍ヲ失ヒタル者國籍喪失ノ登記ニ關スル規定ナリ
日本ノ國籍ヲ失フトハ日本人タル身分ヲ失ヒタル場合ニシテ國籍法ノ規定スル所ナリ而シテ國籍法ハ未タ帝國議會ノ協賛ヲ了ラスシテ止ミシカトモ曾テ政府ノ議會ヘ提出シタル國籍法案ニヨレハ自己ノ志望ニ依リテ外國ノ國籍ヲ所得シタルモノハ日本ノ國籍ヲ失フトアル場合ニシテ其國籍ヲ失ヒタル者カ國籍喪失ノ届出ヲ爲サ、リシトキハ戶籍吏ハ戶籍役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ許可ヲ得テ國籍喪失ノ登記ヲ爲サ、ル可ラス

第二十八條 登記ニハ第二十二條ニ規定シタルモノ、外左ノ事項ヲ記載スルコト

○第三章 登記手續 第二十七條、第二十八條

ヲ要ス

三四

- 一 届出又ハ申請ノ受附ノ年月日但他ノ戸籍吏又ハ官廳ヨリ届書ノ送付ヲ受ケタル場合ニ於テハ發送者ノ官職氏名及ヒ發送ノ年月日ヲ併記スルヲ要ス
- 二 報告又ハ請求ノ發送及ヒ受附ノ年月日並ニ報告者又ハ請求者ノ官職氏名
- 三 證書又ハ航海日誌ノ謄本ノ發送及ヒ受附ノ年月日並ニ證書又ハ航海日誌ノ作製者及ヒ謄本發送者ノ官職氏名

四 登記ヲ命シタル裁判ノ年月日及ヒ裁判所ノ名

本條ハ第二十二條ニ依リ記載スヘキ事項ノ外更ラニ記載スヘキ事項ヲ定メタルモノナリ

本條ニ記載シタル事項ハ第二十二條ニ依リ本載ス可キ事項トハ全ク其趣ヲ異ニス即チ第廿二條ハ届出書報告書申請書請求書航海日誌證書裁判中ニ記載シ在ル事項ニシテ其本体即實質ニ關スル事項ヲ云ヒ之ニ反シテ本條ハ形式即表面ノ手續ニ關スル事柄ノ記載ニシテ身分登記ノ眼目ニアラサル事項ナリ今之ヲ規定ノ順序ニ從ヒ左ニ説明ス可シ

一 届出又ハ申請ノ受附ノ年月日若シ他ノ戸籍吏又ハ官廳ヨリ届書ノ送付ヲ受ケタルトキハ(第十五條第一號參照)發送シタルモノ、官職氏名及ヒ發送シタルトキノ年月日ヲ併記セサル可ラス

二 官廳公署ヨリ報告又ハ檢事ヨリ請求書(第六條第二項第百二十二條第二項)ノ發送アリタルトキハ其發送ノ年月日及ヒ受附ノ年月日並ニ報告シタル者又ハ請求シタル者ノ官職氏名ヲ記載ス可シ

三 證書(第六十條第六十一條ヲ參照)又ハ航海日誌ノ謄本(第七十八條第百三十條參照)ノ發送及ヒ受附年月日並ニ證書又ハ航海日誌ヲ作製シタル者及ヒ謄本ヲ發送シタル者ノ官職氏名ヲ記載ス可シ

四 裁判上ニテ登記ヲ命セラレタルニ場合ニハ其裁判ノ年月日及ヒ裁判所ノ名ヲ記載ス可シ

第二十九條 登記ヲ爲スニハ畧字又ハ符號ヲ用弗ス字畫明瞭ナルコトヲ要ス
年月日時及ヒ年齢ヲ記スル數字ニハ一二三ノ字ヲ用弗スシテ壹貳參拾ノ字ヲ用弗ルコトヲ要ス

○第三章 登記手續 第二十九條

三五

文字ハ之ヲ改竄スルコトヲ得ス若シ訂正挿入又ハ削除ヲ爲シタルトキハ其字數
ヲ欄外ニ記載シ又ハ文字ノ前後ニ括弧ヲ附シ戶籍吏之ニ認印シ其削除ニ係ル文
字ハ尙ホ明カニ讀得ヘキ爲メ字體ヲ存スルコトヲ要ス

本條ハ登記ヲ爲スニ付テ戶籍吏ノ注意スヘキコトヲ定メタルモノナリ

一 項 登記ヲ爲スニハ号医等ノ如キ罫字ヲ用弗ス號醫等ノ字ヲ用ウ可シ又ハ△○□
ノ如キ符號ヲ用ユ可ラス而シテ其用ユヘキ文字ノ畫モ亦明カナラサル可ラス

二 項 年月日時及ヒ年齡ヲ記スル數字ニハ例ヘハ明治參拾壹年貳月參日及ヒ年齡貳
拾參年壹ヶ月ト記シ明治三十一年二月三日及年齡二十三年一ヶ月ト記載ス可ラス
是レ正確ヲ期シ變造等ヲ防クノ趣意ニ出テタルモノナリ

三 項 一旦書キタル文字ハ之レニ手入レテ爲シ他ノ文字ニ改ム可ラス若シ訂正(ナホ
ス)挿入(書キ入レ)又ハ削除(クス)ヲ爲シタルトキハ其直^ホシタル書入レタル若クハ削
シタル字數ヲ欄外ニ何字ト記載シ又ハ直^ホシタル或ハ削シタル文字ノ前後ニ括弧
()ヲ附シ戶籍吏ハ其部分ニ印ヲ押シ其削リタル文字ハ明カニ讀ミ得ル様字體ヲ
存シ決シテ之ヲ塗抹シ如何ナル文字ヲ消シタルヤ分ラサルガ如キコト無キ様注意

ス可シ

第三十條 登記ハ特別ノ規定アル場合ヲ除ク外日次ヲ逐ヒ事件受付ノ順序ニ從ヒ
テ之ヲ爲シ一事件毎ニ番號ヲ附シ用紙ニ空行ヲ存セス前後ノ登記ヲ接續セシム
ルコトヲ要ス

本條ハ登記簿ニ登記ヲ爲ス心得方ヲ定メタルモノナリ

登記簿ニ登記ヲ爲スニハ一日二日三日ト云フ如ク段々ニ日附ヲ逐ヒ受附タル事件ノ
順序ニ從ヒテ登記ヲ爲シ一事件毎ニ番號ヲ附シ登記簿用紙ニ空行ヲ置カス前後ノ登
記ヲシテ接續セシメサル可ラス是レ他日不正ノ記入等ヲ爲ス餘地ナカラシメタルモ
ノナリ

然レトモ右ノ手續ニ依ラサル特別ノ定メアル場合ハ此限ニアラサルナリ取消登記變
更登記ノ如キハ其一例ナルヘシ

第三十一條 戶籍吏ハ登記ヲ爲シタル毎ニ其文末ニ認印スルコトヲ要ス

戶籍吏ハ一事件ノ登記ヲ爲シタル度毎ニ其書キ了リタル文末ニ認メ印ヲ押ス可シ是
レ登記ノ正確ヲ保スルノミナラス他日登記ニ付キ争ノ起リタル場合ニ其ノ責任者ヲ

○第三章 登記手續 第三十條、第三十一條

定ムルノ必要アレハナリ

第三十九條ニ依ル登録簿ノ副本ニモ亦此手續ニ依リ認印スルコトヲ要ス

第三十二條

欄外登記ヲ爲スヘキ場合ニ於テ用紙ニ餘白ナキトキハ掛紙ヲ以テ之

ニ充ツルコトヲ得此場合ニ於テハ戶籍吏ハ職印ヲ以テ掛紙ト本紙トニ契印ヲ爲ス
コトヲ要ス

欄外登記ヲ爲スヘキ場合ニ於テ其欄外用紙ニ餘白ナキトキハ掛紙ヲ以テ之ヲ補フコトヲ得ヘシ然レトモ此場合ニ於テハ戶籍吏ハ職印ヲ以テ其貼附シタル掛紙ト本紙トニツキ印(契印)セサル可ラス

本條ニ掛紙ト在ハル符箋ノコトニシテ其契印ヲ爲サシムルハ後口不正ニ貼リ換ヘ等
ヲナスノ弊ヲ防キ且ツ正確ナルコトヲ保證シタルモノナリ

第三十三條

被登記者ノ本籍カ届出ニ因リテ戶籍吏ノ管轄ヨリ他ノ戶籍吏ノ管轄

ニ轉屬スル場合ニ於テハ戶籍吏ハ登記ヲ爲シタル後遲滞ナク届書ノ正本ヲ新管
轄ノ戶籍吏ニ送付スルコトヲ要ス

被登記者ノ本籍カ他ノ戶籍吏ノ管轄ヨリ戶籍吏ノ管轄ニ轉屬スル場合ニ於テハ

戶籍吏ハ登記ヲ爲シタル後遲滞ナク届書ノ副本ヲ舊管轄ノ戶籍吏ニ送付スルコト
ヲ要ス

本條ハ被登記者ノ本籍カ戶籍吏ノ管轄ヲ離レ又ハ管轄ニ屬シタル届出アリタル場合
ニ戶籍吏ノ爲ス可キ職務ヲ定メタルモノナリ

一 項 被登記者ノ本籍カ届出ニ因リテ戶籍吏ノ管轄ヨリ他ノ戶籍吏ノ管轄ニ移ル(轉
屬)場合トハ例ヘハ被登記者女カ乙戶籍役場ノ管轄内ニ住スル人(勿論本籍ヲモ有ス
以下全シ)ト婚姻ヲ爲シ其届出ヲ自己ノ屬スル甲戶籍役場ニ爲シタリトセンカ被登
記者ノ本籍ハ婚姻ニ因リテ甲戶籍吏ノ管轄ヲ離レ乙戶籍吏ノ管轄ニ移ルナリ此場
合ニ於テハ甲戶籍吏ハ登記ヲ爲シタル後猶豫ナク届書ノ正本ヲ新管轄ノ乙戶籍吏
ニ送付セサル可ラス

二 項 本項ハ前項ト全ク反對ニシテ被登記者ノ本籍カ届出ニ因リテ他ノ戶籍吏ノ管
轄ヨリ戶籍吏ノ管轄ニ屬スル場合ナリ例ヘハ被登記者女カ乙戶籍役場ノ管轄内ニ
住シ甲戶籍役場ノ管轄内ニ住スル人ト婚姻ヲ爲シ其届出ヲ甲戶籍吏ニ爲シタリト
センカ(届出ヲ乙戶籍吏ニ爲シタルトキハ前項ニ入ル)被登記者ノ本籍ハ婚姻ニ因リ

テ乙戸籍吏ノ管轄ヲ離レ甲戸籍吏ノ管轄ニ属シタルモノナレハ甲戸籍吏ハ登記ヲ爲シタル後猶豫ナク届書ノ副本ヲ乙戸籍吏ニ送付セサル可ラス正本、副本ニ關スルコトハ第五十三條ニ於テ説明ス可シ
身分上ニ異動ヲ生セスシテ單ニ轉籍スル場合ハ第九十五條ニ該當シ本條ノ場合ト混同セサルヲ要ス

第三十四條 被登記者ノ本籍カ届出ヲ受ケタル戸籍吏ノ管轄以外ニ於テ一ノ戸籍吏ノ管轄ヨリ他ノ戸籍吏ノ管轄ニ轉屬スル場合ニ於テハ其届書ヲ受ケタル戸籍吏ハ登記ヲ爲シタル後遲滞ナク届書ノ正本ヲ新管轄ノ戸籍吏ニ送付シ其副本ノ一通ヲ舊管轄ノ戸籍吏ニ送付スルヲ要ス

本條ハ被登記者カ本籍地外ニ於テ居住若クハ滞在等ヲ爲シ其間ニ於テ他ノ戸籍役場内ニ轉屬シタル場合ニ戸籍吏ノ爲ス可キ職務ヲ定メタルモノナリ
例ヘハ被登記者カ甲戸籍吏管轄内ニ本籍ヲ有シ乙戸籍吏管轄内ニ寄留ヲ爲シ丙戸籍吏管轄内ニ本籍ヲ有スル人ト養子縁組ヲ爲シ其届出ヲ乙戸籍吏ニ爲シタリトセンカ乙戸籍吏ハ登記ヲ爲シタル後猶豫ナク届書ノ正本ヲ新管轄ノ丙戸籍吏ニ送付シ其副

本ノ一通ヲ舊管轄ノ甲戸籍吏ニ送付セサル可ラス是レ本條ノ場合ナリ前條届書ハ正副二通ニテ可ナルモ本條ハ正本一通副本二通ヲ要スルナリ

第三十五條 前二條ノ場合ヲ除ク外被登記者ノ本籍カ戸籍吏ノ管轄ニ屬セザルトキハ戸籍吏ハ登記ヲ爲シタル後遲滞ナク届書ノ正本ヲ管轄戸籍吏ニ送付スルコトヲ要ス

前第三十三條及第三十四條ヲ除ク外被登記者ノ本籍カ戸籍吏ノ管轄ニ屬セザルトキ例ヘハ死亡若クハ出生ヲ爲シ其届出ヲ寄留地役場ニ爲スカ如キ場合ニハ其寄留地役場ノ戸籍吏ハ登記ヲ爲シタル後猶豫ナク届書ノ正本ヲ本籍地ノ管轄戸籍吏ニ送付セサル可ラス

第三十六條 第三十三條及第三十四條ノ規定ハ届出以外ノ事由ニ因リ被登記者ノ本籍カ移轉スル場合ニ之ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テハ戸籍吏ハ其受附ケタル書面ノ謄本ヲ作り其謄本ヲ以テ届書ノ副本ニ代フルコトヲ要ス届出以外ノ事由ニ因リ登記ヲ爲シタル場合ニ於テ被登記者ノ本籍カ戸籍吏ノ管轄ニ属セザルトキ亦同シ

本條ハ届出以外ノ事由ニ依リ被登記者ノ本籍カ移轉スル場合ニ關シ定メタルモノナリ

一項 届出以外ノ事由トハ第十五條第二號乃至第六號ニ定メタル場合ニシテ身分ニ關スル報告、證書、航海日誌、登記ノ取消又ハ變更ノ申請、請求、又ハ裁判ノ場合ヲ云フ此等ノ事由ニ依リ被登記者ノ本籍カ移轉スル場合ヲ生シタルハ第三十三條及ヒ第三十四條ノ規定ヲ準用スヘキモノト定メタリ難用ノコトハ前キニ既ニ之ヲ述ヘタリ
二項 前項ハ届出以外ノ事由ニシテ何レモ官廳公署若クハ艦船長ヨリスル通知ノ如キモノナレハ此等ノ者ヨリ副本ヲ差出サシム可キモノニアラサルヲ以テ戶籍吏ハ其受附ケタル證書ノ謄本ヲ作り其謄本ヲ以テ届出書ノ副本ニ代ヘ第三十三條及ヒ第三十四條ノ手續ヲ爲スヲ要スルナリ

届出以外ノ事由ニ因リ登記ヲ爲シタル場合ニ於テ被登記者ノ本籍ガ戶籍吏ノ管轄ニ屬セサルハトハ第三十五條ノ場合ナレハ其説明ハ全條ニ就キ之ヲ參照スルコトヲ要ス此場合ニ於テモ亦謄本ヲ作り其正本ハ之ヲ本籍地ノ戶籍吏ニ送付スルナリ

第三十七條 登記ヲ爲シタルトキハ届書其他登記ニ關シテ受附ケタル書類ニ登記ノ番號及ヒ年月日ヲ記載シ登記簿ノ區別ニ從ヒ各別ニ之ニ編綴シ且之ヲ目錄ヲ

附スルコトヲ要ス

本條ハ登記ヲ爲シタル後届書其他登記ニ關シテ受附ケタル書類ノ處分法ヲ定メタルモノナリ

登記ヲ爲シタル時ハ届書其他登記ニ關シテ受附ケタル謄本承諾書診斷書檢案書等ノ如キ書類ニ登記ノ番號及ヒ登記ヲ爲シタル年月日ヲ記載シ登記簿ノ區別ニ從ヒ出生婚姻死亡失踪等各別ニ之ヲ編綴シ且ツ其冊毎ニ綴ヂ込ミタル書類ノ目錄ヲ付ケサル可ラス

第三十八條 前條ノ書類ハ一ヶ月毎ニ遲滞ナク之ヲ監督區裁判所ニ送付シ監督區裁判所ハ之ヲ保存スルコトヲ要ス

書類ヲ保存スヘキ期間ハ司法大臣之ヲ定ム

前條ノ届書其他登記ニ關シテ受附ケタル書類ハ一ヶ月ツ、一纏ニ爲シ其月々ニ猶豫ナク之ヲ監督區裁判所ニ送付シ監督區裁判所ニ於テハ其書類ヲ保存セサル可ラス而シテ其書類ヲ保存スヘキ期間ハ司法大臣省令ヲ以テ之ヲ定ムルモノトス

第三十九條 戶籍吏ハ登記ヲ爲シタル毎ニ登記ヲ爲スト同一ノ手續ニ依リ遲滞ナ

○第三章 登記手續 第三十七條、第三十八條、第三十九條

ク其全文ヲ登記簿ノ副本ニ謄寫スルコトヲ要ス

登記簿ノ副本ヲ地方裁判所ニ送付シタル後欄外登記ヲ爲シタル場合ニ於テハ戶籍吏ハ遲滞ナク其登記ノ謄本ヲ作り職氏名ヲ署シ職印ヲ押捺シ之ヲ地方裁判所ニ送付スルコトヲ要ス

地方裁判所長ハ前項ノ規定ニ依リ送付ヲ受ケタル登記ノ謄本ヲ登記簿ノ副本中相當登記ノ欄外ニ貼付シ職印ヲ以テ謄本ト本紙トニ契印ヲ爲スコトヲ要ス

本條ハ登記簿ノ副本ノ作成方法ヲ定メタルモノナリ

一項 戶籍吏ハ身分登記簿ニ登記ヲ爲シタル度毎ニ登記ヲ爲スト同一ノ手續即第三章ニ定メタル手續ニ從ヒ猶豫ナク其正本ニ登記シタル全文ヲ登記簿ノ副本ニ謄寫セラル可ラス

二項 登記簿ノ副本ヲ第十一條ニ因リ地方裁判所ニ送付シタル後第二十四條乃至第二十六條ノ如ク欄外登記ヲ爲シタル場合ニ於テハ戶籍吏ハ速ニ其欄外登記ノ部分ニ關スル謄本ヲ作り職氏名ヲ書シ職印ヲ押シ之ヲ地方裁判所ニ送付セザル可ラス
三項 地方裁判所長ハ前項ノ規定ニ因リ送付ヲ受ケタル欄外登記ノ謄本ヲ登記簿ノ

副本中其謄本ノ事項ニ相當スル登記ノ欄外ニ貼付シ職印ヲ以テ謄本ト本紙トヲ續キ印ヲナサ、ル可ラス

副本作成ノコトニ付テハ尙ホ第九條第三十一條ノ註釋ヲ參照スヘシ

第四十條 登記ヲ爲シタル後其登記ニ付錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキ

ハ戶籍吏ハ遲滞ナク之ヲ届出人又ハ登記事件ノ本人ニ通知スルコトヲ要ス

登記ヲ爲シタル後其登記ニ付キ誤謬例ハ届出人ノ氏名ヲ誤リタルカ如シ又ハ遺漏例ハ届出ノ年月日届出人ノ族稱職業ヲ漏ラシタル如シ斯ル場合ニハ戶籍吏ハ速ニ之ヲ届出人又ハ登記事件ノ本人ニ通知スルコトヲ要スルナリ而シテ此通知ハ届出人又ハ登記事件ノ本人ヨリ第六十七條ニ從ヒ登記ノ變更ヲ申請スルノ必要アレハナリ爰ニ届出人又ハ登記事件ノ本人ト併記セシハ登記事件ノ本人ハ必シモ届出人ニアラサレハナリ例ハ第四十六條ニ依リ未成年者ハ後見人ヲ以テ届出人トナセトモ戶籍吏カ誤謬遺漏ヲ發見シタルトキハ未成年者ハ已ニ成年ニ達シ後見人ハ解除セラレタルコトアル可シ此ノ如キ場合ニハ之ヲ登記事件ノ本人即當時ノ未成年者ニ通知スルハ至當ノコトナリトス

第四十一條 戶籍吏ハ每年末ニ於テ最終登記ノ次行ニ終結ノ旨ヲ記載シ職氏名ヲ

○第三章 登記手續 第四十條、第四十一條

署シ職印ヲ押捺スルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ最終登記ヲ爲ス前登記簿ノ用紙ヲ用井盡シタル場合ニ之ヲ準用ス

一項 戶籍吏ハ毎年未ニ於テ最終ニ爲シタル登記ノ次行ニ其年度ノ登記ノ終結シタル旨ヲ記載シ職氏名ヲ署シ職印ヲ押サ、ル可スラ是レ身分登記簿ハ一年毎ニ編製ス可キモノナレハナリ(第八條)

二項 若シ又前登記簿ノ用紙ヲ用井盡シ第十條ニ依リ更ニ帳簿ヲ作ルヘキ時ニ前項ヲ準用シ其用井盡シタル帳簿ノ最終登記ノ次行ニ其帳簿ニ關シ終結ノ旨ヲ記載シ職氏名ヲ署シ職印ヲ押スコトヲ要スルナリ

第四章 身分ニ關スル届出

第一節 通 則

通則トハ總括シタル規則ノ謂ニシテ本章第二節乃至第二十一節ノ各届出ニ通スル總則ナリ何レモ必要ナラサル條文トテハ無之キモ通則ハ必要中ノ最必要ナル眼目ヲ集メ各節ノ首ニ置キタルモノニシテ各節ハ皆此ノ通則ノ支配ヲ受クヘキモノナレハ生出死亡婚姻等ノ届出ヲナスニ當リテモ其直接ニ關係アル條文ノミヲ見此通則ヲ念頭

ニ置カサルトキハ大ニ誤リヲ生スルコトアル可シ例ヘハ今子ノ出生届ヲナスニ當リ之ニ關係アル第六十八條ノ條文ノミヲ見同條第一號乃至第七號ノ規定ノミニ若目シ之ニ該當スル届出ヲナスモ未タ合法ナリト云フ可ラス必スヤ通則第四十四條ヲ想起シ全條第一號乃至第三號ニ從ハサル可ラス此ノ如ク通則ノ各條ハ各節ニ關係ヲ有スルヲ以テ戶籍吏ナルト届出人ナルトヲ問ハス須臾モ此通則ノ念ヲ離レサルコトニ注意ス可シ

夫レ通則ノ關係ハ此ノ如ク廣シト雖モ若シ第二節以下第二十一節ニ至ルマテノ規定ニシテ此通則ト抵觸シ偶異リタル條文アルトキハ其部分ニ限り總則ヲ適用セス各節ノ條規ニ從フモノトス是レ通則ハ成可ク各節ニ通スル規定ヲ掲ケタルモノニシテ其節ニ特別ナルモノハ其節固有ノモノトシテ獨リ其規定ノミニ從フハ成文法上通例ノコトニ屬スレハナリ例ヘハ通則第五十八條ニ依レハ届出人ハ事故アルトキハ代理人ヲ差出スコトヲ得レトモ養子縁組第九十四條同離縁第一百一條婚姻(第百八條離婚(第百十三條)ノ場合ニハ之ヲ適用セサルカ如シ故ニ通則ノ最効用ヲ致サシム點ハ各節ト抵觸セサル部分ニ限ルモノナレハ彼此條文ヲ比較考究シ特別ノ規定ナルヤ否ヤニ注意スルコトハ最モ肝要ナリトス

○第四章 身分ニ關スル届出

第四十二條 身分ニ關スル届出ハ其届出人ノ本籍地ノ戶籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス但其届出人カ本籍地外ニ在ル場合ニ於テハ其所在地ノ戶籍吏ニ届出ヲ爲スコトヲ得

届出人カ本籍ヲ有セサルトキハ其届出ニ關シテハ所在地ヲ以テ本籍地ト看做ス

本條ハ身分ニ關スル届出ハ何地ノ戶籍吏ニ爲スヘキヤヲ定メタルモノナリ

一項 身分ニ關スル届出ハ其届出人ノ本籍地ノ戶籍吏ニ之ヲ爲サル可ラス是レ明カナル規定ニシテ別ニ疑ナキモ第四十六條ニ依ルトキハ届出ヲナスヘキ者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ親權ヲ行フ者又ハ後見人ヲ以テ届出義務者ト爲ストアリ若シ此場合ニ未成年者ト後見人ト其ノ戶籍吏ノ管轄ヲ異ニスルトキハ如何後見人ハ届出人ナレハ本項ノ正面ヨリ云フトキハ後見人ノ本籍地ノ戶籍吏ニ之ヲ爲スハ正當ナルカ如シト雖モ本項ノ届出人ハ眞ノ届出人ニシテ或事情ノ爲メニ法律カ命シタル第四十六條ノ届出人トハ全ク其性質ヲ異ニセリ又他ノ點ヨリ云フモ後見人ノ本籍地役場ハ未成年者ノ身分ニ付キ如何ナル關係ヲモ有セサルヲ以テ此場合ニ於ケル管轄戶籍吏ハ矢張未成年者ノ本籍地ナリト解釋スルヲ至當トス

若シ届出人カ本籍地外ニ在ル場合ニ於テハ其所在地ノ戶籍吏ニ届出ヲナスモ妨クナシ故ニ本則トシテハ寄留其他ノ事由ニ因リ本籍地外ニ在ル場合ト雖トモ身分ニ關スル届出ハ本籍地ニ爲スヲ正當トス

二項 届出人カ本籍ヲ有セサルトキハ如何此場合ニ於テハ其届出ニ關シテハ所在地ヲ以テ本籍地ト見做スナリ爰ニ注意スヘキトハ本籍ヲ有セサル者ハ其所在地カ直ニ本籍地ニ爲リタルモノト速了スヘカラス本籍ヲ有セサル者ハ如何ナル場合ニ於テモ無本籍ナリ只届出ヲナス際ニ届出人カ本籍ヲ有セサルトキニ其届出ノ行爲ノミニ限り所在地ヲ以テ本籍地ト見做シタルマデニシテ必竟スルニ届出人ノ便利ヲ計リタルニ過キササルナリ故ニ其登記ハ第二十一條ヲ準用シ非本籍人登記簿ニ登記スルナリ

第四十三條 届出ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス但正當ノ事由アルトキハ届出人ハ戶籍吏ニ其理由ヲ陳述シ口頭ニテ届出ヲ爲スコトヲ得

届出ヲ爲スニハ書面ヲ以テ爲サル可ラス届書若シ正當ノ事由アルトキ例ヘハ届出人無筆ニシテ貧シク他人ヲ頼ム余力ナキトキノ如キハ届出人ハ戶籍吏ニ其理由ヲ陳述シ口頭ニテ届出ヲナスコトヲ得可シ而シテ口頭ニテ届出ヲ爲シタルトキハ第五十

四條ニ從ヒ届出人ハ戸籍吏ノ而前ニ出頭シ其届出事件ヲ陳述シ戸籍吏ハ直チニ其口述並ニ届出ノ年月日届出人ノ氏名出生ノ年月日族稱職業及ヒ本籍地ヲ筆記シ之ヲ届出人ニ讀聞カセ且届出人ヲシテ之ニ署名捺印セシムルコトヲ要スルナリ而シテ届出人署名スルコト能ハサルトキハ捺印スルヲ以テ足り印ヲ有セサルトキハ署名スルヲ以テ足り若シ署名捺印スルコト能ハサルトキハ捺印セシムヘシ(第二百十八條) 本條モ亦一般ノ場合ニ規定シタルモノニ因リ婚姻離婚、養子縁組、離縁ノ届出ハ口頭ニテモ書面ニテスルモ當事者ノ隨意ナルヲ以テ此場合ハ正當ノ事由アルコトヲ要セサルナリ

第四十四條 届書ニハ左ノ事項ヲ記載シ届出人之二署名捺印スルコトヲ要ス

- 一 届出事件
 - 二 届出ノ年月日
 - 三 届出人ノ族稱、職業、出生ノ年月日及ヒ本籍地
- 届書ニハ左ノ事項ヲ記載シ届出人之二署名捺印ス可シ
- 一 届出事件 届出事件トハ出生トカ死亡トカ或ハ婚姻トカ云フノ類是レナリ
 - 二 届出ノ年月日ハ其届出ノ懈怠等ヲ見ルノ必要アレハナリ
 - 三 届出人ノ族稱華族、士族、平民、職業官吏、農、商、工、出生ノ年月日及ヒ本籍地(何府縣市郡町村番地)

第四十五條 届出人ト届出事件ノ本人ト異ナルトキハ届書ニ其間ノ續柄ヲ記載スルコトヲ要ス

届出人カ家族ナルトキハ届書ニ戸主ノ氏名及ヒ届出人ト戸主トノ續柄ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 項 届出人ト届出事件ノ本人ト異ルトキ例ヘハ父母カ子ヲ生ミタルトキハ父又ハ母ヨリ届出ヲ爲サ、ル可ラス此場合ニハ届出人父又ハ母ト届出事件ノ本人子トハ異ルヲ以テ届書ニ其間ノ續柄即父又ハ母タルコトヲ記載セサル可ラス
- 二 項 届出人カ家族ナルトキハ例ヘハ戸主ナル父ノ下ニ在ル子カ婚姻シタルトキ其届出人ハ子ナルヲ以テ戸主ノ氏名及ヒ父子ノ續柄ヲ記載セサル可ラス

第四十六條 届出ヲ爲スヘキ者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ親權ヲ行フ者又ハ後見人ヲ以テ届出義務者トス

○第四章 身分ニ關スル届出 第四十五條、第四十六條

前項ノ場合ニ於テハ届出人ハ届書ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 届出ヲ爲スヘキ者ノ氏名、族稱、出生ノ年月日及ヒ本籍地

二 無能力ノ原因

三 届出人カ親權ヲ行フ者又ハ後見人タルコト

本條ハ届出ヲ爲スヘキ者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ何人ヲ以テ届出人トナ
スヘキヤヲ定メタルナリ

一 項 届出ヲ爲スヘキ者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ親權ヲ行フ父母又ハ後
見人ヲ以テ届出義務者トセリ而シテ未成年者ハ滿二十歳ニ至ラサルモノニシテ民
法第三條ニ禁治産者トハ法律行為ヲ爲スノ能力ヲ失ヒタル者ニシテ民法第七條ニ
因リ心神喪失ノ常況ニ在ル者ニ付テハ請求ニ因リ禁治産ノ宣告ヲナスコトヲ得ルナ
リ又準禁治産者ナル者アレトモ這ハ本法ニハ關係ナクハ愛ニ贅言セス
親權トハ未成年ノ子ノ監護教育懲戒等ヲ爲スノ權ヲ云フ此權ヲ行フ者ハ同居ノ父
若シ父カ知レサルトキ死亡シタルトキ家ヲ去リタルトキハ同居ノ母之ヲ行フ(民法
第八百七十七條)繼父繼母又ハ嫡母カ親權ヲ行フ場合ハ稍々異レリ(民法第八百七十

八條)

後見ノ開始スル場合ハ未成年者ニ對シテ親權ヲ行フ者ナキトキ又ハ親權ヲ行フ者
カ監理權ヲ有セサルトキ成年者カ禁治産ノ宣告ヲ受ケタルトキ是レナリ(民法第九
百條)

二 項 前項ノ場合ニ於テハ届出人ハ届書ニ左ノ事項ヲ記載セサル可ラス

一 届出ヲ爲スヘキ者即未成年者又ハ禁治産者ノ氏名族稱(華士族平民)出生ノ年月

日及ヒ本籍地

二 無能力ノ原因トハ未成年或ハ禁治産ヲ云フ

三 届出人カ親權ヲ行フ者即父トカ母トカ或ハ後見人タルコト

(參照)民法第三條 滿二十年ヲ以テ成年トス

全 第七條 心神喪失ノ常況ニ在ル者ニ付テハ裁判所ハ本人配偶者、四親等内ノ親族、戶主、後見人、保佐人又ハ檢事ノ請
求ニ因リ禁治産ノ宣告ヲ爲スコトヲ得

全 八百七十七條 子ハ其家ニ在ル父ノ親權ニ服ス但獨立ノ生計ヲ立ツル成年者ハ此限ニ在ラス父カ知レサルトキ死亡
シタルトキ家ヲ去リタルトキ又ハ親權ヲ行フコト能ハサルトキハ家ニ在ル母之ヲ行フ

全 第八百七十八條 繼父、繼母又ハ嫡母カ親權ヲ行フ場合ニ於テハ次章ノ規定ヲ準用ス

全 第九百條 後見ハ左ノ場合ニ於テ開始ス

○第四章 身分ニ關スル届出

一 未成年者ニ對シテ親權ヲ行フ者ナキトキ又ハ親權ヲ行フ者カ管理權ヲ有セサルトキ
二 禁治産ノ宣告アリタルトキ

第四十七條 前條ノ規定ハ無能力者カ其法定代理人ノ同意ヲ得スシテ爲スコトヲ得ヘキ行爲ノ届出ニハ之ヲ適用セズ

禁治産者カ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ届書ニ届出人カ届出事件ノ性質及ヒ効果ヲ理會スルニ足ルヘキ能力ヲ有スル者ナルコトヲ證スヘキ醫師ノ診斷書ヲ添フルコトヲ要ス

本條ハ前條ノ例外ヲ定メタルモノナリ

一項 前條ハ未成年者又ハ禁治産者ナルトハ親權ヲ行フ者又ハ後見人ニ於テ届出ヲ爲スヘキ旨ノ規定ニシテ本條ハ無能力者(未成年者禁治産者)カ法定代理人(親權ヲ行フ者後見人)ノ同意ヲ得スシテ單獨ニ爲スコトヲ得ヘキ行爲ノ届出ニ付テハ無能力者自ラ届出ヲナスコトヲ得ヘキ旨ヲ定メタルモノナリ而シテ無能力者カ單獨ニ爲スコトヲ得ヘキ行爲トハ例ヘハ無能力者カ隠居ヲ爲シ婚姻ヲ爲シ及ヒ私生子ノ認知ヲ爲スカ如シ(民法第七百五十六條第七百七十四條第八百二十八條)

二項 禁治産者ト雖モ時トシテ心神ノ恢復スル場合アレハ此時爲シタル届出ハ届書ニ届出人カ届出事件ノ性質(隠居婚姻私生子認知ノ何物タルコト)及効果(隠居ナレハ家督相續人タル身分ヲ失ヒ戸主タルヲ得サルカ如シ)ヲ理解スルニ足ル能力(働ラキ)ヲ有スル者ナルコトヲ證明ス可キ醫師ノ診斷書ヲ添付セサル可ラス如何ニ禁治産カ單獨ニ爲スコトヲ得可キ行爲ナレハトテ禁治産者ハ心神喪失ノ常況ニ在ル者ナレハ如何ナル事柄ヲ届出テタルヤ知ラサル様ニテハ届出ノ甲斐ナキニ依リ之ヲ理解スルニ足ル能力ヲ有シタルコトノ醫師ノ診斷書ヲ以テ之ヲ證スルナリ

(參照)民法第七百五十六條 無能力者カ隠居ヲ爲スニハ其法定代理人ノ同意ヲ得ルコトヲ要セズ

全 第七百七十四條 禁治産者カ婚姻ヲ爲スニハ其後見人ノ同意ヲ得ルコトヲ要セズ

全 第八百二十八條 私生子ノ認知ヲ爲スニハ父又ハ母カ無能力者ナルトキト雖モ其法定代理人ノ同意ヲ得ルコトヲ要セズ

第四十八條 證人ヲ要スル事件ノ届出ニ付テハ證人ハ届書ニ其證人タルコト、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地ヲ記載シテ署名捺印スルコトヲ要ス

證人ヲ要スル事件トハ例ヘハ婚姻及ヒ養子縁組ノ届出ハ當事者双方及ヒ成年ノ證人二人以上ヲ要スルカ如キ(民法第七百七十五條第二項第八百四十七條)遺言ヲ以テ養子

○第四章 身分ニ關スル届出 第四十八條

ヲ定メタルトキハ遺言執行者、養子ト爲ル可キ者及ヒ成年ノ證人二人以上ヨリ届出テザル可ラサルカ如キ(民法第八百四十八條)場合ニ於テハ證人ハ届書ニ其證人タルコト、出生ノ年月日職業及ヒ本籍地ヲ記載シテ署名捺印セザル可ラス

(参照)民法第七百七十五條

婚姻ハ之ヲ戸籍吏ニ届出ツルニ因リテ其効力ヲ生ス

前項ノ届出ハ當事者方及及ヒ成年ノ證人二人以上ヨリ口頭ニテ又ハ署名シタル書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

全 第八百四十七條

第七百七十四條(前條参照)及及ヒ第七百七十五條ノ規定ハ縁組ニ之ヲ準用ス

全 第八百四十八條

養子ヲ爲サント欲スル者ハ遺言ヲ以テ其意思ヲ表示スルコトヲ得此場合ニ於テハ遺言執行者、養子ト爲ルヘキ者又ハ第八百四十三條ノ規定ニ依リ之ニ代ハリテ承諾ヲ爲シタル者及ヒ成年ノ證人

二人以上ヨリ遺言カ効力ヲ生シタル後運滞ナク縁組ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス
前項ノ届出ハ養親ノ死亡ノ時ニ溯リテ其効力ヲ生ス

第八百四十三條養子トナルヘキ者ハ十五年未滿ナルトキハ其家ニアル父母之レニ代ハリテ縁組ノ承諾ヲ爲スコトヲ得繼父母又ハ嫡母方前項ノ承諾ヲ爲スニハ親族會ノ同意ヲ爲スコトヲ要ス

第四十九條 届出人、届出事件ノ本人又ハ届出ノ證人カ本籍地外ニ在ルトキハ届書ニ其所在地ヲ記載スルコトヲ要ス

届出人ト届出事件ノ本人ト異ルコトアルヘキコトハ第四十五條ニ於テ之ヲ説明セリ

其届出人届出事件ノ本人及ヒ前條ニ説明シタル届出ノ證人カ本籍地外ニ在ルトキハ届書ニ其所在地ヲ記載セザル可ラス

第五十條 本法ノ規定ニ依リ届書ニ記載スヘキ事項中其事實ノ存セサルモノ又ハ知レサルモノアルトキハ其旨ヲ記載スルコトヲ要ス但戸籍吏ハ各届出事件ニ付キ特ニ重要ト認ムル事項ヲ記載セザル届書ヲ受理スルコトヲ得ス

本法(戸籍法)ノ規定ニ依リ届書ニ記載スヘキ事項トハ第四十四條及各節ノ届出事項出生、死亡、婚姻、養子縁組、離婚等)是レナリ其事項中事實ノ存セサルモノトハ例ヘハ職業ナキ者或ハ本籍ナキ者ノ如シ又ハ事實ノ知レサルモノトハ例ヘハ出生ノ時日場所等ノ知レサルカ如シ此ノ如キ場合ニハ其旨ヲ記載セザル可ラス即無本籍又ハ出生ノ時日不明ト記載スルノ類是ナリ而シテ戸籍吏ハ各節ノ届出事件ニ付キ特ニ重要ト認ムル事項ヲ記載セザル届書ヲ受理スルコトヲ得ス而シテ重要トハ若シ其事項記載ナキニ於テハ如何ナル届出ナルヤ之ヲ知ルニ由ナキモノヲ云フ

第五十一條 届書ニハ本法其他ノ法令ニ定メタル事項ニ非サレハ之ヲ記載スルコトヲ得ス

○第四章 身分ニ關スル届出 第四十九條、第五十條、第五十一條 五七

届書ニハ戸籍法其他ノ法律命令法令ニ定メタル事項ニ非サレハ之ヲ記載ス可ラス是レ最モ注意スヘキ條項ナリ從來ハ適宜ニ文面ヲ作り形容ニ涉ル必要ナラサル事柄迄ヲモ記載シ其要點ヲ知ルニ苦ミシカ本法ハ記載スヘキ必要ナル事項ハ一々法文ヲ以テ之ヲ定メ其定メタル以外ノコトハ之ヲ記載スルコトヲ禁シタリ
戸籍法以外其他ノ法律命令ニ定メタル事柄トハ例ヘハ民法第七百七十五條ニ依リ婚姻届ハ戸籍法ノ外證人二人以上ヲ要スルカ如シ其他民法第八百四十七條第八百四十八條ノ類是レナリ此等ノ法文ハ第四十八條ノ下ニ掲出セリ

第五十二條 第二十九條ノ規定ハ届書ノ記載ニ之ヲ準用ス

第二十九條ハ戸籍吏ノ登記スルニ付テ注意ス可キ事項ナリシカ此注意ハ届出ヲ爲ス者ニ付テモ亦必要ナリ即チ届書ヲ記載スルニハ罫字符合ヲ用井ス字畫明瞭ナラサル可ラス年月日年齢數字ニハ壹貳參拾ノ文字ヲ用井一二三十ノ字ヲ用ウ可ラス又書損ナト在レハ之レニ貼リ紙手入レ等ヲ爲サズ其儘讀得ル様ニ爲シ置キ其欄外ニ改メタル文字ヲ書ク可シ又書キ入レ削シ取ル等ノコトアレハ何字削ルカ何字加ヘタト云フコトヲ欄外ニ記入ス可シ此等加ヘタル又ハ削シタル文字ノ前後及ヒ欄外記入ニハ届出人捺印ヲ爲ス可シ

第五十三條 本籍地ノ戸籍吏ノ管轄地外ニ於テ届出ヲ爲ストキハ届書ハ正副二本ヲ作ルコトヲ要ス

届出ニ因リ一人又ハ數人ノ本籍カ一ノ家ヨリ他ノ家ニ移轉スル場合ニ於テ兩家ノ本籍地カ戸籍吏ノ管轄ヲ異ニスルトキハ届書ハ正副二本ヲ作り届出地ト兩家ノ本籍地トカ各戸籍吏ノ管轄ヲ異ニスルトキハ正本一通副本二通ヲ作ルコトヲ要ス

本條ハ届出地ニ依リ届書ノ數ヲ異ニスル場合ヲ定メタルモノナリ

一 項 本條ハ第三十五條ニ該當スル場合ニシテ即チ本籍地ノ戸籍吏ノ管轄外ニ於テ届出ヲ爲ス場合ナリ此ノ場合ニ於テハ届出ハ正本副本ヲ要シ正本ハ戸籍吏ヨリ本籍地ヘ送ルヘキモノトス例ヘハ寄留地ニ於テ届出ヲ爲サントスルトキハ届書ハ正副二本ヲ作り之ヲ其寄留地ノ戸籍吏ニ差出ス可シ然ルトキハ戸籍吏ハ第三十五條ノ手續ヲ爲ス

二 項 本項ノ前段ハ第三十三條ニ該當スル例ヘハ夫婦ノ本籍カ絶家再興ノ届出ニ因リ甲ノ家ヨリ乙ノ家ニ移轉スル場合ニ於テ甲乙兩家ノ本籍地ヲ異ニシタル場合ニハ

○第四章 身分ニ關スル届出 第五十三條

届書ハ正副二本ヲ作ラサル可ラス後段ノ規定ハ第卅四條ニ該當スル場合ニシテ前段ト似テ非ナル所アレハ能ク能ク注意ス可シ前段ハ二戸籍吏ノ管轄ニ跨リタル場合ナレハ後段ハ三戸籍吏ノ管轄ニ属スル場合ナリ例ヘハ前例ニ於テ夫婦カ絶家再興ニ因リ甲家ヨリ乙家ニ移轉シ甲家乙家共ニ其戸籍吏ノ管轄ヲ異ニシタル場合ニ於テ右ニ關スル届出ヲ寄留地役場ニ於テ爲ストキハ届書ハ正本一逆副本二逆ヲ要ス可シ此場合ニ於テ戸籍吏ハ第三十四條ノ手續ヲ爲ス

届書副本ハ正本ヲ謄寫シタルマテニテ届出人ハ副本ニ捺印ヲ要セサルモノ、如クナルモ届出人ハ副本ニモ捺印スルコトヲ要ス之レ副本ト雖トモ何人カ作成シテ提出シタルモノナルカヲ明確ナラシムル爲メ必要ナリトス

第五十四條 口頭ヲ以テ届出ヲ爲スニハ届出人ハ戸籍吏ノ面前ニ出頭シ其届出事件ヲ陳述シ戸籍吏ハ直チニ其口述並ニ届出ノ年月日届出人ノ氏名、出生ノ年月日職業及ヒ本籍地ヲ筆記シ之ヲ届出人ニ讀聞カセ且届出人ヲシテ之ニ署名捺印セシムルコトヲ要ス

本條ハ口頭ヲ以テ届出ヲ爲シタル場合ニ關スル規定ナリ

口頭ヲ以テ届出ヲ爲スニハ届出人ハ先ツ戸籍吏ノ面前ニ出頭シ其届出ツ可キ事件ヲ述ヘ戸籍吏ハ直ニ其述ヘタル口供及ヒ届出ノ年月日届出人ノ氏名出生ノ年月日族稱職業及ヒ本籍地ヲ筆記シ届出人ニ之ヲ讀聞カセ届出人ヲシテ署名捺印セシムサル可ラス

本條ニ届出人ヲシテ署名云々トアリ若シ届出人署名ススルコト能ハス又印ヲ有セサルトキハ如何此ノ如キ場合ニハ第二百十八條ノ規定ヲ適用ス可キモノトス

第五十五條 前條ノ規定ニ依リテ戸籍吏カ作ルヘキ書面ニハ届書ニ關スル規定ヲ準用ス

前條ニ因リ戸籍吏ノ作ルヘキ書面ハ一見届出人ニ代リ代書スルモノ、如クナレトモ其本體ハ決シテ然ルニアラス普通ノ届書ハ一個人ノ作リタル私書證書ニ過サルモ前條ニ因リ戸籍吏ノ作リタル書面ハ公正證書ナリ此ノ如ク其形式ニ於テハ異レトモ其包含ス可キ事柄及記載方ハ届書ニ關スル第二十九條第四十四條乃至第五十三條及各種届出ノ規定ヲ準用セサル可ラス

第五十六條 第四十三條、第五十四條及ヒ前條ノ規定ハ届出事件ニ關スル同意、承
○第四章 身分ニ關スル届出 第五十四條、第五十五條 六一

諾又ハ承認ノ證明ニ之ヲ準用ス

第四十三條第五十四條及ヒ前條ノ口頭届出ニ關スル規定ハ届出事件ニ添付スル同意承諾又ハ承認ノ證明書ニモ之ヲ準用スルヲ以テ同意者承諾者又ハ承認者口頭ヲ以テ戸籍吏ノ面前ニ於テ陳述シタルトキ戸籍吏ハ右準用シタル條文ニ基キ之ヲ作ラサル可ラス

同意ノ事ハ第八十七條第九十八條第百三條第百四十七條第百五十六條等ニ於テ承諾ノコトハ第八十二條承認ノコトハ第百二十一條等ニ於テ之ヲ説明ス可シ

第五十七條 本法ニ別段ノ規定アル場合ノ外法令ノ規定ニ依リ届出事件ニ付キ官

廳ノ許可ヲ要スルトキハ届出人ハ届書ニ許可書ノ謄本ヲ添フルコトヲ要ス

戸籍法ニ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外法律命令ニ因リ届出事件ニ付官廳ノ許可ヲ必要トスルトキハ届出人ハ其許可書ノ謄本ヲ添付セサル可カラス例ハ歸化ヲ爲シタルモノ又ハ日本ノ國籍ヲ回復シタル者ハ内務大臣ノ許可書ノ謄本ヲ添へ届出ツルカ如シ(第百五十九條第百六十三條)裁判所ノ許可ヲ得テ隱居ヲナス場合ニハ其謄本ヲ添付セサル可ラス廢家ヲサントスル者ハ廢家ノ許可ニ關スル謄本ヲ添付セサル可ラ

サルカ如シ(非訟事件手續法第九十條第九十一條及本法第百二十條第百五十二條)法令ノ規定ニヨリ届出事件ニ官廳ノ許可ヲ要スル場合ハ例ハ華族ノ婚姻ニ宮内大臣ノ許可ヲ要スルカ如シ

(參照)非訟事件手續法第九十條

隱居ノ許可ハ隱居ヲ爲サントスル戸主ノ住所地ノ區裁判所ノ管轄トス

許可ノ申請ニハ法定ノ推定家督相續人ヲ表示ス又ハ家督相續人タルヘキヲ承認シタル者ヲ

表示シ且其者ヲシテ署名捺印セシムヘシ

隱居ノ許可ヲ與ヘタル裁判ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得ス

全 第九十一條

廢家ノ許可ハ廢家セントスル戸主ノ住所地ノ區裁判所ノ管轄トス

利害關係人及ヒ檢事ハ前項ノ許可ヲ與ヘタル裁判ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得

第七十八條ノ規定ハ前項ノ抗告ニ之ヲ準用ス

第五十八條 届出人カ疾病其他ノ事故ニ因リ自ラ戸籍吏ノ面前ニ出頭スルコト能ハサルトキ

ハサルトキハ代理人ヲ差出タスコトヲ得

届出人カ疾病其他正當ノ事故ニ因リ自ラ戸籍吏ノ面前ニ出頭スルコト能ハサルトキハ代理人ヲ差出スコトヲ得可シ而シテ代理人ヲ差出ス場合ニハ疾病其他ノ事故ニテ出頭スル能ハサル旨ヲ記載シタル書面ニ醫師ノ診斷書等ヲ添へ本人ノ署名捺印シタ

○第四章 身分ニ關スル届出 第五十七條、第五十八條

ル委任狀ヲ携帶セシムルヲ至當トス但第九十四條第一百條第一百八條第一百十三條ノ場
合ハ代理人ヲ許サ、ルナリ

第五十九條 外國ニ在ル日本人ハ本法ノ規定ニ從ヒ其國ニ駐在スル日本ノ公使又
ハ領事ニ届出ヲ爲スコトヲ得

外國ニ在ル日本人ハ戶籍法ノ規定ニ從ヒ届書ヲ作り其國ニ駐在スル日本ノ公使又ハ
領事ニ届出ヲ爲スコトヲ得ヘシト雖モ是レ届出人ノ便利ヲ計リタルニ過キサレハ本
則トシテハ第四十二條ニ從ヒ本籍地ニ届出ツヘキモノトス而シテ其届出ノ方法ハ郵
便ニ依ルモ差支ナカル可シ

第六十條 外國ニ在ル日本人カ其國ノ法式ニ從ヒ届出事件ニ關スル證書ヲ作ラシ
メタルトキハ三ヶ月内ニ其國ニ駐在スル日本ノ公使又ハ領事ニ其證書ノ謄本ヲ
差出タスコトヲ要ス

日本ノ公使又ハ領事カ其國ニ駐在セサルトキハ本人歸國ノ後一ヶ月内ニ本籍地
ノ戶籍吏ニ證書ノ謄本ヲ差出スコトヲ要ス

本條ハ外國ニ在ル日本人カ其國ノ法式ニ從ヒ届出事件ニ關スル證書ヲ作りタル場合

ナリ

一項 外國ニ在ル日本人カ此ノ戶籍法規定ニ依ラス其國ノ法式ニ從ヒ届出事件ニ關
スル證書ヲ作ラシメタルトキハ三ヶ月内ニ其國ニ駐在スル日本ノ公使又ハ領事ニ其
證書ノ謄本ヲ差出サ、ル可ラス是レ法律ハ通常其國內ニ在ル内外人ヲ支配スル者
ナレハ其國法ニ從ヒ作りタル場合アルヲ想像シタルモノナリ

二項 若シ日本ノ公使又ハ領事カ其國ニ駐在セサルトキハ本人歸國シタル後一ヶ月
内ニ本籍地ノ戶籍吏ニ證書ノ謄本ヲ差出サ、ル可ラス

第六十一條 前二條ノ規定ニ依リテ公使又ハ領事カ受取リタル届書又ハ證書ノ謄
本ハ其公使又ハ領事ヨリ三ヶ月内ニ之ヲ外務大臣ニ發送シ外務大臣ハ十日内ニ
之ヲ本人ノ本籍地ノ戶籍吏ニ發送スルコトヲ要ス

本條讀マテ字ノ如ク別ニ説明スルノ要ナシ

第六十二條 本法ニ定メタル届出期間ハ届出事件ノ發生シタル日ヨリ之ヲ起算ス
裁判確定ノ日ヨリ期間ヲ起算スヘキ場合ニ於テ届出義務者カ裁判ノ送達又ハ交
付ヲ受クル前裁判カ確定シタルトキハ其送達又ハ交付ヲ受ケタル日ヨリ之ヲ起

○第四章 身分ニ關スル届出 第五九條 第六十條 第六十一條 第六十二條 六五

算ス

本條ハ届出期間ノ起算點ヲ定メタルモノナリ

一 項 本法ニ定メタル届出期間ハ届出事件ノ發生シタル日例ハ出生ナレハ出生シタル日死亡ナレハ死亡シタル日ヨリ起算シテ届出期間ヲ定ムルナリ

二 項 裁判確定ノ日ヨリ期間ヲ起算スヘキ場合ハ第七十三條第七十九條ノ如キ是ナリ民事ノ裁判(判決及ヒ言渡サ、ル決定命令)ハ通常送達ニヨリテ上訴期間ノ進行スルモノナレハ其上訴期間ヲ經過スレハ爰ニ始メテ確定ノ効力ヲ生ス然レモ上告裁判ハ言渡書ノ送達ニヨリテ直ニ確定ノ効力ヲ生スルナリ要スルニ當事者間ニ於テハ裁判ノ送達前ニ確定スルカ如キ場合ハ之レナカル可シト雖モ本條ノ届出義務者ハ必シモ裁判ノ當事者ニアラサレハ他人間ノ裁判ハ仮令ハ確定スルモ之ヲ知ルニ由ナキニハ届出義務者ニ對シテハ裁判ノ送達又ハ交付ヲ受クタル日ヨリ之ヲ起算スヘキモノトナサ、ル可ラス又非訟事件ノ如キハ其裁判ヲ爲トス同時ニ確定スルモノナレハ其裁判ノ送達又ハ交付ヲ受クタル日ヨリ起算スヘキモノトス

第六十三條 本法ノ規定ニ依リ期間内ニ爲スヘキ届出ヲ怠リタル爲メ過科ニ處セラタル者アルトキハ裁判所ハ遲滯ナク其者カ届出ヲ爲スヘキ地ノ戶籍吏ニ之ヲ

通知スルコトヲ要ス但戶籍吏ヨリ既ニ届出ヲ受理シタル旨ノ通知アリタル場合ハ此限ニ在ラス

戶籍吏カ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ届出義務者ニ對シ相當ノ期間ヲ定メ其期間内ニ届出ヲ爲スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ要ス

届出義務者カ前項ノ期間内ニ届出ヲ爲ササルトキハ戶籍吏ハ更ニ相當ノ期間ヲ定メテ催告ヲ爲スコトヲ要ス爾後届出義務者カ戶籍吏ノ催告ニ應セサルトキ亦同シ

本條ハ期間内ニ届出ヲ爲スコトヲ怠リタル爲メ過科ニ處セラレタル者ニ對シテ爲スヘキ方法ヲ定メタルモノナリ

一 項 本法ノ規定ニ依レハ期間内ニ届出ヲ怠リタル者ハ第二百十條ニ因リ拾圓以下ノ過科ニ處セラレル此過科ニ處セラレタル者アルトキハ裁判所ハ猶豫ナク其届出懈怠者カ届出ヲ爲ス可キ地ノ戶籍吏ニ之ヲ通知セサル可ラス是レ届出ヲ催告スルカ爲メナレハ戶籍吏ヨリ既ニ届出ヲ受理シタル旨ノ通知アリタルトキハ其過料ニ處セラレタル旨ノ通知ヲ爲スニ及ハサルナリ

○第四章 身分ニ關スル届出 第六十三條

二項 戸籍吏カ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ届出義務者ニ對シテ相當ノ期間ヲ定メ其期間内ニ届出ヲ爲スヘキ旨ヲ催告ス可シ此ノ催告ヲ爲シタルニ拘ハラス尙ホ届出ヲ爲サ、ルトキハ第二百十條ニ因リ貳拾圓以下ノ過科ニ處セラル可シ

三項 前項ノ届出ヲ爲サ、ルトキハ戸籍吏ハ幾回ニテモ相當ノ期間ヲ定メ之ヲ催告ス可シ此場合ニ於ケル過科モ亦前項ニ全シ

第六十四條 戸籍吏カ其管轄内ニ本法ノ規定ニ違反シテ届出ヲ爲ササル者アルコトヲ知りタルトキハ遲滞ナク之ヲ其事件ノ管轄裁判所ニ通知スルコトヲ要ス

戸籍吏ハ其管轄内ニ届出テヲ爲サ、ル違犯者アルトキハ本籍人ナルト居住人ナルトニ關ハラス其事件ノ管轄區裁判所ニ通知セサル可ラス爰ニ通知ト云フハ刑事訴訟法ノ告發ト異ニシテ届出違犯ハ刑事ノ犯罪ニアラス一種ノ取締違犯ナレハ告發ト區別センカ爲メ特ニ通知ト云ヒタルナリ其通知ヲ受ケタル裁判所ニ於テハ非訟事件トシテ之ヲ取扱フ

第六十五條 届出期間ヲ經過シタル後ニ届出ヲ爲シタル場合ト雖モ戸籍吏ハ其届出ヲ受理スルコトヲ要ス

届出期間ヲ經過シタル者ニ對シテハ催告シテモ之ヲ届出テシムル事ハ第六十三條ノ規定スル處ナリ故ニ其期間ヲ經過シタル後ニ届出ヲ爲シタル場合ト雖モ戸籍吏ハ之ヲ受理スヘキコトハ當然ナレハナリ

第六十六條 届出人ハ手数料ヲ納付シテ届出受理ノ證明書ヲ請求スルコトヲ得

届出人ハ手数料ヲ納付スレハ何時ニテモ届出受理ノ證明書ヲ請求スルコトヲ得ヘシ是レ届出人ハ身分上ノ關係ヨリ權利上ニ重大ノ影響ヲ及ホス場合アルヲ以テナリ然レトモ届出人以外ノ者ハ仮令手数料ヲ納ムルモ之ヲ許サ、ルナリ而シテ爰ニ届出人トハ届出事件ノ本人ヲモ包含スルモノト解釋スルヲ至當トス

第六十七條 届出ニ關スル規定ハ登記ノ取消又ハ變更ノ申請ニ之ヲ準用ス

本章第一節ヨリ第二十一節ニ規定シタル届出ノ規則ハ登記取消ノ申請及變更ノ申請ニ性質上差支ナキ限リハ之ヲ準用スルヲ以テ取消及變更ノ場合ニハ此規則アルコトヲ念頭ニ置キ先ツ届書ト比較シテ之ヲ取扱フコトニ注意ス可シ

第二節 出生

出生トハ子カ母ノ胎内ヨリ生レタルヲ云フモノニシテ此出生ニ依リ子タル身分ヲ得

○第四章 身分ニ關スル届出 第百四條 第百五條 第百六條 第百七條 六九

ルモノナリ故ニ出生ハ之レテ戸籍吏ニ届出テサルヘカラス即チ本節ハ出生ノ届出ニ特別必要ナル事柄ノミテ規定シタルモノナレハ本節ノ外第一節通則ノ部ニ於テ説明シタル如ク總テノ身分ニ通シ適用スヘキ第一節通則ノ規定ニ依リテ届出ルコトヲ要ス然レトモ本節ト第一節ト其規定ストコロ異ナルトキハ出生届出ニ特別必要條件タル本節ノ規定ニ依ルヘキハ勿論ナリトス例ヘハ通則第四十二條ニ身分ニ關スル届出ハ其届出人ノ本籍地ノ戸籍吏ニ爲ステ本則トシ變則トシテハ所在地ニ於テモ亦届出ヲ爲スコトヲ得ル旨ヲ規定セリ然ルニ本節第六十九條ニハ出生地又ハ父母ノ本籍地若クハ寄留地ノ戸籍吏ニ爲スヘキモノトセリ又届出ハ本人又ハ第四十六條ニ依リ親權ヲ行フ者若クハ後見人ヨリ爲スヘキモノナルモ本節ニハ父母届出ヲ爲スコトヲ能ハサルトキハ(一)戸主(二)同居者(三)分産ニ立會ヒタル醫師又ハ産婆(四)分産ヲ介抱シタル者ハ順次届出義務者トナリ(第七十一條)又特別ノ場合ニ於テ出生届出ニ付テハ病院監獄其他公設所ノ長若クハ管理人モ届出人トナル(第七十四條)

第六十八條 子ノ出生アリタルトキハ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

- 一 子ノ名及ヒ男女ノ別
- 二 子カ私生子ナルトキ又ハ出生前ニ認知セラレタル爲メ庶子ト爲リタル者ナルトキハ其旨
- 三 出生ノ年月日時及ヒ場所
- 四 父母ノ氏名、族稱、職業及ヒ本籍地但私生子ノ届出ニ付テハ母ノ氏名、族稱、職業及ヒ本籍地ノミナ記載スルコトヲ要ス
- 五 出生子ノ入ルヘキ家ノ戸主ノ氏名、族稱、職業及ヒ本籍地
- 六 出生子カ一家ヲ創立スル者ナルトキハ其旨及ヒ創立ノ原因
- 七 國籍ヲ有セサル者ノ子ナルトキハ其旨

本條ハ出生ノ届出ヲ爲ス場合ニ必要ナル事柄ヲ示定シタルモノナリ
 子ノ生レタルトキハ十日ノ内ニ戸籍吏ニ届出ツヘキモノニシテ何人ヨリ何處ノ戸籍吏ニ届出ヲ爲スヘキモノナルヤ次條以下ニ規定シアリ且各條ノ下ニ於テ説明シアルヲ以テ茲ニハ之レヲ畧シ先ツ出生届書(正當ノ事由アルキハ口頭ニテ届出ヲ爲スコトヲ得ルモ書面ヲ以テ爲ステ本則トス故ニ書面届出ノ例ヲ示ス(四三)ニハ如何ナル事柄

ヲ具備スヘキモノナルカ是レ本條ニ掲ケタル一ヨリ七マテノ事柄ヲ具ヘ且ツ身分ニ關スル届出ノ一般ニ通シ用ユル第一節通則ノ第四十四條ノ事柄ヲモ記載シ届出人ノ氏名ヲ書シ其名下ニ實印ヲ押スモノナリ若シ印ヲ有セサルトキハ氏名ヲ書スルノミニテ足リ氏名ヲ書スルコト能ハサルトキハ代書セシメ押印スルノミニテ足ル又何レモ出來サルトキハ其事由ヲ付記シ捺印ノミニテモ差支ナシ(第二百十八條)

届出人ハ各條ヲ參照セスシテ容易ニ届書ヲ作ルノ便ヲ謀リ戸籍吏ハ一目シテ其届書ハ適法ノモノナルヤ否ヲ調査スルノ捷徑ヲラシムル爲メ附録トシテ届出子、私生子、庶子、庶子ノ父ノ家ニ入ルコトヲ得サルノ例等各種出生届書式ヲ示セリ
本條ニ掲クル出生届書ニ記載スヘキ必要ナル一ヨリ七マテノ事柄ヲ一々左ニ之ヲ説明セシ

- 一 生レタル子ノ名前苗字ヲ記載スルニ及ハス及ヒ男ナルカ女ナルカノ區別例ヘハ長男某次女某ト記載スルノ類
- 二 子ハ夫婦間ニ生ルヘキモノナレハ夫婦間ニ生レタル子即嫡出子ハ特ニ嫡出子ナル旨ヲ表明記載スルニ及ハスシテ變例ナル場合即夫ナキ者ノ産ミタル子ニシテ父カ已ノ子ナルコトヲ認メサル者ヲ私生子ト云ヒ又生レサル前即母ノ胎内ニア

ル子ヲ父カ已ノ子ナルコトヲ認メタルトハ始メヨリ庶子ト云フ(民法第八百二十七條第八百三十一條)此場合ハ私生子ナルコト又ハ出生前ニ認知セラレタル爲メ庶子トナリタル者ナルト記載スルヲ要ス而シテ茲ニ注意スヘキハ私生子カ生レテ後父カ已ノ子ナルコトヲ認メタルトキハ第八十條ニ依リ更ニ私生子認知ノ届出ヲ爲スヘキコトナリ此認知ノ届出ヲ爲ストキ未タ出生ノ届出ヲ爲サザルトキハ同時ニ出生ノ届出ヲ爲スヘシ

(參照)民法第八百二十七條 私生子ハ其父又ハ母ニ於テ之ヲ認知スルコトヲ得

父カ認知シタル私生子ハ之ヲ庶子トス

全 第八百三十一條 父ノ胎内ニ在ル子ト雖モ之ヲ認知スルコトヲ得此場合ニ於テハ母ノ承諾ヲ得ルコトヲ要ス父又ハ母ハ死亡シタル子ト雖モ其直系卑屬アルトキニ限り之ヲ認知スルコトヲ得此場合ニ於テ其直系卑屬カ成年者ナルトキハ其承諾ヲ得ルコトヲ要ス

三 子ノ生レタル年月日ト時間マデ記載シ且ツ生レタル場所ヲ記載スヘキモノトス若シ漁車又ハ航海日誌ヲ備ヘサル船舶(航海日誌ヲ備アル船舶ニ付テハ第七十八條ニ規定ス)ノ進行中ニ出生アリタルトキハ場所一定セサルヲ以テ本法ハ第七十條ニ到着地ヲ出生ノ地ト看做ス旨ヲ規定セリ

○第四章 身分ニ關スル届出 第六十八條

四 生レタル子ノ父母ノ氏名、族稱、職業、及ヒ本籍地若シ私生子ナルトキハ父ノアラサルヲ以テ此場合ハ母ノ氏名、族稱、職業、及本籍地ヲ記載スヘキモノトス

五 子ハ父ノ家ニ入ルヲ通例トシ父ノ知レサル子ハ母ノ家ニ入ルヘキモノナリ故ニ其父母カ戸主ナルト家族ナルトニ拘ラス生レタル子ハ家族タル身分ヲ得ルモノナリ而シテ何人ノ家族タルヤ之ヲ知ルニハ戸主タルモノ、表示カ必要ナルヲ以テ子ノ入ルヘキ家ノ戸主ノ氏名、族稱、職業、及本籍地ヲ記載スヘキコトヲ本號ニ於テ規定セリ

(參照)民法第七百三十二條 戸主ノ親族ニシテ其家ニ在ル者及ヒ其配偶者ハ之ヲ家族トス

戸主ノ變更アリタル場合ニ於テハ舊戸主及ヒ其家族ハ新戸主ノ家族トス

全 第七百三十三條 子ハ父ノ家ニ入ル

父ノ知レサル子ハ母ノ家ニ入ル
父母共ニ知レサル子ハ一家ヲ創立ス

六 生レタル子ハ通例父ノ家ニ入りテ家族ト爲ルヘキモノナルモ時ニ或ハ父ノ家ニ入ルコトヲ得サル場合アルノミナラス母ノ家ニモ入ルコトヲ得サル場合アリ故ニ斯カル場合ハ一家ヲ創立シ戸主ト爲ルコトアルヘシ即チ民法第七百三十三條

ニ依リ父ノ知レサルトキハ母ノ家ニ入ルヘキモノナルモ父母共ニ知レサルトキハ其子ハ一家ヲ創立スルモノトセリ又民法第七百三十五條ニ私生子カ母ノ家ニ入ルコトヲ得サルトキ亦一家ヲ創立スヘキコトヲ規定セリ是レ一家ヲ創立スルモノトセサレハ數歳月ノ間無籍者ヲ出タスニ至ルヲ以テナリ故ニ屆替ニハ一家ヲ創立スルコト及ヒ父母共ニ知レサルコト又ハ父母ノ家ニ入ルコトヲ得サルトキ即一家創立ノ原因ヲ記載スヘキコトヲ規定セリ

(參照)全 第七百三十五條 家族ノ庶子及ヒ私生子ハ戸主ノ同意アルニ非サレハ其家ニ入ルコトヲ得ス

庶子カ父ノ家ニ入ルコトヲ得サルトキハ母ノ家ニ入ル
私生子カ母ノ家ニ入ルコトヲ得サルトキハ一家ヲ創立ス

七 國籍ヲ有セサル者ノ子カ日本ニ於テ産レタルトキハ國籍ヲ有セサル者ノ子ナルコトヲ届出シムル必要アルヲ以テ本號ニ之レヲ規定セリ元來本號ハ日本ニ於テ生レタル子ノ父母共ニ知レサルトキ又ハ國籍ヲ有セサルトキハ其子ハ之ヲ日本入トスト規定セル國籍法案ニ基キ之レヲ設タルモノナリ然ルニ該國籍法案ハ議會ノ議決ヲ經ルニ至ラサレトモ參照トシテ爰ニ援用ス

(參照)國籍法案第三條 父カ知レサル場合又ハ國籍ヲ有セサル場合ニ於テ母カ日本人ナルトキハ其子ハ之ヲ日本人トス

全 第四條 日本ニ於テ生マレタル子ノ父母共ニ知レサルトキ又ハ國籍ヲ有セサルトキハ其子ハ之ヲ日本人トス

○第四章 身分ニ關スル届出 第六十八條

第六十九條 嫡出子出生ノ届出ハ出生地又ハ父母ノ本籍地若クハ寄留地ノ戶籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

庶子出生ノ届出ハ出生地又ハ父ノ本籍地若クハ寄留地ノ戶籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス但庶子カ父ノ家ニ入ルコトヲ得サル場合ハ此限ニ在ラス

私生子又ハ父ノ家ニ入ルコトヲ得サル庶子ノ出生ノ届出ハ出生地又ハ母ノ本籍地若クハ寄留地ノ戶籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

本條ハ出生届ハ何レノ戶籍吏ニ爲スヘキモノナルヤヲ規定シタルモノナリ出生届ハ何人ヨリ之レヲ爲スヘキモノナルカ开ハ第七十一條第七十四條ニ規定セルヲ以テ茲ニ贅セス身分ニ關スル届出ハ通則ニ依リ届出人ノ本籍地又ハ所在地ノ戶籍吏ニ爲スヲ通例トスレトモ出生届出ニ付テハ本條ノ例外ヲ定メタリ又出生届ハ嫡出子庶子又ハ私生子等子ノ資格ニ付キ自然届出ツヘキ地ヲ異ニス故ニ左ニ區別シテ之ヲ示ス

(一) 嫡出子

嫡出子ハ正當ナル夫婦ノ間ニ懐胎シタル子ニシテ父ノ家ニ入ルヘキモノナリ(民法第七百三十三條第一項前條第五號參照參看)

(イ) 出生地

出生地トハ子ノ生レタル場所ナルヲ以テ別段疑ナキモ若シ汽車又ハ船舶ノ進行中等ニ生レタルトキハ何レヲ出生地トスヘキヤノ疑問ヲ生ス故ニ此場合ハ出生シタル者ノ到着地ヲ出生地ト看做ス(第七十條)

(ロ) 父母ノ本籍地

(ハ) 父母ノ寄留地

(二) 庶子

(イ) 出生地

(ロ) 父ノ本籍地

(ハ) 父ノ寄留地

(ニ) 父ノ家ニ入ルコトヲ得サルトキハ母ノ本籍地

(ホ) 父ノ家ニ入ルコトヲ得サルトキ母ノ寄留地

何故ニ庶子カ父ノ家ニ入ルコトヲ得サルカ即戸主ニアラサル者ノ庶子ハ戸主ノ同意アルニ非ラサレハ其家ニ入ルコトヲ得ス故ニ母ノ家ニ入ルヘキモノトス(民法第七百三十五條前條第六號參照參看)

○第四章 身分ニ關スル届出 第六十九條

(三) 私生子

(イ) 出生地

(ロ) 母ノ本籍地

(ハ) 母ノ寄留地

以上列記スル地ノ一ノ戸籍吏ニ届出ヲ爲スヘキモノトセリ

茲ニ注意スヘキハ家族ノ庶子及私生子ハ戸主ノ同意アルニ非ラサレハ戸主ノ家ニ入ルコトヲ得サルモノナルヲ以テ此庶子及ヒ私生子ノ戸主ノ家ニ入ルヘキ場合ハ出生届出ノ外ニ第四百四十六條第四百四十七條ニ依リ戸主ノ同意ノ證書ヲ添ヘ又ハ同意者ヲシテ同意ノ旨ヲ届書ニ付記シ之ニ署名捺印セシメテ入籍ノ届出ヲ爲スヘキコト之レナリ

第七十條 瀛車又ハ航海日誌ヲ備ヘサル船舶中ニテ出生アリタル場合ニ於テハ其届出ニ付テハ到着地ヲ以テ出生地ト看做ス

前條ニ於テ出生届出ハ出生地ノ戸籍吏ニ爲スコトヲ許セリ之レ甚便宜ナリトス然ルニ進行中ノ瀛車又ハ船舶内ニテ出生シタル子ノ出生地ハ瀛車又ハ船舶カ進行シツ、アリシ際ナレハ數町村ニ跨ル場合モアルヘク又ハ大洋中ノ如キ何レノ國ニモ屬セザ

ル場所モアルヘキヲ以テ實際出生地戸籍吏ニ届出ルノ困難ナルノミナラス事實行ハレサルユトアルヲ以テ本條ニ於テハ實際ノ出生地ニアラサル其到着地ヲ出生ノ地ト看做スコトヲ規定セリ而シテ到着地トハ全ク到着スヘキ目的地ナルカ出生後第一番ニ着セシ地ヲ云フカ將又分娩セシ母子ノ着セシ場所ヲ指スモノナルヤ之レヲ決定シ置クヘキ必要アルモノナリ例ヘハ或婦人新橋發神戸着下リ列車ニ新橋ヨリ乗車シ神奈川驛ト横濱驛ノ間ニ於テ出産ヲ爲シ静岡ニ下車シタルトキハ出生地ハ神戸ナルカ横濱ナルカ又静岡ナルカ此場合ニ於テハ静岡ヲ以テ出生地ト決セサルヘカラス若シ否ラスシテ横濱ナリトセハ途中ニ下車シテ横濱市ノ戸籍吏ニ届出テサルヘカラス又瀛車カ全ク到着スヘキ神戸ナリトセハ静岡ニ到着シタルニ拘ラス神戸市ノ戸籍吏ニ届出サルヲ得サルノ不都合ヲ生シ折角出生届出ノ便宜ヲ計リテ規定シタル本條ノ精神ニ反スニ至ルヲ以テ瀛車ノ到着地如何ニ拘ハラス到底分娩者ノ到着地ヲ出生地ト爲スヲ相當ナリトス船舶ニ於ケルモ亦同一理ナルヲ以テ更ニ贅セス茲ニ注意スヘキハ本條ニ航海日誌ヲ備ヘサル船舶ニ限リタルコト之レナリ之レ航海日誌ヲ備フル船舶内ノ出生ニ付テハ第七十八條ニ特ニ規定アルヲ以テナリ

第七十一條 嫡出子生出ノ届出ハ父ヨリ之ヲ爲シ父カ届出ヲ爲スコト能ハサル場

○第四章 身分ニ關スル届出 第七十條、第七十一條

合及ヒ民法第七百三十四條第一項、第二項但書ノ場合ニ於テハ母ヨリ之ヲ爲スコトヲ要ス

庶子出生ノ届出ハ父ヨリ之ヲ爲シ私生子出生ノ届出ハ母ヨリ之ヲ爲スコトヲ要ス

前二項ニ掲ケタル者ヨリ届出ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ左ニ掲ケタル者ハ其順序ニ從ヒ届出ヲ爲ス義務ヲ負フ

第一 戸主

第二 同居者

第三 分娩ニ立會ヒタル醫師又ハ産婆

第四 分娩ヲ介抱シタル者

同順位ノ届出義務者數人アルトキハ其中ノ一人ヨリ届出ヲ爲スヲ以テ足ル

本條ハ出生届出ハ何人ヨリ之ヲ爲スヘキモノナルカヲ規定セリ

一項 嫡出子出生ノ届出ハ其父ヨリ届出ヲ爲スヘキモノニシテ若シ父カ不在者ナ

トキ又ハ戰爭地ニアルトキ外國ニアルトキ商業上其他ノ事故ニ因リ他出シタルトキハ多クハ出生ノ事實ヲ知ラス若シ其事實ヲ知リタルモ遠隔地ニアリテ十日ノ期間内ニハ到底届出ヲ爲シ能ハサルコトアルヘク又絶對ニ届出ヲ爲スコトヲ得サルコトアルヘシ斯カル場合ハ母ヨリ届出ヲ爲スヘキモノトセリ又父カ子ノ出生前ニ離婚又ハ離縁ニ因リテ其家ヲ去リタルトキ其子ハ民法第七百三十三條第六十八條第五號參照參看ニ依リ父ノ家ニ入ルヘキモノ、如クナルモ此場合ハ懐胎ノ始メニ父カ屬セシ家即チ母ノ家ニ入ルヘキモノナルヲ以テ(民法第七百三十四條第一項)又母ヨリ届出ヲ爲スヘキモノナリ而シテ又子ノ出生前ニ父母共ニ其ノ家ヲ去リタルトキハ先キニ父母ノ屬セシ家へ何等關係ナキヲ以テ出生子ハ其父ノ家ニ入ルヘキモノナルモ子カ生レサル前ニ母カ再ヒ元ノ家ニ復籍シタルトキハ(民法第七百三十四條第二項但書)父ノ其家ニ在ラサルヲ以テ此場合モ亦母ヨリ届出ツヘキモノトス

(參照民法第七百三十四條 父カ子ノ出生前ニ離婚又ハ離縁ニ因リテ其家ヲ去リタルトキハ前條第一項ノ規定ハ懐胎ノ始ニ溯リ

テ之ヲ適用ス

前項ノ規定ハ父母カ共ニ其家ヲ去リタル場合ニハ之ヲ適用セス但母カ子ノ出生前ニ復籍ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス

二項 庶子ハ届ノ家ニ入ルヘキモノナルヲ以テ其出生届ハ父ヨリ之ヲ爲スモノトシ

○第四章 身分ニ關スル届出 第七十一條

私生子ハ父ノ知レサルモノナレハ母ノ家ニ入ルヘキモノナリ(民法第七百三十五條)
故ニ其届出ハ母ヨリ之ヲ爲スヘキモノトス

(参照)民法第七百三十五條 家族ノ庶子及ヒ私生子ハ戸主ノ同意アルニ非サレハ其家ニ入ルコトヲ得ス

庶子カ父ノ家ニ入ルコトヲ得サルトキハ母ノ家ニ入ル

私生子カ母ノ家ニ入ルコトヲ得サルトキハ一家ヲ創立ス

三項 以上嫡出子、庶子、私生子ノ出生届ヲ爲スヘキ第一順位ノ義務者ヲ定メタルモノ
ナレトモ其者カ第一項ニ述ヘタル如ク更ニ差支等ノ爲メニ其届出ヲ爲ス能ハサル
トキハ他ニ届出ヲ爲スヘキ義務アル者ヲ定メタリ即第一順位届出人ニ次テ出生届
出ノ義務者ハ左ノ順序ニ從ヒ届出ヲ爲サ、ルヘカラス若シ此届出義務者カ正當ノ
理由ナクシテ十日ノ期間内ニ其届出ヲ爲サ、ルトキハ過料ニ處セラルヘキハ當然
ナリ故ニ此第二義務者タルモノハ注意セサルヘカラス是ヨリ第二届出義務者ノ順
位ニ付キ每號説明スヘシ

第一 戸主ハ其家族ノ身分ニ關スル届出ニ付テハ從來總テ之レヲ爲スノ慣例ナリ
シカ本法ハ之ヲ改メ殊ニ出生届ハ父又ハ母ヨリ届出ヘキコトヲ規定セリ然レト
モ戸主權ハ尙重大ニシテ家族ヲ扶養スル義務アルト同時ニ家族ヲシテ戸主ニ從

ハシムルノ權利アルモノナリ故ニ戸主ハ其家族タル出生子ノ父母カ届出ツヘキ
義務ヲ盡ス能ハサル場合ハ他ノ者ニ先立テ第一ニ届出義務ヲ負フモノトセリ
第二 戸主カ届出ヲ爲ス能ハサルトキハ同一戸籍内ニアリテ同居スルモノハ勿論
親族關係ナキモノト雖モ現ニ其家ニ同居スル僕婢ノ如キモ亦届出ノ義務ヲ負フ
ヘキモノナリ

第三 戸主又ハ同居者モ届出ヲ爲ス能ハサルトキハ分焼ノ際立會タル醫師又ハ産
婆モ同居者ニ次テ届出義務アルモノトセリ

第四 第一乃至第三ノ者届出ヲ爲ス能ハサルトキハ分焼ヲ介抱シタル者モ第三ニ
次テ届出義務ヲ負フモノナリ

右ノ順序ニ依リ届出義務者ヲ規定シタリ然レトモ同順位ノ者數人アルトキ例ヘハ
同居スル者二人以上アルトキハ其中ノ一人ヨリ届出ヲ爲スヲ以テ足ル
病院監獄等特別ノ場所ニテ出生アリタル場合ニ於テ本條第一順位義務者届出ヲ爲
ス能ハサルトキハ其所屬ノ長又ハ管理人ヨリ届出ヘキモノトス并ハ第七十四條ニ
説明ス

第七十二條 夫ハ妻ノ子ノ嫡出ナルコトヲ否認セントスル場合ト雖モ前條第一項

○第四章 身分ニ關スル届出 第七十二條

ノ規定ニ依リ出生ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

妻カ婚姻中ニ懐胎シタル子及ヒ婚姻成立ノ日ヨリ二百日後又ハ婚姻ノ解消若クハ取消ノ日ヨリ三百日内ニ生レタル子ハ夫ノ子ト推定スルコトヲ民法第八百二十條ニ規定セリ之レ一應ノ推定ニシテ夫ニ反證アルトキハ訴ノ提起ヲ許セリ故ニ其夫ハ否認ノ裁判ニ依リテ子ノ届出ナルトテ否認シ得ルモノナリ(民法第八百二十二條)此届出子ヲ否認セントスル場合ト雖トモ裁判ノ確定セルマテハ先ツ前條第一項ニ依リ届出子出生ノ届出ハ必ス夫ヨリ爲シ置サルヘカラス此届出子爲シタレハトテ届出子ナルコトヲ認メタルニアラス既ニ述ヘタル如ク否認ノ訴ヲ提起シ否認ノ裁判カ確定シタルトキハ第七十九條ニ依リ届出子否認届出ヲ爲スニ於テハ當初ノ目的ヲ達スルヲ以テ本條ニ依リテ先キニ爲シタル届出子出生届出ハ否認ノ訴ノ妨トナルコトナシ若シ本條ノ規定ナキニ於テハ届出子ヲ否認セントスル者ハ出生届出ヲ裁判確定ノ後ニ讓リ永ク無藉者ト爲シ置クニ至ルテ以テ本條ハ之レカ救済ノ方法ヲ立テタルモノナリ

(参照)民法第八百二十條

妻カ婚姻中ニ懐胎シタル子ハ夫ノ子ト推定ス

婚姻成立ノ日ヨリ二百日後又ハ婚姻ノ解消若クハ取消ノ日ヨリ三百日内ニ生レタル子ハ婚姻中ニ懐胎シタルモノト推定ス

全 第八百二十二條 第八百二十條ノ場合ニ於テ夫ハ子ノ届出ナルコトヲ否認スルコトヲ得

全 第八百二十三條 前條ノ否認届出子又ハ其法定代理人ニ對スル訴ニ依リテ之ヲ行フ但夫カ子ノ法定代理人ナルトキハ親

判所ハ特別代理人ヲ擔任スルコトヲ要ス

第七十三條 民法第八百二十一條ノ規定ニ依リ裁判所カ出生子ノ父ヲ定ムヘキト

キハ出生ノ届出ハ母ヨリ之ヲ爲スコトヲ要ス此場合ニ於テハ其届書ニ父ノ未定ナル事由ヲ記載スルコトヲ要ス

父カ裁判ニ依リテ定マリタルトキハ其父ハ裁判確定ノ日ヨリ一ヶ月内ニ第六十八條ニ掲ケタル諸件ヲ具シ裁判ノ謄本ヲ添ヘテ届出ヲ爲シ且第一項ノ届出ニ依リテ爲シタル登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

女ハ前ニ爲シタル婚姻ノ解消又ハ取消ノ日ヨリ六ヶ月ヲ經過シタル後ニ非ラサレハ再婚ヲ爲スコトヲ得ス(民法第七百六十七條)然ルニ之ニ違反シテ六ヶ月内ニ再婚ヲ爲シタル場合ニ於テハ其分娩シタル子ハ民法第八百二十條ノ規定アルカ爲メ前夫ノ子ナルカ又ハ後夫ノ子ナルカ判然セザルコトアルヘシ故ニ此場合ハ裁判所ニ於テ其子ノ父ヲ定ムヘキモノナルニ依リ(民法第八百二十一條)其出生ノ届出ハ先ツ以テ母ヨリ

○第四章 身分ニ關スル届出 第七十三條

之ヲ爲スヘキモノトス此届出ハ父ノ未定ナルコトヲ記載キスヘモノトス
民法第八百二十一條ノ規定ニ依リ裁判ヲ以テ父ノ定マリタルトキハ其父ハ裁判カ上
訴期間ヲ経過シ又ハ上訴ノ途ナキニ至リ確定シタルトキハ其確定ノ日ヨリ一ヶ月ノ
期間内ニ第六十八條ノ規定ニ依リ嫡出子出生ノ届書ニ右裁判ノ謄本ヲ添ヘテ届出テ
尙第一項ニ依リ父ノ未定中母ヨリ届出テタル出生登記取消ヲ申請スルモノトセリ此
申請アリタルトキハ戸籍吏ハ第二十四條ニ依リ原登記ノ欄外ニ取消ノ登記ヲ爲シ原
登記ヲ取消ス可シ

(参照)民法第七百六十七條 女ハ前婚ノ解消又ハ取消ノ日ヨリ六ヶ月ヲ経過シタル後ニ非サレハ再婚ヲ爲スコトヲ得ス

女カ前婚ノ解消又ハ取消ノ前ヨリ懐胎シタル場合ニ於テハ其分娩ノ日ヨリ前項ノ規定ヲ適用セス

全 第八百二十條 前出(前條参照)

全 第八百二十一條 第七百六十七條第一項ノ規定ニ違反シテ再婚シタル女カ分娩シタル場合ニ於テ前條ノ規定ニ依リ
其子ノ父ヲ定ムルコト能ハサルトキハ裁判所之ヲ定ム

第七十四條 病院監獄其他ノ公設所ニ於テ子ノ出生アリタル場合ニ於テ父又ハ母
ヨリ届出ヲ爲スコト能ハサルトキハ病院監獄又ハ其他ノ公設所ノ長若クハ管理
人ヨリ出生ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

本條ハ特別ナル届出義務者ヲ定メタルモノナリ通常ノ場合ハ既ニ第七十一條ニ於テ
届出義務者ヲ定メタルトモ尙ホ病院監獄其他育兒院感化院教會所等公ニ設ケタル
場所ニテ子ノ生レタルトキハ嫡出子庶子又ハ私生子ノ區別ニ依リテ第七十一條ニ規
定セル如ク父又ハ母ヨリ届出ヲ爲スヘキモノナリ然レトモ病院其他公設所等ニ父ノ
アラサルカ或ハ母モ産後ニテ届出行爲ヲ爲ス能ハサルカ又監獄ニ在ツテ自カラ届
出ヲ爲ス能ハサル場合ニ於テハ病院其他公設所ノ長又ハ其管理ヲ爲ス者若クハ典獄
ヨリ出生ノ届ヲ爲スヘキモノトセリ故ニ本條ノ場合ニ於テハ右病院長等カ父母ニ次
テ届出義務者タルナリ

第七十五條 棄兒ヲ發見シタル者ハ二十四時内ニ其旨ヲ戸籍吏ニ届出ツルコトヲ
要ス

棄兒發見ノ届出アリタルトキハ戸籍吏ハ其兒ニ氏名ヲ命シ且之ニ附屬スル衣
服物品發見ノ場所年月日時其他ノ景況並ニ其兒ノ出生ノ推定年月氏名男女
ノ別引受人ノ氏名職業本籍地及ヒ所在地又ハ育兒院ノ稱號並ニ場所及ヒ引渡
ノ年月日ヲ調書ニ記載シテ之ヲ届書ニ添ヘ置クコトヲ要ス

○第四章 身分ニ關スル届出 第七十四條、第七十五條

引受人又ハ育兒院ニ變換アリタルトキハ雙方ヨリ十日内ニ其旨ヲ届出ルコトヲ要ス

第二項ノ調書ハ登記ニ付テハ之ヲ届書ト看做ス

本條ハ棄兒ヲ發見シタル届出及ヒ戸籍吏ノ爲スヘキ方法ヲ規定シタルモノナリ

一 項 棄兒ハ第一届出義務者ナル父母知レサルモノナレハ隨ツテ第二順位義務者第七十一條第三項モアルヘキ管ナケレハ棄兒ヲ發見シタル者ハ其發見シタル時ヨリ二十四時間内ニ其地ノ戸籍吏ニ棄兒ヲ發見シタル旨ヲ届出ツヘキモノトス此届出ハ別ニ事項ヲ示サ、ルヲ以テ單ニ棄兒ヲ發見シタル旨ノミヲ届出ツ可シ届書式ハ附録ヲ以テ之ヲ示ス

二 項 戸籍吏ハ棄兒發見ノ届出アリタルトキハ本項ノ各事項ニ就キ取調ヲ爲シ調書ヲ作ラサル可カラズ其調書ニ記載ス可キ事柄ハ(一)棄兒ニ氏名ヲ何某ト命シタルコト(二)棄兒ニ付屬スル衣服物品(三)棄兒發見ノ場所及ヒ發見シタル年月日並ニ時其他ノ景况即人相養營ノ良否等(四)棄兒出生ノ年月日時マテ推定スルハ爲シ難キヲ以テ年月ニ止ム(五)男女ノ區別(六)引受人ノ氏名職業本籍地若シ所在地ヲ異ニスルトキハ

其所在地マテ又育兒院ニテ保育スルトキハ其育兒院ノ稱號並ニ場所(七)引受人又ハ育兒院ニ引渡シタル年月日ナリトス此調書ハ前項ノ棄兒發見ノ届書ニ添ヘ置ク可シ調書雛形ハ附録ヲ以テ之ヲ示ス

三 項 棄兒ヲ引受クタル人又ハ育兒院ヲ換ヘタルトキハ引受人及ヒ育兒院ヨリ十日ノ期間内ニ其變換シタル旨ヲ届出ツルモノトス此届出ハ變更ノ申請ニアラサルヲ以テ戸籍吏ハ第二十五條ニ依リ欄外登記ヲ爲スニアラスシテ更ニ登記ヲ爲スモノナリ引受人變換届書式ハ附録ヲ以テ之ヲ示ス

四 項 戸籍吏ハ第二項ニ因リ作りタル調書ヲ届書ト看做シテ非本籍人身分登記簿出生ノ部ニ登記ヲ爲スヘキモノナリ

第七十六條 棄兒ノ父又ハ母カ現出シテ其兒ヲ引取ルトキハ一ヶ月内ニ第六十八條ノ届出ヲ爲シ且棄兒發見ノ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

前條ニ依リ棄兒發見ノ届出ニ基キ登記シタル後其棄兒ノ父又ハ母カ現ハレ出テ、其棄兒ヲ引取ル場合ニハ一ヶ月以内ニ第六十八條ノ諸件ヲ具シ普通ノ出生届ヲ爲シ且前ニ爲シタル棄兒發見ノ登記ノ取消ヲ申請スルモノトス戸籍吏ハ其届出ニ依リテ普通出生ノ登記ヲ爲スノ外申請ニ基キ第二十四條ニ依リ原登記ヲ抹消シ其欄外ニ取消

○第四章 身分ニ關スル届出 第七十六條

ノ旨ヲ登記ス可シ

九〇

第七十七條 出生又ハ棄兒發見ノ届出ヲ爲ササル前出生子又ハ棄兒カ死亡シタル

トキハ出生又ハ棄兒發見及ヒ死亡ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

子ノ出生アリタルトキハ第六十八條ニ依リ十日以内ニ出生ノ届出ヲ爲スコク棄兒ヲ發見シタルトキハ第七十五條ニ依リ二十四時間内ニ棄兒發見ノ届出ヲ爲スコキモノナリ然レトモ若シ其届出前ニ出生子又ハ棄兒カ死亡シタルトキハ出生届又ハ棄兒發見ノ届出ヲ爲スニ及ハスト思惟スルモノナキニアラス又或ハ死亡届出ノミニテ足ルモノト爲スモノアルヘシ故ニ本條ハ規定シテ此場合ニ於テハ死亡届出ハ勿論出生又ハ棄兒發見ノ届出ヲモ必ス同時ニ爲スヘキモノトセリ之レ出生ニ因リ一旦子タル身分ヲ取得シタルモノナレハ仮令其後死亡シタレハトテ出生ノ事實ヲ消滅セシムルモノニアラサルヲ以テ出生又ハ棄兒發見ノ届出ト死亡ノ届出トヲ各爲スヘキコトヲ命シ戸籍吏ハ先ツ出生ノ登記ヲ爲シ而シテ死亡ノ登記ヲモ爲スコキモノナリ書式ハ附録ヲ以テ之ヲ示ス

第七十八條 航海中ニ子ノ出生アリタルトキハ艦長又ハ船長ハ二十四時間内ニ乗船

者中ヨリ選ミタル證人ノ前ニ於テ第六十八條ニ掲ケタル諸件ヲ航海日誌ニ記載シ證人ト共ニ署名捺印シ且證人ノ出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地ヲ記載スルコトヲ要ス

前項ノ手續ヲ爲シタル後艦船カ日本ノ港ニ著シタルトキハ艦長又ハ船長ハ二十四時間内ニ其出生ニ關スル航海日誌ノ謄本ヲ其地ノ戸籍吏ニ送付スルコトヲ要ス艦船カ外國ノ港ニ著シタルトキハ艦長又ハ船長ハ遲滞ナク其出生ニ關スル航海日誌ノ謄本ヲ其國ニ駐在スル日本ノ公使又ハ領事ニ送付シ公使又ハ領事ハ三ヶ月内ニ之ヲ外務大臣ニ發送シ外務大臣ハ十日内ニ之ヲ父母ノ本籍地ノ戸籍吏ニ發送スルコトヲ要ス

本條ハ艦船ノ航海中ニ艦船内ニテ子ノ生レタルトキハ如何ナル手續ヲ爲スヘキヤヲ規定セリ

一項 軍艦又ハ航海日誌ヲ備フル船舶内ニ於テ子ノ出生アリタルトキハ其艦長又ハ船長ハ二十四時間内ニ乗船者中ヨリ證人ヲ選ミ其證人ノ面前ニ於テ其艦船ニ備フ

○第四章 身分ニ關スル届出 第七十七條、第七十八條

九一

ル航海日誌ニ第六十八條ニ列記スル届出事項ヲ記載シ其立會ヒタル證人ト共ニ航海日誌ニ署名捺印シ且其證人ノ出生ノ年月日職業及ヒ本籍地ヲ記載スヘキモノトス

二項 軍艦又ハ船舶カ前項ノ手續ヲ爲シタル後日本ノ港ニ著シタルトキハ艦長又ハ船長ハ二十四時間内ニ其出生ニ關スル事項ノ記載アル部分ノ航海日誌ノ謄本ヲ著港シタル地ノ戶籍吏ニ送付スヘキモノトス此送付ヲ受ケタル戶籍吏ハ第十五條第四號ニ該當スルモノナルヲ以テ之レニ因リ身分登記ヲ爲スヘキモノナリ

三項 前項ハ日本ノ港ニ著シタル場合ナレトモ若シ其艦船カ外國ノ港ニ著シタルトキハ如何之レ本項ニ規定スル所ニシテ此場合ハ二十四時間内ニ限ラサルモ猶豫ナク前項ト同シク航海日誌ノ謄本ヲ著港セシ所ノ外國ニ駐在スル日本ノ公使又ハ領事ニ送付ス之レ外國ニハ日本ノ戶籍吏アラサルカ故ナリ其送付ヲ受ケタル公使又ハ領事ハ三ヶ月内ニ外務大臣ニ發送ス又外務大臣ハ其發送ヲ受ケタルヨリ十日以内ニ之レヲ生レタル子ノ父母ノ本籍地ノ戶籍吏ニ發送ス戶籍吏カ其發送書類ヲ受ケタルトキハ前項ト同シク登記ヲ爲ス可キナリ

本項ニ送付ト發送トアリテ其意義同シカラス即艦長又ハ船長ハ二十四時内ニ公使

又ハ領事へ到達スヘキ様送付ヲ要シ公使等ハ三ヶ月内ニ外務大臣ニ向ケ發送シ外務大臣ハ十日内ニ戶籍吏ニ向ケ發送スレハ足ルヘキモノナリ

茲ニ注意スヘキハ航海日誌ヲ備ヘサル船舶内ニ於テ子ノ生レタル場合ハ第七十條ニ規定スルヲ以テ本條ハ航海日誌ヲ備ヘタルモノニ限ルコト是レナリ

第二節 嫡出子否認

嫡出子トハ正當ノ夫婦間ニ出生シタル子ヲ云フモノニシテ妻カ婚姻中ニ出生シタル子及ヒ婚姻成立ノ日ヨリ二百日後又ハ婚姻ノ解除若クハ取消ノ日ヨリ三百日内ニ生レタル子ハ民法第八百二十條ニ依リ夫ノ子ト推定セラル是レ即夫婦間ニ出生シタルモノト一般ニ推定シタルモノナリ此法律上ノ推定ニ基キ第七十二條ニ因リ嫡出子出生ノ届出ヲ爲スコトヲ命シタリ然レトモ事實夫ノ子ニアラサルトアル可シ故ニ民法第八百二十二條及ヒ第八百二十三條ニ依リテ夫ハ其子ノ嫡出ナルコトヲ否認スルノ訴ヲ提起スルコトヲ得セシメタリ此訴ニ因リ否認ノ裁判確定シタルトキハ本節第七十九條ニ依リテ否認ノ届出ヲ爲シ且前ニ爲シタル嫡出子出生ノ登記變更ヲ求ムルコトヲ規定セリ

(參照)民法第八百二十條 妻カ婚姻中ニ懐胎シタル子ハ夫ノ子ト推定ス

○第四章 身分ニ關スル届出 第七十八條

婚姻成立ノ日ヨリ二百日後又ハ婚姻ノ解消若クハ取消ノ日ヨリ三百日内ニ生レタル子ハ婚姻中ニ懐胎シタルモノト推定ス

全 第八百二十二條 第八百二十條ノ場合ニ於テ夫ハ子ノ嫡出ナルコトヲ否認スルコトヲ得

全 第八百二十三條 前條ノ否認權ハ子又ハ法定代理人ニ對スル訴ニ依リテ之ヲ行フ但夫カ子ノ法定代理人ナルトキハ裁判所ハ特別代理人ヲ擔任スルコトヲ要ス

第七十九條 嫡出子否認ノ裁判カ確定シタルトキハ否認者ハ裁判確定ノ日ヨリ一

ケ月内ニ左ノ諸件ヲ具シ裁判ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ届出テ且既ニ出生ノ登記ヲ爲シタル者ニ付テハ登記ノ變更ヲ申請スルコトヲ要ス

一 子ノ名及ヒ男女ノ別

二 出生ノ年月日

三 否認ノ裁判カ確定シタル年月日

夫ハ妻ノ子ノ嫡出ナルコトヲ否認セントスル場合ト雖トモ第七十二條ニ依リ嫡出子出生ノ届出ヲ爲スヘキ規定ナルヲ以テ同條ニ於テ説明セシ如ク夫カ嫡出子ニアラサルコトヲ立證シ訴ヲ提起シタル後否認ノ裁判確定シタルトキハ其否認者即夫ハ右裁判

判カ確定ニ至リタル日ヨリ一月以内ニ嫡出子否認ノ届出ヲ爲スヘキモノトス此場合ニ於テ未タ出生ノ登記ナキコト在レトモ多クハ第七十二條ノ届出ニ基キ登記シアルヘキヲ以テ否認届書ニハ先キニ爲シタル登記ノ變更ヲ申請スル旨ヲ記載ス可シ而シテ此否認届ニ特ニ記載スヘキ事柄ハ本條第一號乃至第三號ニシテ(一)否認スル子ノ名及ヒ男女ノ別(二)出生シタル年月日(時ヲ記載スルニ及ハス)(三)否認ノ裁判カ確定シタル年月日ナリトス

尙本條ノ外通則第四十四條ニ依リ(四)届出事件(五)届出ノ年月日(六)届出人ノ族稱職業出生ノ年月日及ヒ本籍地ヲ記ス又第四十五條乃至第四十七條第四十九條乃至第五十三條ノ規定ハ每節ニ通シテ用ユヘキモノナルヲ以テ通則ニ掲タル事項ハ常ニ注意スルコトヲ必要トス又前節ノ例ニ因リ嫡出子否認届書式ハ附録ヲ以テ之ヲ示ス
戶籍吏カ此届出及ヒ申請ヲ受ケルタトキハ否認届出事項ハ嫡出子否認登記簿ニ登記シ申請事項ハ第二十一節身分登記變更登記簿ニ登記スルノ外第二十五條ニ依リ先キニ爲シアル出生登記ノ欄外ニ變更ノ登記ヲ爲シ原登記ヲ變更スルモノトス

第四節 私生子認知

私生子トハ夫ノ未定中ニ生レタル子ヲ云フ故ニ私生子ハ父ニ於テ之ヲ認知スルコト

○第四章 身分ニ關スル届出 第七十九條

ヲ得ヘシ此場合ニハ私生子ハ庶子トナルモノナリ又母ニ於テモ之ヲ認知スルコトヲ得母カ私生子ヲ認知スルトハ一見解シ難ク母ノ知レサル場合ナキモノ、如ナルモ例ヘハ第七十九條ニ因リ嫡出子否認ノ裁判ニ至ラサル前母ニ於テ私生子タルヲ認メ示談シタルカ如シ故ニ民法第八百二十七條ハ父又ハ母ニ於テ私生子ヲ認知スルコトヲ得ルモノト定メタリ此認知ハ身分ヲ定ムル行爲ナルヲ以テ確實ヲ期スルカ爲メ戸籍吏ニ届出ツヘキモノナルコトモ亦民法第八百二十九條ニ規定セリ私生子認知届出ヲ爲スニ必要ナル特別事項ハ本節第八十條以下ニ掲クル處ニシテ尙一般ニ適用スヘキ通則ハ本節ニ抵觸セサル限り適用スヘキコトハ既ニ述タル所ナリ

(參照)民法第八百二十七條

私生子ハ其父又ハ母ニ於テ之ヲ認知スルコトヲ得

父カ認知シタル私生子ハ之ヲ庶子トス

全 第八百二十九條

私生子ノ認知ハ戸籍吏ニ届出ツルニ依リテ之ヲ爲ス

認知ハ遺言ニ依リテモ亦之ヲ爲スコトヲ得

第八十條 私生子認知ノ届書ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 子ノ名及ヒ男女ノ別
- 二 出生ノ年月日

三 死亡シタル子ヲ認知スル場合ニ於テハ死亡ノ年月日

四 父カ認知ヲ爲ス場合ニ於テハ母ノ氏名、職業及ヒ本籍地

前項第四號ノ場ニ於テ母カ家族ナルトキハ其戸主ノ氏名、職業、本籍地及ヒ其戸

主ト母トノ續柄ヲ記載スルコトヲ要ス

本條ハ私生子認知ノ届書ニ記載スヘキ必要ナル條件ヲ示定セリ而シテ出生又ハ嫡出子否認ノ場合ハ本法ニ於テ届出ツヘキコトヲ命シタレトモ本條私生子認知ノ場合ニ之レナキハ如何之レ私生子認知ニ付テハ既ニ述ヘタル如ク民法第八百二十九條ニ届出ツヘキコトヲ規定シ在ルヲ以テ本條ニハ只届出ツヘキ事項ノミヲ規定セルモノナリ即其届出ツヘキハ左ノ四條件ナリトス

一 私生子ノ名及ヒ其男女ノ別

二 出生ノ年月日、出生届出ト異リ時ヲ記載スルコトヲ要セズ

三 死亡シタル私生子ヲ認知スルノ必要ハナキモノ、如クナルモ其死亡シタル私生子

ニ直系卑屬即子孫等アルトハ其子孫ノ權利ニ關係スルヲ以テ民法第八百三十一條

第二項ニ於テ死亡シタル子ト雖トモ其直系卑屬アルトキニ限り認知スルコトヲ得

○第四章 身分ニ關スル届出 第八十條

ト規定セリ之レ直系卑屬ナケレハ權利ニ關係ナキヲ以テナリ例ヘハ甲ナル私生子妻ヲ娶リテ一子乙ヲ舉クテ後死亡セリ丙ナル者甲ヲ自己ノ子ナリト認知スルハ民法第八百三十二條ニ依リ出生ノ時ニ遡リテ效力ヲ生スルカ故ニ民法第九百七十四條第九百九十五條ノ規定ニ依リ甲ノ直系卑屬タル乙ハ亡父ノ順位ニ於テ相續權ヲ有スルニ依リ認知前ニ在ツテ何等關係ナカリシ丙ノ家督相續人又タハ遺產相續人ト爲ルノ類ナリ故ニ此直系卑屬ヲ遺シテ死亡シタル私生子ヲ認知スル場合ニ於テハ其死亡シタル年月日ヲ届書ニ記載スルコトヲ必要トセリ

四母カ認知ヲ爲ス場合ハ届出人トシテ其氏名職業及ヒ本籍地ハ届書ニ記載スルヲ以テ更ニ之ヲ記載スルノ必要ナキモ父カ認知ヲ爲ス場合ニ於テハ何人カ産ミタル子ナルカヲ明瞭ナラシムル爲メ母ノ氏名職業及ヒ本籍地ヲ届書ニ記載シ尙ホ母カ家族ナルトキハ其母ノ屬スル家ノ戸主ノ氏名職業本籍地及ヒ母ト戸主トノ續柄ヲモ記載スヘキモノナリ

以上各項ヲ届書ニ記載スヘキ條件ナリトス而シテ私生子認知ヲ届出ツルニ際シ尙ホ注意スヘキハ胎内ニ在ル子ヲ認知スルトキハ(民法第八百三十一條)次條ニ依リテ其旨ヲ届出テ(本條第一號乃至第三號ノ事項ハ記載スヘキ事實ナシ)胎内ニテ認知シタル子

カ死体分娩シタルトハ第八十四條ニ依リ届出ヲ爲シ遺言ニ因リテ認知ヲ爲シタル場合(民法第八百二十九條第二項本節題下參照)第八十三條ニ依リ遺言執行者ヨリ届出テ成年ノ私生子ヲ認知スルハ其私生子胎兒ヲ認知スルハ其母成年ノ直系卑屬アル死亡シタル私生子ヲ認知スルハ其直系卑屬ノ承諾ヲ要スルニ付キ第八十二條ニ依リ承諾證書ヲ添付スルカ届書ニ承諾ノ旨ヲ附記シ署名捺印セシムル等是レナリ普通ノ私生子認知ノ場合ト死亡者ヲ認知スル場合トニ付キ通則ヲ適用シ届書々式ヲ附録トシテ示ス

(參照)民法第八百三十一條 父ハ胎内ニ在ル子ト雖モ之ヲ認知スルコトヲ得此場合ニ於テハ母ノ承諾ヲ得ルコトヲ要ス

父又ハ母ハ死亡シタル子ト雖トモ其ノ直系卑屬アルトキニ限り之ヲ認知スルコトヲ得此場合ニ於テ其直系卑屬カ成年者ナルトキハ其承諾ヲ得ルコトヲ要ス

全 第八百三十二條 認知ハ出生ノ時ニ溯リテ其効力ヲ生ス但第三者カ既ニ取得シタル權利ヲ害スルコトヲ得ス

全 第九百七十四條 第九百七十七條ノ規定ニ依リテ家督相續人タルヘキ者カ家督相續ノ開始前ニ死亡シ

又ハ其相續權ヲ失ヒタル場合ニ於テ其者ニ直系卑屬アルトキハ其直系卑屬ハ第九百七十七條及ヒ第九百七十二條ニ定メタル順序ニ從ヒ其者ト同順位ニ於テ家督相續人ト爲ル

第九百七十條 被相續人ノ家族タル直系卑屬ハ左ノ規定ニ從ヒ家督相續人ト爲ル

一 親等ノ異ナリタル者ノ間ニ在リテハ其近キ者ヲ先ニス

○第四章 身分ニ關スル届出 第八十條

- 二 親等ノ同シキ者ノ間ニ在リテハ男ヲ先ニス
- 三 親等ノ同シキ男又ハ女ノ間ニ在リテハ嫡出子ヲ先ニス
- 四 親等ノ同シキ嫡出子、庶子、及ヒ私生子ノ間ニ在リテハ嫡出子及ヒ庶子ハ女ト雖トモ之ヲ私生子ヨリ先ニス

五 前四號ニ掲ケタル事項ニ付キ相同シキ者ノ間ニ在リテハ年長者ヲ先ニス
二項畧ス

第九百七十二條 第七百三十七條(戸主ノ親族ニシテ他家ニ在ルモノカ戸主ノ同意ヲ得テ家族ト爲リタル者)及ヒ第七百三十八條(婚姻又ハ養子縁組ニ因リテ他家ニ入りタル者ニ其配偶者又ハ養親ノ親族ニ非ラサル自己ノ親族ヲ婚家又ハ養家ノ家族ト爲シタル者)ノ規定ニ依リテ家族ト爲リタル直系卑屬ハ嫡出子又ハ庶子タル他ノ直系卑屬ナキ場合ニ限り第九百七十條ニ定メタル順序ニ從ヒテ家督相續人ト爲ル

全 第九百九十五條 前條ノ規定ニ依リテ遺產相續人タルヘキ者カ相續人ノ開始前ニ死亡シ又ハ其相續權ヲ失ヒタル場合ニ於テ其者ニ直系卑屬アルトキハ其直系卑屬ハ前條ノ規定ニ從ヒ其者ト同順位ニ於テ遺產相續人ト爲ル

- 第九百九十四條 被相續人ノ直系卑屬ハ左ノ規定ニ從ヒ遺產相續人ト爲ル
- 一 親等ノ異ナリタル者ノ間ニ在リテハ其近キ者ヲ先ニス
- 二 親等ノ同シキ者ハ同順位ニ於テ遺產相續人ト爲ル

第八十一條 民法第八百三十一條第一項ノ規定ニ依リテ認知ヲ爲ス場合ニ於テハ

認知者ハ母ノ氏名、職業及ヒ本籍地ヲ具シテ其胎内ニ在ル子ヲ認知スル旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

本條ハ母ノ胎内ニアル子ヲ父カ認知スル場合ノ届出手續ヲ規定シタルモノナリ
私生子ノ認知ハ生存者ハ勿論死亡シタル者ト雖トモ認知スルコトヲ得是レ前條ニ於テ説明スル處ナルカ尙ホ胎兒モ亦民法第八百三十一條前條参照參看ニ認知スルコトヲ許セリ故ニ本條ニ於テハ此場合ノ届出ニハ胎兒ノ母タル懷胎者ノ氏名、職業及ヒ本籍地并ニ母ノ胎内ニ在ル子ヲ認知スル旨ヲ記載シ且次條ニ依リ母ノ承諾證書ヲ届書ニ添付スルカ又ハ届書ニ承諾ノ旨ヲ付記シ署名捺印スヘキモノトス此場合ハ變例ナルヲ以テ通例ノ場合ニ適用スヘキ前條ノ事項中第一號及ヒ第二號ハ事實存セサルカ故絕對ニ之ヲ記載スルコト得サルナリ
本條ニ依リ認知届出ヲ爲ス場合ノ書式ハ附録トシテ之ヲ示ス
若シ前項ニ依リ届出テタル胎兒カ死体ニテ分娩シタルトキハ第八十四條ニ依ルヘキモノナルヲ以テ該條ノ下ニ説明スヘシ

第八十二條 民法第八百三十條及ヒ第八百三十一條ノ規定ニ依リ子、母、又ハ直系

○第四章 身分ニ關スル届出 第八十一條、第八十二條

卑屬ノ承諾ヲ要スル場合ニ於テハ届出人ハ届書ニ承諾ノ證書ヲ添ヘ又ハ承諾ヲ爲シタル者ヲシテ届書ニ承諾ノ旨ヲ附記シ之ニ署名捺印セシムルコトヲ要ス
 私生子ハ父ニ認知セラレタルカ爲メ不利益ナルコトナキニアラサルヲ以テ(一)成年(滿二十歳以上)ノ私生子ハ其承諾アルニアラサレハ之ヲ認知スルコトヲ得サル旨民法第八百三十條ニ規定セリ之レ成年ニ達シタル私生子ハ其利害ヲ認識スルノ能力アルモノト爲シタルヲ以テナリ故ニ未成年者(二十歳未滿)ハ承諾ヲ要セス又(二)胎内ニ在ル子ヲ認知スルニハ母ノ承諾ヲ要スヘキコトハ民法第八百三十一條(前條參照參看)ニ規定ス之レ亦母若シハ胎兒ノ利害ニ關係アルヲ以テナリ且又同條第二項(三)死亡シタル子ヲ認知スル場合ニ於テ其直系卑屬即子孫等カ成年者ナルトキ其子孫等ノ承諾ヲ得ルコトヲ必要ナリト規定セリ以上三個ノ場合ハ認知セラル、成年ノ私生子、胎兒ノ母、死亡シタル私生子ノ成年ノ直系卑屬ノ承諾ヲ要スルヲ以テ此場合ノ認知届出ニハ届書ニ其承諾ノ證書ヲ添付シ又ハ届書ニ承諾ノ旨ヲ附記シ承諾者之レニ署名捺印セシムルモノトス

(參照民法第八百三十條 成年ノ私生子ハ其承諾アルニ非サレハ之ヲ認知スルコトヲ得ス)

第八十三條 遺言ニ依リテ認知ヲ爲シタル場合ニ於テハ遺言執行者ハ遺言カ効力

ヲ生シタル日ヨリ十日内ニ其認知ニ關スル遺言ノ謄本ヲ添ヘ前三條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

遺言ニ依ル認知ノ届出ニハ認知者ノ死亡ノ年月日ヲ記載スルコトヲ要ス

本條ハ遺言ニ依リテ私生子ヲ認知シタル場合ノ届出手續ヲ定メタルモノナリ
 一項 父又ハ母カ生前ニ於テ私生子ヲ認知スルコトヲ欲セス死後之ヲ發表スルコトヲ欲スル場合アルヘキヲ以テ遺言ニ依リ私生子ヲ認知シ得ヘキコトヲ民法第八百二十九條(本節題下參照參看)ニ規定セリ此場合ハ遺言執行者即遺言者ヨリ遺言ヲ以テ遺言ヲ執行スヘキモノト指定セラレタル者又ハ遺言者ノ委託ニ依リ其委託者ヨリ指定セラレタル者(民法第千八百八條若シハ裁判所ヨリ撰定セラレタル者)民法第千百十二條ハ遺言者ノ死亡ニ因リ遺言ノ効力ヲ生シタル日(民法第千八十七條)ヨリ十日内ニ私生子認知ニ關スル遺言ノ謄本ヲ添付シテ第八十條乃至前條ノ規定ニ從ヒ届出ヲ爲スヘキモノナリ
 二項 遺言ニ依リテ私生子認知ノ届出ヲ爲スニハ必ス認知者即遺言者ノ死亡シタル年月日ヲ届書ニ記載スヘキモノナリ

○第四章 身分ニ關スル届出 第八十三條

(參照)民法第一千八十七條 遺言ハ遺言者ノ死亡ノ時ヨリ其効力ヲ生ス

遺言ニ停止條件ヲ附シタル場合ニ於テ其條件カ遺言者ノ死亡後ニ成就シタルトキハ遺言ハ條件成就ノ時ヨリ其効力ヲ生ス

全 第一千零八條 遺言者ハ遺言ヲ以テ一人又ハ數人ノ遺言執行者ヲ指定シ又ハ其指定ヲ第三者ニ委託スルコトヲ得

遺言執行者指定ノ委託ヲ受ケタル者ハ遲滞ナク其指定ヲ爲シテ之ヲ相續人ニ通知スルコトヲ要ス

遺言執行者指定ノ委託ヲ受ケタル者カ其委託ヲ辭セントスルトキハ遲滞ナク其旨ヲ相續人ニ通知スルコトヲ要ス

全 第一千百十二條 遺言執行者ナキトキ又ハ之ナキニ至リタルトキハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ之ヲ擔任スルコトヲ得

ナ得

前項ノ規定ニ依リテ擔任シタル遺言執行者ハ正當ノ理由アルニ非サレハ爲職ヲ拒ムコトヲ得ス

非訟事件手續法第一百七條 遺言執行者ノ擔任及ヒ解任ハ相續開始地ノ區裁判所ノ管轄トス

裁判所ニ於テ擔任シタル遺言執行者カ其任務ヲ辭セントスルトキ又ハ其就職ヲ拒マントスル

トキハ相續開始地ノ區裁判所ニ其中立ヲ爲スヘシ

(三項要ス)

第八十四條 胎内ニテ認知セラレタル子カ死體ニテ分娩シタルトキハ出生届出義務者ハ其事實ヲ知りタル日ヨリ一ヶ月内ニ認知ノ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ

要ス但遺言執行者カ認知ノ届出ヲ爲シタル場合ニ於テハ遺言執行者ヨリ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

本條ハ胎内ニテ認知セラレタル子カ死體分娩シタル場合登記取消ノ申請手續ヲ定メタルモノナリ

第八十一條ニ依リ胎内ニテ認知セラレ其身分登記ヲ經タル後其子カ死體ニテ分娩シタルトキハ先キニ認知届出ヲ爲シタル者即出生届出義務者第四十六條第七十一條參看ハ死體分娩シタル事實ヲ知り得タル日ヨリ一ヶ月内ニ先キニ届出ニ依リテ爲シタル認知ノ登記取消ヲ申請スヘキモノナリ若シ先キニ爲シタル認知届出カ前條ニ依リテ遺言執行者ヨリ届出テタルモノナル場合ハ届出義務者タル遺言執行者ハ前段ト同シク認知登記ノ取消ヲ申請スヘキモノナリ

戶籍吏カ取消ノ申請ヲ受ケタルトキハ第二十四條ニ依リ前ニ爲シタル登記ノ欄外ニ何年何月何日何某ヨリ胎兒死體分娩ニ付キ登記取消申請同日受付ト登記シ原登記ヲ抹消スヘキモノトス欄外登記ハ以下之レニ準ス尙申請書式ハ附録ヲ以テ之ヲ示ス

第五節 養子縁組

○第四章 身分ニ關スル届出 第八十四條

養子縁組トハ己レノ子ニ非ラサル他人ノ子ヲ收養シテ親子ノ關係ヲ生セシムルヲ云フ故ニ血族上親子ノ關係ナキモノナレトモ縁組ナル行爲ニ依リテ法律上親子タラシムルモノナリ

養子縁組ハ當事者双方即養子ヲ爲スモノ養子ト爲ル者當事者ハ届出義務者ナレトモ養子カ十五歳未満ナルトキハ第八十六條ニ依リ父母代リテ届出ヲ爲ス及ヒ二十歳以上ノ證人二人以上ヨリ戸籍吏ニ届出ツルニ因リテ効力ヲ生スヘキコトヲ民法第八百四十七條ニ規定セルヲ以テ此届出ハ養子縁組ニ必要ナル條件ナリトス故ニ戸籍吏ハ養子縁組届出ニ付キ本法及ヒ民法中ノ條項等ニ違反セサルコトヲ認メタル後ニ非レハ届出ヲ受理スルコトヲ得サル旨民法第八百四十九條ニ規定シ其届出ノ手續ハ本法ニ譲レリ依テ本節ニ於テハ縁組ノ適法ナルヤ否ヲ調査スル爲ニ必要ナル事項ヲ届出シムルコトヲ規定セルモノナリ既ニ述ヘタル如ク戸籍吏ハ民法其他ノ法令ニ違反セル縁組届出ハ受理スルコトヲ得ス然レトモ婚家又ハ養家ヨリ更ニ養子ト爲ル場合ニ婚家又ハ養家及實家ノ戸主ノ同意ヲ得ス又家族カ縁組ヲ爲スニハ戸主ノ同意ヲ得サルトキハ一應注意ヲ爲シ届出人カ尙強テ届出ヲ爲サント欲スルトキハ即民法第七百四十一條第二項第七百五十條第二項ニ依リ復籍ヲ拒絕セラル、コト萬之レ無キテ豫

想シタルカ又ハ拒絕セラル、モ異存ナキコトヲ覺悟シテ爲スモノト看做シ受理スルコトヲ得ヘシ

茲ニ注意スヘキコトハ從來養子トハ男子ノ養子ノミヲ指シ女子ハ養女ト云フ慣例ナリシカ民法ニ於テハ男女ニ拘ラス養子ト唱フルナリ又縁組トハ養子縁組ノミニ限り結婚ニハ縁組ノ文字ヲ用ヒス他ニ誤解ヲ生スルノ虞ナキヲ以テ各條單ニ縁組トノミ記載セリ

(参照)民法第八百四十九條

戸籍吏ハ縁組カ第七百四十一條第一項第七百四十四條第一項第七百五十條第一項及ヒ前十二條ノ規定

其他ノ法令ニ違反セサルコトヲ認メタル後ニ非サレハ其届出ヲ受理スルコトヲ得ス

第七百七十六條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

「第七百七十六條但書婚姻カ第七百四十一條第一項第七百五十條第一項ノ規定ニ違反スル場合ニ於テ戸

籍吏カ注意ヲ爲シタルニ拘ラス當事者カ其届出ヲ爲サント欲スルトキハ此限ニ在ラス

第七百四十一條 婚姻又ハ養子縁組ニ因リテ他家ニ入りタル者カ更ニ婚姻又ハ養子縁組ニ因リテ他家

ニ入ラント欲スルトキハ婚家又ハ養家及ヒ實家ノ戸主ノ同意ヲ得ルヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ同意ヲ爲サリシ戸主ハ婚姻又ハ養子縁組ノ日ヨリ一年内ニ復籍ヲ拒ムコトヲ得

第七百四十四條 第一項法定ノ推定家督相繼人ハ他家ニ入り又ハ一家ヲ創立スルコトヲ得ス但本家相

續ノ必要アルトキハ此限ニ在ラス

○第四章 身分ニ關スル届出 第八十四條

第七百五十條 家族カ婚姻又ハ養子縁組ヲ爲スニハ戸主ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

家族カ前項ノ規定ニ違反シテ婚姻又ハ養子縁組ヲ爲シタルトキハ戸主ハ其婚姻又ハ養子縁組ノ日ヨリ一年内ニ離婚ヲ爲シ又ハ復籍ヲ拒ムコトヲ得

家族カ養子ヲ爲シタル場合ニ於テ前項ノ規定ニ從ヒ離婚セラレタルトキハ其養子ハ養親ニ隨ヒテ其家ニ入ル

第八百三十七條 成年ニ達シタル者ハ養子ヲ爲スコトヲ得

第八百三十八條 尊屬又ハ年長者ハ之ヲ養子ト爲スコトヲ得ス

第八百三十九條 法定ノ推定家督相續人タル男子アル者ハ男子ヲ養子ト爲スコトヲ得ス但女婿ト爲ス爲メニスル場合ハ此限ニ在ラス

第八百四十條 後見人ハ被後見人ヲ養子ト爲スコトヲ得ス其任務カ終了シタル後未タ管理ノ計算ヲ終ハラサル間亦同シ

前項ノ規定ハ第八百四十八條ノ場合ニハ之ヲ適用セス

第八百四十一條 配偶者アル者ハ其配偶者ト共ニスルニ非サレハ縁組ヲ爲スコトヲ得ス

夫婦ノ一方カ他ノ一方ノ子ヲ養子ト爲スニハ他ノ一方ノ同意ヲ得ルヲ以テ足ル

第八百四十二條 前條第一方ノ場合ニ於テ夫婦ノ一方カ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ他ノ一方ハ双方ノ名義ヲ以テ縁組ヲ爲スコトヲ得

第八百四十三條 養子ト爲ルヘキ者カ十五年未滿ナルトキハ其家ニ在ル父母之ニ代ハリテ縁組ノ承諾

ヲ爲スコトヲ得

繼父母又ハ嫡母カ前項ノ承諾ヲ爲スニハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第八百四十四條 成年ノ子カ養子ヲ爲シ又ハ滿十五年以上ノ子カ養子ト爲ルニハ其家ニ在ル父母ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第八百四十五條 縁組又ハ婚姻ニ因リテ他家ニ入りタル者カ更ニ養子トシテ他家ニ入ラント欲スルトキハ實家ニ在ル父母ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス但妻カ夫ニ從ヒテ他家ニ入ルハ此限ニ在ラス

第八百四十六條 第七百七十二條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ前三條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七百七十三條ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七百七十二條 子カ婚姻ヲ爲スニハ其家ニ在ル父母ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス但男カ滿三十年女カ滿二十五年ニ達シタル後ハ此限ニ在ラス

父母ノ一方カ知レサルトキ死亡シタルトキ家ヲ去リタルトキ又ハ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ其他一方ノ同意ノミヲ以テ足ル

父母共ニ知レサルトキ死亡シタルトキ家ヲ去リタルトキ又ハ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ未成年者ハ其後見人及ヒ親族會ノ同意ヲ得ルヲ要ス

第七百七十三條 繼父母又ハ嫡母カ子ノ婚姻ニ同意セサルトキハ子ハ親族會ノ同意ヲ得テ婚姻ヲ爲スコトヲ得

第八百四十七條 第七百七十四條及ヒ第七百七十五條ノ規定ハ縁組ニ之ヲ準用ス

○第四章 身分ニ關スル届出 第八十四條

第七百七十四條 禁治產者カ婚姻ヲ爲スニハ其後見人ノ同意ヲ得ルコトヲ要セス

第七百七十五條 婚姻ハ之ヲ戶籍吏ニ届出ツルニ因リテ其効力ヲ生ス

前項ノ届出ハ當事者双方及ヒ成年ノ贖人貳人以上ヨリ口頭ニテ又ハ署名シタル書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第八百四十八條 養子ヲ爲サント欲スル者ハ遺言ヲ以テ其意思ヲ表示スルコトヲ得此場合ニ於テハ遺言執行者養子ト爲ルヘキ者又ハ第八百四十三條ノ規定ニ依リ之ニ代ハリテ承諾ヲ爲シタル者及ヒ成年ノ贖人貳人以上ヨリ遺言カ効力ヲ生シタル後遺言ナク縁組ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ届出ハ養親ノ死亡ノ時ニ溯リテ其効力ヲ生ス

第八十五條 縁組ノ届書ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 當事者ノ氏名、出生ノ年月日職業、及ヒ本籍地
 - 二 養子ノ實父母ノ氏名、職業及ヒ本籍地
 - 三 當事者カ家族ナルトキハ戶主ノ氏名、職業及ヒ本籍地
- 養子カ婚家又ハ養家ヨリ更ニ縁組ニ依リテ他家ニ入ル場合ニ於テハ前項ニ掲ケタル事項ノ外婚家ノ戶主又ハ前養親ノ氏名、職業及ヒ本籍地ヲ記載スル事ヲ要ス
- 本條ハ養子縁組ノ届書ニ記載スヘキ事項ヲ規定セルモノナリ

本條モ亦前節第八十條ノ規定ト全シク届出ツヘキ旨ヲ命セサルモ民法第八百四十七條ニ於テ戶籍吏(第九十條ニ依リ養親ノ本籍地又ハ所在地ノ戶籍吏)ニ届出ツヘキ旨ヲ規定シアルヲ以テ本條ニハ單ニ届書ニ記載スヘキ事項ノミヲ規定セリ即其事項ハ左ノ如シ

- 一 當事者トハ養子ヲ爲スモノ即養親ト養子ト爲ル者即養子トヲ指ス故ニ養子ト養父母ノ氏名出生年月日職業及ヒ本籍地
- 二 養子ノ實父母即養子ト爲リタル者ヲ生ミタル父母ノ氏名、職業及本籍地
- 三 養子又ハ養父母カ戶主ニ非ラスシテ養子ハ家族ナル場合多シ家族ナルトキハ戶主ノ氏名、職業及ヒ本籍地

尙婚姻又ハ養子縁組ニ因リテ他家ニ入リタル者カ更ニ養子トシテ他家ニ入ラントスルトキハ右三事項ノ外ニ婚家ノ戶主又ハ前養親ノ氏名、職業及ヒ本籍地ヲ届書ニ記載スヘキモノトス從前ハ婚姻又ハ縁組ニ因リテ他家ニ入リタル者カ更ニ他家ノ養子ト爲ルニハ一旦生家へ復歸シタル後ニ非ラサレハ縁組ヲ爲スコトヲ得サリシカ之レ徒ラニ煩勞ヲ重ヌルノミニシテ尙モ婚家又ハ養家及ヒ實家ノ戶主并ニ父母ノ同意アルニ於テハ直チニ婚家又ハ養家ヨリ他家ニ入ルコトヲ得ルモノトスルモ別ニ弊害アル

○第四章 身分ニ關スル届出 第八十五條

ヲ見サルノミナラス甚便宜ナルヲ以テ民法第七百四十一條第八百四十五條第五節參照參看ニ依リ之レヲ許セリ

本條ニハ證人ノ氏名等ヲ記載スヘキ明文ナキモ本節題下ニ於テ説明シタル如ク養子縁組ハ民法第八百四十七條ニ當事者及ヒ成年ノ證人二人以上ヨリ養親ノ本籍地又其所在地ノ戶籍吏(第九十條)ニ届出ツヘキコトヲ規定シ且第四十八條ニ證人ヲ要スル事件ニ付テハ證人ハ届書ニ其證人タルコト出生ノ年月日職業及本籍地ヲ記載シ署名捺印ヲ要ストアルヲ以テ必ス此事項ヲ具備セサルヘカラス又第八十八條第八十九條ニ該當スルモノナルトキハ其事項ヲモ具ヘ尙通則ノ規定ニ注意スヘキハ既ニ述ヘタル處ナリ

普通養子縁組届、養家ヨリ更ニ養子縁組届、及ヒ婿家ヨリ更ニ養子縁組届ノ三種ノ書式ヲ附録トシテ之ヲ示ス

第八十六條 民法第八百四十三條ノ規定ニ依リテ縁組ノ承諾ヲ爲シタル者ハ養子

ニ代ハリテ縁組ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

養子縁組ハ當事者ヨリ戶籍吏ニ届出ツヘキモノナルコトハ民法第八百四十七條(本節

題下參照參看)ニ規定セリ然レモ養子縁組ハ養子ヲ十五年未滿ノ者ナルトキハ其家ニアル父母ハ本人ニ代ハリテ承諾ヲ爲スコトヲ得(民法第八百四十三條)本節題下參照參看)此承諾ヲ爲シタル父母ハ本條ノ規定ニ依リ養子ニ代リテ縁組ノ届出ヲ爲スヘキ者トセリ若シ承諾ヲ爲シタル者カ繼父母(マ、親)又ハ嫡母(嫡母トハ産ミノ母ヲ指スモノナルトキハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ必要トセリ之レ繼父母又ハ嫡母カ子ノ利益ヲ圖ラスシテ濫リニ其繼子又ハ庶子ヲ他人ノ養子ト爲スノ弊ヲ防カンカ爲メニ其承諾權ヲ制限シテ之レニ親族會ノ監督ヲ加ヘタルモノナリ

第八十七條 民法第七百四十一條第一項、第七百五十條第一項、第八百四十一條第

二項及ヒ第八百四十三條乃至第八百四十六條ノ規定ニ依リ戶主、父母、配偶者、後見人又ハ親族會ノ同意ヲ要スル場合ニ於テハ届出人ハ届書ニ同意ノ證書ヲ添ヘ又ハ同意ヲ爲シタル者ヲシテ届書ニ同意ノ旨ヲ附記シ之ニ署名、捺印セシムルコトヲ要ス

本條ハ戶主、父母、配偶者、後見人又ハ親族會ノ同意ヲ要スル場合ノ手續ヲ定メタルモノナリ即其同意ヲ要スル場合ハ左ノ如シ

○第四章 身分ニ關スル届出 第八十六條、第八十七條

- (一) 婚姻又ハ養子縁組ニ因リテ他家ニ入りタル者カ更ニ養子縁組ニ因リテ他家ニ入りトスルトキハ婚家、養家及ヒ實家ノ戸主并ニ實家ノ父母妻カ夫ニ從ヒテ他家ニ入ルトキハ同意ヲ要セス(民法第七百四十一條第一項第八百四十五條本節題下參照參看)
- (二) 家族カ養子縁組ヲ爲ストキハ其戸主ノ同意ヲ要ス(民法第七百五十條第一項本節題下參照參看)
- (三) 夫婦ノ一方カ他ノ一方ノ子ヲ養子ト爲ストキ他ノ一方即配偶者ノ同意ヲ要ス(民法第八百四十一條第二項本節題下參照參看)
- (四) 養子ト爲ルヘキ者カ十五年未滿ナルニ因リ繼父母又ハ嫡母カ養子ニ代ハリテ縁組ノ承諾ヲ爲ス場合ハ親族會ノ同意ヲ要ス(民法第八百四十三條本節題下參照參看)
- (五) 成年者カ養子ヲ爲シ又ハ滿十五年以上ノ子カ養子ト爲ルニハ其家ニアル父母ノ同意ヲ要ス(民法第八百四十四條本節題下參照參看)
- (六) (一)(四)(五)ノ父母ノ一方カ知レサルトキ死亡シタルトキ家ヲ去リタルトキ又ハ其意思ヲ表示スルコト能ハサル場合ハ他ノ一方ノ同意ニテ足ル(民法第八百四十六條本節題下參照參看)

(七) 未成年者カ養子ト爲ル場合ニ於テ父母共ニ知レサルトキ死亡シタルトキ家ヲ去リタルトキ又ハ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ後見人及ヒ親族會ノ同意ヲ要ス(全上)

(八) 繼父母又ハ嫡母カ子ノ養子縁組ニ同意セサルニ拘ラス子カ縁組ヲ爲ストキハ親族會ノ同意ヲ要ス(全上)
 右ノ場合ニ於テハ縁組届出人タル當事者ハ(前條ノ場合ハ父母カ養子ニ代ハル)同意シタル旨ノ證書ヲ届書ニ添ヘテ届出ツヘク又ハ其證書ヲ添ヘサルモ同意ヲ爲シタル者ヲシテ届書ニ附録トシテ示シタル書式ノ如ク同意ノ旨ヲ付記シ署名捺印セシムルモノトス

(五)ノ場合ニ其家ニ在ル父母ノ同意ヲ要ストハ戶籍上父母ノ家ニ在ル意義ニシテ同一家屋ニ住居スル意ニラアス而シテ此ノ場合ニ婚姻又ハ養子縁組ニ因リテ他家ニ入リタル者カ更ニ養子縁組ニ由リテ他家ニ入ルトキ同意ヲ要スヘキ父母ハ實家ニアラズシテ養家ノ父母ナリ何トナレハ其家ニ在ル父母ハ養家ノ父母ナレハナリ但シ民法第八百四十五條ニ依リ實家ニ在ル父母ノ同意ヲ要スルハ格別ナリトス

第八十八條 民法第八百四十二條ノ規定ニ依リ配偶者ノ一方カ雙方ノ名義ヲ以テ

○第四章 身分ニ關スル届出 第八十八條

縁組ヲ爲ス場合ニ於テハ届出人ハ届書ニ其事由ヲ記載スルコトヲ要ス

配偶者アル者カ養子縁組ヲ爲スニハ其配偶者ト一致スルコトヲ要ス(民法第八百四十一條)本節題下参照(參看)然ルニ夫婦ノ一方カ心神喪失等ノ事由ニ依リ縁組ヲ爲ス意思ヲ表示スルコト能ハサルニ拘ラス此夫婦カ養子ヲ爲シ又ハ養子ト爲スコトノ必要ニ接シ又ハ其利益ヲ感スル場合多クアルヘシ故ニ民法第八百四十二條(本節題下参照)ニ一ノ便宜法ヲ設ケ夫婦ノ一方カ縁組ノ意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ他ノ一方ハ双方ノ名義ヲ以テ縁組ヲ爲スコトヲ得ヘキ旨ヲ規定セリ此場合ハ縁組届出人ハ届書ニ配偶者ノ他ノ一方カ意思ヲ表示スルコト能ハサル旨ヲ記載スヘキコトヲ本條ニ定メタルナリ

第八十九條 民法第八百四十八條ノ規定ニ依リ縁組ノ届出ヲ爲ストキハ届書ニ第八十五條ニ掲ケタル諸件及ヒ遺言者ノ死亡ノ年月日ヲ記載シ且之ニ養子ニ關スル遺言ノ謄本ヲ添フルコトヲ要ス

養子ヲ爲スニハ生存中ノミナラス遺言ニ依リテモ之ヲ爲スコトヲ得ルモノナルヲ以テ本條ハ此場合ニ於ケル縁組届出ヲ爲ス手續ヲ定メタルモノナリ

養子ヲ爲サント欲スルモノカ遺言ヲ以テ其意思ヲ表示シタル場合ニ於テ遺言者即養親カ死亡シ遺言カ效力ヲ生シタルトキハ遺言執行者第八十三條ニ説明ス(及ヒ養子トナルヘキ者又ハ養子トナルヘキ者カ十五年未滿ナル爲メ其父母カ養子ニ代ハリテ縁組ヲ爲ストキハ其者並ニ成年ノ證人二人ヨリ遲滯ナク届出ヲ爲スヘキモノナルトハ民法第八百四十八條(本節題下参照)參看)ニ規定スル處ナレハ本條ハ其届書ニ縁組届出ニ必要ナル第八十五條ニ掲ケタル事項ハ勿論遺言者ノ死亡シタル年月日ヲ記載シ尙養子ニ關スル遺言ノ謄本ヲ添ヘテ届出ツヘキモノナリ

第九十條 縁組ノ届出ハ養親ノ本籍地又ハ所在地ノ戶籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

本條ハ養子縁組ノ届出ヲ爲スヘキ場所ヲ定メタルモノナリ
身分ニ關スル届出ハ第四十二條ノ規定ニ依リ届出人ノ本籍地又ハ所在地ノ戶籍吏ニ爲スヘキモノナリ然レモ本節ノ届出人タル當事者即養子ト養親ト本籍カ戶籍吏ノ管轄ヲ異ニスルトキハ何レノ戶籍吏ニ届出ツヘキモノナルカ疑ヲ生スルニ依リ養子ハ民法第八百六十一條ノ規定ニ因リ養親ノ家ニ入ルモノナルヲ以テ本條ニ於テハ養子縁組ノ届出ハ養親ノ本籍地又ハ養親ノ所在地ノ戶籍吏ニ爲スヘキコトヲ定メタリ戶籍吏カ此届出ヲ受ケタルトキハ本節題下ニ於テ説明セル如ク本法及ヒ民法等ノ規定

○第四章 身分ニ關スル届出 第八十九條、第九十條

ニ違反セザルコトヲ認メタル上民法第七百四十一條第二項第七百五十條第二項ニ違
反シ戸籍吏カ注意シタルニモ拘ラス届出タルトキハ受理シ差支ナシ(受理シ第三十三
條乃至第三十五條ニ依リ登記取扱ヲ爲スヘキモノナリ

(參照)民法第八百六十一條 養子ハ縁組ニ因リテ養親ノ家ニ入ル

第九十一條 縁組カ無効ナルトキハ届出人ハ其無効ナル事由ノ證明書ヲ提出シテ

登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

本條ハ裁判ニ依ラスシテ縁組登記ノ取消ヲ申請スル手續ヲ規定シタルモノナリ
養子縁組ハ(一)人違其他ノ事由ニ依リ當事者間ニ縁組ヲ爲ス意思ナキトキ(二)當事者カ
縁組ノ届出ヲ爲サ、ルトキハ無効ナルコト民法第八百五十一條ノ規定スル所ナリ然レ
トモ(二)ノ場合ニ於テハ未タ縁組ノ登記アラサルヲ以テ本條ニ依リ取消ノ申請ヲ爲ス
ヘキ場合ナク獨リ(一)ノ場合ニ限ルヘキモノトス而シテ當事者双方カ此縁組ノ無効ナ
ルコトヲ認メテ取消スコトニ異議ナキトキハ次條ノ如ク裁判ニ依リ其裁判確定ヲ待
ツテ取消ヲ申請スルニ及ハス其無効ナル事由ノ證明書即チ戸籍吏ヲシテ縁組ノ無効
ナルコトヲ信認セシムルニ足ルヘキ書類ヲ届出人ヨリ提出シ先ニ爲シタル縁組登記

ノ取消ヲ申請スヘキモノトス戸籍吏ハ之レカ登記ハ第二十四條ニ從テ爲スヘキモノ
ナリ

此申請書々式ハ附録トシテ之ヲ示ス

(參照)民法第八百五十一條 縁組ハ左ノ場合ニ限り無効トス

- 一 人違其他ノ事由ニ因リ當事者間ニ縁組ヲ爲ス意思ナキトキ
 - 二 當事者カ縁組ノ届出ヲ爲サ、ルトキ但其届出カ第七百七十五條第二項及ヒ第八百四十八條第一項
ニ掲ケタル條件ヲ缺クニ止マルトキハ縁組ハ之カ爲メニ其効力ヲ妨ケラレ、コトナシ
- 第七百七十五條 婚姻ハ之ヲ戸籍吏ニ届出ツルニ依リテ其効力ヲ生ス
前項ノ届出ハ當事者双方及ヒ成年ノ證人貳人以上ヨリ口頭ニテ又ハ署名シタル書面ヲ以テ之
ヲ爲スコトヲ要ス

第八百四十八條 「本節題下參照參看」

第八百四十三條 「同上」

第九十二條 縁組ノ無効又ハ取消ノ裁判カ確定シタルトキハ其訴ヲ提起シタル者

ハ裁判確定ノ日ヨリ一ヶ月内ニ裁判ノ謄本ヲ提出シテ登記ノ取消ヲ申請スルコ

トヲ要ス

○第四章 身分ニ關スル届出 第九十一條、第九十二條

本條ハ裁判ニ依リテ養子縁組ノ登記取消ヲ申請スル手續ヲ規定シタルモノナリ
 養子縁組ノ無効ナル場合ニ裁判ニ依ラスシテ縁組登記ノ取消申請手續ハ既ニ前條ニ
 之レテ説明セリ然レトモ其無効ナルコトヲ當事者認メサルトキハ裁判ノ効力ニ依ル
 ノ外ナシ故ニ此場合ハ訴ヲ提起シテ無効ナル旨ヲ裁判ヲ受ク其裁判力上訴ノ期間ヲ
 經過シ又ハ上訴ノ途ナキニ因リ確定シタルトキハ確定後一ヶ月内ニ其訴ヲ提起シタ
 ル者ヨリ裁判ノ原本ヲ提出シテ前ノ登記取消ヲ申請スヘキモノトス此申請書々式ハ
 附録トシテ之ヲ示ス

又養子縁組ヲ取消スコトヲ得ル場合ハ(一)成年ニ達セサル者カ養子ヲ爲シタルトキ(民
 法第八百五十三條)(二)尊族(伯叔父母等)又ハ已レヨリ年長者ヲ養子ト爲シ若クハ法定ノ
 推定家督相續人タル男子アルニ女婿ト爲スニ非ラスシテ男子ヲ養子ト爲シタルトキ
 (民法第八百五十四條)(三)後見人カ被後見人ヲ養子ト爲シタルトキ(民法第八百五十五條)
 (四)配偶者アル者カ其配偶者ト共ニセス縁組ヲ爲シタルトキ(民法第八百五十六條)(五)成
 年カ養子ヲ爲シ又ハ滿十五年以上ノ子カ養子ト爲ルニ其家ニアル父母ノ同意ヲ得ス
 若シハ婚家養家ヨリ更ニ養子トナルニ實家ニ在ル父母ノ同意ヲ得サルトキ(民法第
 八百五十七條)(六)詐欺又ハ強迫ニ因リテ縁組ヲ爲シタルトキ(民法第八百五十九條)以上

ノ縁組ハ即取消シ得ルモノナルヲ以テ此場合ハ其取消ヲ裁判所ニ請求シ取消ノ裁判
 確定シタルトキハ前項無効ナル場合ト全一ノ手續ヲ爲スヘキモノナリ

(參照民法第八百五十三條 第八百三十七條ノ規定ニ違反シタル縁組ハ養親又ハ其法定代理人ヨリ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコト
 ナ得但養親カ成年ニ達シタル後六ヶ月ヲ經過シ又ハ追認ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス

「第八百三十七條 「本節題下參照」

全 第八百五十四條 第八百三十八條又ハ第八百三十九條ノ規定ニ違反シタル縁組ハ各當事者其戸主又ハ親族ヨリ其取消ヲ
 裁判所ニ請求スルコトヲ得

「第八百三十八條 「本節題下參照參看」

「第八百三十九條 「同上」

全 第八百五十五條 第八百四十條ノ規定ニ違反シタル縁組ハ養子又ハ其實方ノ親族ヨリ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ
 得但管理ノ計算カ終ハリタル後養子カ追認ヲ爲シ又ハ六ヶ月ヲ經過シタルトキハ此限ニ在ラス

追認ハ養子カ成年ニ達シ又ハ能力ヲ回復シタル後之ヲ爲スニ非サレハ其効ナシ

養子カ成年ニ達セス又ハ能力ヲ回復セサル間ニ管理ノ計算カ終ハリタル場合ニ於テハ第一項但書ノ期
 間ハ養子カ成年ニ達シ又ハ能力ヲ回復シタル時ヨリ之ヲ起算ス

第八百四十條 「本節題下參照參看」

全 第八百五十六條 第八百四十一條ノ規定ニ違反シタル縁組ハ同意ヲ爲サザリシ配偶者ヨリ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコ
 トヲ得但配偶者カ縁組アリタルコトヲ知りタル後六ヶ月ヲ經過シタルトキハ追認ヲ爲シタルモノト

○第四章 身分ニ關スル届出 第九十二條

看做ス

「第八百四十一條 本節題下参照參看」

全 第八百五十七條

第八百四十四條乃至第八百四十六條ノ規定ニ違反シタル縁組ハ同意ヲ爲ス權利ヲ有セシ者ヨリ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得同意カ詐欺又ハ強迫ニ因リタルトキ亦同シ

第七百八十四條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

「第八百四十四條 本節題下参照參看」

第八百四十五條 「同上」

第八百四十六條 「同上」

第七百七十二條 「同上」

第七百七十三條 「同上」

全 第八百五十九條

第七百八十五條及ヒ第七百八十七條ノ規定ハ縁組ニ之ヲ準用ス但第七百八十五條第二項ノ期間ハ之ヲ六ヶ月トス

第七百八十五條 詐欺又ハ強迫ニ因リテ婚姻ヲ爲シタル者ハ其婚姻ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

前項ノ取消權ハ當事者カ詐欺ヲ發見シ若クハ強迫ヲ免レタル後三ヶ月ヲ經過シ又ハ追認ヲ爲シタルトキハ消滅ス

第七百八十七條 婚姻ノ取消ハ其効力ヲ既往ニ及ホサス

婚姻ノ當時其取消ノ原因ノ存スルコトヲ知ラザリシ當事者カ婚姻ニ因リテ財産ヲ得タルトキハ現ニ利益ヲ受クル限度ニ於テ其返還ヲ爲スコトヲ要ス
婚姻ノ當時其取消ノ原因ノ存スルコトヲ知リタル當事者ハ婚姻ニ因リテ得タル利益ノ全部ヲ返還スルコトヲ要ス尙ホ相手方カ善意ナリシトキハ之ニ對シテ損害賠償ノ責ニ任ス

第九十三條

第八十五條及ヒ第八十七條乃至第八十九條ノ規定ハ口頭ヲ以テ届出

ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

身分ニ關スル届出ハ書面ヲ以テ爲スヲ通例トシ變則トシテハ口頭ニテ届出ヲ爲スヲ得ルヲ及ヒ口頭ヲ以テ届出ヲ爲ス手續ハ第四十三條第五十四條第五十五條ニ規定シアルヲ以テ既ニ通則ニ斯ノ如キ規定アル以上ハ本條ニ於テ第八十五條及第八十七條乃至第八十九條ノ規定即縁組届書及同意者署名捺印等ハ口頭ヲ以テ届出ヲ爲ス場合ニ準用スル旨特ニ規定スル必要ナキモノノ如クナレトモ之レ深ク研究セサル皮想ノ速斷ノミ第四十三條ハ届出ハ書面ヲ以テ爲スヲ原則トシ正當ノ事由アルトキハ口頭ニテ届出ヲ爲スヲ得ルモノト爲シタルニ拘ラス養子縁組届出ハ民法第八百四十七條本節題下参照參看ニ依リ口頭ニテモ又ハ署名シタル書面ヲ以テスルモ自由ニシテ届出人ノ撰擇ニ任セ敢テ正當ノ事由アルニ限ラス第四十三條ノ原則ニ據ルヲ

○第四章 身分ニ關スル届出 第九十三條

要セサルノミナラス第八十五條及ヒ第八十七條乃至第八十九條ハ書面ヲ以テ届出ツ
 ヘキ場合ノ規定ナルヲ以テ縁組届出ヲ口頭ニテ爲スルハ右書面ヲ以テ届出ル場合ノ
 規定ヲ準用スル必要アリトス故ニ本條ノ規定アル所以ナリ即チ口頭ヲ以テ届出ツル
 ニハ第五十四條ニ依リ届出人ハ戸籍吏ノ面前ニ出頭シ(通例代理人ヲ差出スコトヲ得
 ルモ縁組ノ場合ハ次條ニ依リ代理人ヲ許サス)(一)當事者ノ氏名出生ノ年月日職業及ヒ
 本籍地(二)養子ノ實父母ノ氏名職業及ヒ本籍地(三)當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名
 職業及ヒ本籍地(第八十五條)ヲ陳述シ若シ届出カ(四)戸主、父母、配偶者、後見人又ハ親族會
 ノ同意ヲ要スル場合ニ於テハ第五十六條ニ依リ同意スヘキ者ヲシテ戸籍吏ノ面前ニ
 出頭セシメ同意ノ旨ヲ陳述セシムルカ又ハ同意ノ證書ヲ届出人ヨリ提出セシメ(第八
 十七條)(五)夫婦ノ一方カ双方ノ名義ヲ以テ縁組ヲ爲スルハ他ノ一方カ意思ヲ表示スル
 コト能ハサル旨ヲ陳述シ(第八十八條)(六)遺言ニ依リテ縁組ノ届出ヲ爲ス場合ハ遺言者
 ノ死亡ノ年月日ヲモ陳述シ且養子ニ關スル遺言書ヲモ差出スヘキモノナリトス

第九十四條 第五十八條ノ規定ハ縁組ノ届出ニハ之ヲ適用セス

届出人カ口頭ヲ以テ届出ヲ爲スニハ戸籍吏ノ面前ニ出頭シテ届出事件ヲ陳述スヘキ
 モノナリ(第五十四條)故ニ届出人カ疾病其他ノ事故ニ因リ自カラ出頭スルコト能ハサ

ルトキハ代理人ヲ差出スコトヲ得セシメサルヘカラス(第五十八條)然レトモ養子縁組
 ノ如キハ當事者ノ届出ニ依リテ效力ヲ生スヘキナリ斯ノ如ク重大ナル届出行爲ヲ代
 理人ヲ以テ爲サシムルトキハ當事者カ果シテ縁組ヲ爲ス意思ヲ確ムルニ適當ナラズ
 或ハ委任ノ間ニ錯誤等ナキヲ保セザレハ後日無効ナル結果ヲ來ス恐レナキニアラザ
 ルヲ以テ特ニ縁組届出ノ場合ハ代人ヲ許シタル第五十八條ノ規定ヲ適用セス必ス自
 身出頭ヲ命シタリ故ニ若シ疾病其他ノ事故ニ因リ戸籍吏ノ面前ニ出頭スルヲ得サル
 トキハ署名シタル書面ヲ以テ届出テサルヘカラサルナリ

第六節 養子離縁

養子離縁トハ自己ノ子ニ非ラサル他ノ子ヲ収養シ縁組ニ依リテ一旦親子ノ關係ヲ生
 シタル者カ更ニ其親子ノ關係ヲ斷ツ場合ニシテ縁組ノ場合ト同シク第八百六十四條
 ニ依リ當事者雙方及ヒ成年ノ證人二人以上ヨリ戸籍吏ニ届出ツヘク戸籍吏ハ民法第
 八百六十五條ニ依リ離縁カ民法ノ個條及ヒ本法ノ規定ニ違反セサルモノナルコトヲ
 認メタル上ニ非ラサレハ其届出ヲ受理スルコトヲ得サルモノトス然レトモ若シ戸籍
 吏カ之レニ違反シテ届出ヲ受理シタルトキハ如何縁組ノ場合ハ縁組取消ノ原因トナ
 ルモ離縁ノ場合ハ離縁ノ效力ヲ妨ケララルコトナク有效ナリトス之レ縁組ト異ナル

○第四章 身分ニ關スル届出 第九十四條

点ナリ民法第八百六十五條ニ掲ケタル民法ノ個條ハ左ニ之ヲ掲載シテ參照ニ便ス
(參照)民法第八百六十四條 第七百七十四條及ヒ第七百七十五條ノ規定ハ協議上ノ離縁ニ之ヲ準用ス

〔第七百七十四條、第七百七十五條(第五節題下參照)〕

全 第八百六十五條

戸籍吏ハ離縁カ第七百七十五條第二項第八百六十二條及ヒ第八百六十三條ノ規定其他ノ法令ニ違反セサルコトヲ認メタル後ニ非サレハ其届出ヲ受理スルコトヲ得ス

戸籍吏カ前項ノ規定ニ違反シテ届出ヲ受理シタルトキト雖モ離縁ハ之カ爲メニ其効力ヲ妨ケラレハコトナシ

〔第七百七十五條 婚姻ハ之ヲ戸籍吏ニ届出ツルニ因リテ其効力ヲ生ス

前項ノ届出ハ當事者雙方及ヒ成年ノ證人貳人以上ヨリ口頭ニテ又ハ署名シタル書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第八百六十二條 縁組ノ當事者ハ其協議ヲ以テ離縁ヲ爲スコトヲ得

養子カ十五年未滿ナルトキハ其離縁ハ養親ト養子ニ代ハリテ縁組ノ承諾ヲ爲ス權利ヲ有スル者トノ協議ヲ以テ之ヲ爲ス

養親カ死亡シタル後養子カ離縁ヲ爲サント欲スルトキハ戸主ノ同意ヲ得テ之ヲ爲スコトヲ得

第八百六十三條 滿二十五年ニ達セサル者カ協議上ノ離縁ヲ爲スニハ第八百四十四條(第五節題下參

照參看)ノ規定ニ依リ其縁組ニ付キ同意ヲ爲ス權利ヲ有スル者ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第七百七十二條第二項第三項及第七百七十三條(第五節題下參照參看)ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ

準用ス

第九十五條 離縁ノ届書ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 當事者ノ氏名、職業及ヒ本藉地
- 二 養子ノ實父母ノ氏名、職業及ヒ本藉地
- 三 當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名、職業及ヒ本藉地
- 四 縁組ノ年月日
- 五 離縁カ協議又ハ裁判ニ因ルコト
- 六 養子ノ妻カ養子ト共ニ養家ヲ去ルトキハ其旨及妻ノ名
- 七 養子カ復藉スヘキ家ノ戸主ノ氏名、職業及ヒ本藉地
- 八 養子カ復藉スヘキ家ナキトキハ其事由

養子離縁ハ之レヲ戸籍吏ニ届出ツルニ非サレハ其効力ヲ生セサルコトハ民法第八百六十四條本節題下參照參看)ノ規定スル處ナリ故ニ本條ニハ之ヲ届出ツヘキコトヲ規定セスシテ其届出ノ手續ニ付テノミ規定シタルモノナリ

養子離縁届出ハ口頭又ハ署名シタル書面ヲ以テ當事者雙方及成年ノ證人二人以上ヨ

○第四章 身分ニ關スル届出 第九十五條

リ之レヲ爲スヘキモノニシテ當事者疾病其他ノ事故アルモ口頭ヲ以テ届出ヲ爲ス場
合ハ第一百一條ノ規定ニ依リ代理人ヲ許ササルモノナリ然レトモ養子カ十五年未滿ナ
ルトキハ第九十六條ニ依リ其家ニアル父母ト養親ヨリ届出ツヘキモノナリ又離縁カ
裁判ニ因ルモノナルトキハ第九十九條ニ依リ訴ノ提起者ノミヨリ届出テ敢テ證人ヲ
要セサルモノナリ

本條ノ規定ニ依リ離縁届書ニ記載スヘキ事項左ノ如シ

一 養親ト養子ノ氏名、職業及ヒ本籍地

二 養子ノ實父母ノ氏名、職業及ヒ本籍地

三 養親ト養子カ家族ナルトキハ其戸主ノ氏名、職業及ヒ本籍地

以上三クハ縁組ノ場合ニ於ケル事項ト異ナルコトナシ只離縁ノ場合第一號當事者
ノ出生年月日ヲ略シタルノミ

四 縁組ヲ爲シタル年月日

五 離縁ハ民法第八百六十二條ニ依リ協議ヲ以テ爲ス場合ト民法第八百六十六條ニ
依リ訴ヲ提起シ確定裁判ニ依リテ爲ス場合アルヲ以テ其何レニ因ルモノナルコト
六 養子カ他家ニ入り又ハ一家ヲ創立シタルトキハ妻ハ其夫ト離婚セサル場合ハ民

法第七百四十五條ニ依リ當然夫タル養子ニ隨ヒテ其家ニ入ルヘキモノナルヲ以テ
妻カ養子ト共ニ養家ヲ去ルトキハ其旨及妻ノ名

七 養子カ離縁ヲ爲ス場合ハ民法第七百三十九條ニ依リ當然實家ニ復籍スヘキモノ
ナレトモ次號ノ如ク復籍スヘキ家ナキコトアルヲ以テ實家ヘ復籍スヘキトキハ其
家ノ戸主ノ氏名、職業及ヒ本籍地

然レトモ婚姻、養子縁組ニ因リテ他家ニ入りタル者カ更ニ養子縁組ニ因リテ他家ニ
入り離縁セラレタルモノナルトキハ實家又ハ婚家、若クハ養家ニ復籍スルコトヲ得
(民法第七百四十一條第五節題下參照參看)

八 養子カ離縁ヲ爲ス場合ハ實家ニ復籍スヘキモノナルコトハ前號ニ説明セシ如ク
ナレトモ其復籍スヘキ家ノ戸主ヨリ民法第七百四十一條第二項第七百五十條第二
項(第五節題下參照參看)ニ依リ復籍ヲ拒絕セラル、カ又ハ其家カ廢家絶家ト爲リタ
ル場合ハ民法第七百四十條及ヒ第七百四十二條ニ依リ一家ヲ創立スヘキモノナル
以テ此場合ハ第五百十一條ニ依リ別ニ届出ツヘキモノナリ故ニ本號ニ於テ其事由
即チ復籍拒絕又ハ廢家若クハ絶家トナリ復籍スヘキ家ナキコトヲ記載スヘキモノ
トス

○第四章 身分ニ關スル届出 第九十五條

以上ハ届書ニ記載スヘキ事項ニシテ尙同意ヲ要スヘキ者アル場合ハ第九十八條ニ據ルコトヲ要シ其他通則ノ規定ニ依リ届出ツルモノトス届書ノ協議離縁ノ例及裁判ニ因ル離縁ノ例ハ附録トシテ之ヲ示ス

(參照民法第八百六十二條 縁組ノ當事者ハ其協議ヲ以テ離縁ヲ爲スコトヲ得

養子カ十五年未滿ナルトキハ其離縁ハ養親ト養子ニ代ハリテ縁組ノ承諾ヲ爲ス權利ヲ有スル者トノ協議ヲ以テ之ヲ爲ス

養親カ死亡シタル後養子カ離縁ヲ爲サント欲スルトキハ戸主ノ同意ヲ得テ之ヲ爲スコトヲ得

全 第八百六十六條 縁組ノ當事者ノ一方ハ左ノ場合ニ限リ離縁ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

- 一 他ノ一方ヨリ虐待又ハ重大ナル侮辱ヲ受ケタルトキ
- 二 他ノ一方ヨリ惡意ヲ以テ遺棄セラレタルトキ
- 三 養親ノ直系尊屬ヨリ虐待又ハ重大ナル侮辱ヲ受ケタルトキ
- 四 他ノ一方カ重禁錮一年以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
- 五 養子ニ家名ヲ授シ又ハ家産ヲ傾クヘキ重大ナル過失アリタルトキ
- 六 養子カ逃亡シテ三年以上復歸セザルトキ
- 七 養子ノ生死カ三年以上分明ナラザルトキ
- 八 他ノ一方カ自己ノ直系尊屬ニ對シテ虐待ヲ爲シ又ハ之ニ重大ナル侮辱ヲ加ヘタルトキ
- 九 婿養子縁組ノ場合ニ於テ離婚アリタルトキ又ハ養子カ家女ト婚姻ヲ爲シタル場合ニ於テ離婚

婚若クハ婚姻ノ取消アリタルトキ

全 第七百四十九條 家族ハ戸主ノ意ニ反シテ其居所ヲ定ムルコトヲ得ス

家族カ前項ノ規定ニ違反シテ戸主ノ指定シタル居所ニ在ラサル間ハ戸主ハ之ニ對シテ扶養ノ義務ヲ免ル

前項ノ場合ニ於テ戸主ハ相當ノ期間ヲ定メ其指定シタル場所ニ居所ヲ轉スヘキ旨ヲ警告スルコトヲ得若シ家族カ其警告ニ應セザルトキハ戸主ハ之ヲ離婚スルコトヲ得但シ家族カ未成年者ナルトキハ此限ニ在ラス

全 第七百三十九條 婚姻又ハ養子縁組ニ因リテ他家ニ入りタル者ハ離婚又ハ離縁ノ場合ニ於テ實家ニ復籍ス

全 第七百四十條 前條ノ規定ニ依リテ實家ニ復籍スヘキ者カ實家ノ廢絶ニ因リテ復籍ヲ爲スコト能ハザルトキハ一家ヲ創立ス但實家ヲ再興スルコトヲ妨ケス

全 第七百四十二條 離婚セラレタル家族ハ一家ヲ創立ス他家ニ入りタル後復籍ヲ拒マレタル者カ離婚又ハ離縁ニ因リテ其家ヲ去リタルトキ亦同シ

第九十六條 民法第八百六十二條第二項ノ規定ニ依リテ離縁ヲ爲ス場合ニ於テハ

養親及ヒ養子ニ代ハリテ協議ヲ爲シタル者ヨリ届出ヲ爲スコトヲ要ス

本條ハ父母カ養子ニ代リテ縁組届出ヲ爲ス第八十六條ノ規定ト同一趣旨ノモノナリ
養子カ十五年未滿ナルトキハ其家ニアル父母ハ養子ニ代リテ縁組ノ承諾ヲ爲ス權利

○第四章 身分ニ關スル届出 第九十六條

ヲ有スル者民法第八百四十三條第五節題下參照ナルヲ以テ十五年未滿ノ養子カ離縁ヲ爲ス場合ニ於テモ此等ノ者ハ又養子ニ代リテ養親ト協議ヲ以テ離縁ヲ爲ス可キ旨民法第八百六十二條第二項(前條參照)ニ規定セリ故ニ此場合ハ養子ニ代リテ協議ヲ爲シタル其父母ト養親ヨリ本條ニ從ヒ離縁ノ届出ヲ爲スヘキモノトス

第九十七條 民法第八百六十二條第三項ノ規定ニ依リテ離縁ヲ爲ス場合ニ於テハ養親ヨリ届出ヲ爲スヲ以テ足ル

本條ハ養親カ死亡シタル後養子カ離縁ヲ爲ス場合ノ届出手續ヲ規定シタルモノナリ協議離縁届出ハ養親ト養子ヨリ(民法第八百六十四條本節題下參照)養子カ十五年未滿ナルトキハ前條ニ依リ養親ト養子ノ父母ヨリ爲スヘキモノナレトモ養親カ死亡シタル後ニ養子カ離縁セントスルトキハ協議ヲ爲スヘキ當事者ノ一方タル養親ナキヲ以テ民法第八百六十二條第三項(第九十五條參照)ニ依リ戸主ノ同意ヲ得テ離縁ヲ爲シ本條ニ從ツテ養子ヨリ届出ヲ爲スヘキモノトセリ但養子カ未成年者ナルトキハ通則第四十六條ニ依リ後見人ヨリ届出ツルハ勿論ナリ此場合ハ次條ニ依リテ戸主同意ノ證書ヲ添付スルカ又ハ届書ニ同意ノ旨ヲ附記シ之レニ署名捺印セシムヘキモノナ

第九十八條 民法第八百六十二條第三項及ヒ第八百六十三條ノ規定ニ依リ戸主、

父母、後見人又ハ親族會ノ同意ヲ要スル場合ニ於テハ届出人ハ届書ニ同意ノ證書ヲ添へ又ハ同意ヲ爲シタル者ヲシテ届書ニ同意ノ旨ヲ附記シ之ニ署名、捺印セシムルコトヲ要ス

本條ハ養子離縁ニ戸主父母後見人又ハ親族會ノ同意ヲ要スル場合ノ手續ヲ規定シタルモノナリ即チ其同意ヲ要スル場合ハ民法第八百六十二條第三項(第九十五條參照)及ヒ第八百六十三條ニ規定スル所ニシテ左ノ如シ

(一) 養親カ死亡タシル後養子カ離縁ヲ爲サント欲スルトキハ戸主ノ同意ヲ要ス(民法第八百六十二條第三項)

(二) 滿二十五年ニ達セサル養親又ハ養子カ協議ノ離縁ヲ爲ストキハ其家ニアル父母ノ同意ヲ要ス但父母ノ一方カ死亡シタルトキ知レサルトキ家ヲ去リタルトキ又ハ意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ他ノ一方ノ同意ノミニテ足ル(民法第八百六十三條)

(三) 離縁ノ同意ヲ爲スヘキ父母カ共ニ知レサルトキ死亡シタルトキ家ヲ去リタルト

○第四章 身分ニ關スル届出 第九十七條、第九十八條

キ又ハ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキ未成年者ハ後見人及ヒ親族會ノ同意ヲ要ス(全上)

(四) 繼父母又ハ嫡母カ子ノ離縁ニ同意セサルトキハ親族會ノ同意ヲ要ス(全上)
以上同意ヲ要スル場合ニ於テハ養子離縁ノ届出人ハ同意ノ證書ヲ添ヘテ届出ツヘシ又ハ其證書ヲ添ヘサルモ同意ヲ爲シタル者ヲシテ届書ニ同意ノ旨ヲ付記シ署名捺印セシムルモノトス

(參照)民法第八百六十三條 滿二十五年ニ達セサル者カ協議上ノ離縁ヲ爲スニハ第八百四十四條ノ規定ニ依リ其縁組ニ付キ同意ヲ爲ス權利ヲ有スル者ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第七百七十二條第二項第三項及ヒ第七百七十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七百七十二條第二項父母ノ一方カ知レサルトキ死亡シタルトキ家ヲ去リタルトキ又ハ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ他ノ一方ノ同意ノミヲ以テ足ル

第三項 父母共ニ知レサルトキ死亡シタルトキ家ヲ去リタルトキ又ハ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ未成年者ハ其後見人及ヒ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第七百七十三條 繼父母又ハ嫡母カ子ノ婚姻ニ同意セサルトキハ子ハ親族會ノ同意ヲ得テ婚姻ヲ爲スコトヲ得

第八百四十四條 成年ノ子カ養子ヲ爲シ又ハ滿十五年以上ノ子カ養子ト爲ルニハ其家ニ在ル父母ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

同意ヲ得ルコトヲ要ス

第九十九條 離縁ノ裁判カ確定シタルトキハ其訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日

ヨリ十日内ニ裁判ノ謄本ヲ添ヘテ届出ヲ爲スコトヲ要ス

本條ハ裁判ニ因ル離縁ノ届出手續ヲ規定シタルモノナリ離縁ハ縁組當事者ノ協議ニ依ルカ又ハ離縁ノ裁判確定シタル場合ノ外之ヲ爲スコトヲ得サルモノニシテ協議離縁ニ付テハ既ニ述ヘタリ裁判ニ依ル離縁ハ民法第八百六十六條ニ列記スル場合ニ限リ縁組當事者ノ一方ハ(養子カ滿十五年ニ達セサル間ハ其家ニ在ル父母代リテ訴ヲ提起ス)離縁ノ訴ヲ提起シ其離縁ノ裁判カ上訴期間ヲ經過シ又ハ上訴ノ途ナキニ至リ確定シタルトキハ離縁ヲ請求シタル者ハ其確定シタル日ヨリ十日内ニ裁判ノ謄本ヲ添ヘテ届出ツヘキモノナリ此場合ハ裁判ノ結果ニ依リ届出ツヘキモノナルヲ以テ當事者又ハ證人二人以上ノ署名捺印ヲ要セサルノミナラス同意スヘキ者ノ同意ヲ得ルヲ要セサルハ勿論ナリトス

(參照)民法第八百六十六條 前出(第九十五條參照參看)

全 第八百六十七條 養子カ滿十五年ニ達セサル間ハ其縁組ニ付キ承諾權ヲ有スル者ヨリ離縁ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

第八百四十三條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

○第四章 二分ニ關スル届出 第九十九條

第百條 第九十五條及ヒ第九十八條ノ規定ハ口頭ヲ以テ届出ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

本條ハ養子縁組ノ場合ニ口頭ヲ以テ届出ツル第九十三條ノ規定ト同一趣旨ノモノナリ
養子縁組ノ届出モ養子縁組届出ト同シク民法第八百六十四條（本節題下參照參看）ノ規定ニ依リ口頭ヲ以テ届出ルト署名シタル書面ヲ以テ届出ルトハ届出人ノ隨意ナリ故ニ正當ノ事由アルニアラサレハ口頭ヲ以テ届出ツルコトヲ得サル旨ノ第四十三條ハ離縁届出ニ適用スヘカラサルモノナリ依テ書面ノ届出手續ヲ規定シタル第九十五條及ヒ第九十八條ハ口頭ヲ以テ離縁ノ届出ヲ爲ス場合ニモ準用スヘキコトヲ本條ニ定メタルモノナリ
養子縁組ノ届出ト養子縁組ノ届出トハ其事項ノ異ナルハ當然ナレトモ口頭ヲ以テ届出ツル手續キハ異ナルコトナキヲ以テ口頭ヲ以テ縁組届出ヲ爲ス場合ノ第九十三條ノ解説ヲ參看スヘシ

第百一條 第五十八條ノ規定ハ離縁ノ届出ニハ之ヲ適用セス

本條モ養子縁組ニ代理人ヲ許サ、ル第九十四條ノ規定ト同一趣旨ノモノナリ
口頭ヲ以テ離縁ノ届出ヲ爲ス場合ハ届出人カ疾病其他ノ事故アリテ戸籍吏ノ面前ニ出頭スル能ハサルトキト雖モ決シテ代理人ヲ許サス必ス疾病其他ノ事故ノ止ミタル後届出ツルカ又ハ書面ヲ以テ届出ヲ爲サ、ル可カラズ尙詳細ノ理由ハ第九十四條ト同一ナルヲ以テ同條解説ヲ參看スヘシ

第七節 婚姻

婚姻ハ夫婦タル身分上ノ關係ヲ生スルモノナリ而シテ婚姻ヲ爲スニハ戸籍吏ニ當事者夫妻雙方及成年ノ證人二人以上ヨリ届出ツヘキモノナルコトハ民法第七百七十五條ノ規定スルトコロニシテ若シ之レヲ届出テサレハ婚姻ノ効力ヲ生セサルモノナリ此婚姻ニ付キ届出ツヘキ事項ハ即チ本節ニ之ヲ規定スルヲ以テ第百二條以下ニ之レヲ解説スヘシト雖モ婚姻ニハ尙民法上必要ナル事項アルヲ以テ戸籍吏ハ民法ノ條項及本法ノ規定ニ違反セサルコトヲ認メタル上ニアラサレハ婚姻ノ届出ヲ受理スルコトヲ得サル旨民法第七百七十六條ニ規定セリ然レトモ戸籍吏ハ婚姻又ハ養子縁組ニ因リ他家ニ入りタル者カ更ニ婚姻ニ因リテ他家ニ入ラント欲スルトキ婚家又ハ養家及ヒ實家ノ戸主カ同意ヲ得サルトキ家族カ婚姻ヲ爲スニ戸主ノ同意ヲ得サルトキハ

○第四章 身分ニ關スル届出 第百條、第百一條

其婚姻届出ニ付キ一應注意ヲ爲シタルニ拘ラス尙強ヒテ當事者カ届出ント欲スルト
キハ其當事者ハ同意ヲ爲サ、リシ戸主ニ復籍ヲ拒絕セラル、コトナキテ豫想シタル
カ若シクハ拒絕セラル、モ異存ナキテ覺悟シタルモノト看做シ此場合ニ限リテハ違
法婚姻ナリトテ届出ヲ拒絕スル能ハサルヲ以テ受理セサルヲ得サルナリ又民法第七
百七十五條第二項ニ規定スル條件ヲ缺クモ婚姻ノ效力ヲ妨ケララル、ルコトナシ(民法
第七百七十八條第二號)民法第七百七十六條ニ掲クル民法ノ條項ニ婚姻カ適合シタル
モノナルヤ否ヤハ届出ニ必要ナルヲ以テ左ニ掲載シテ參照ニ便ス

(參照)民法第七百七十五條

婚姻ハ之ヲ戶籍吏ニ届出ツルニ因リテ其効力ヲ生ス

前項ノ届出ハ當事者双方及ビ成年ノ證人二人以上ヨリ口頭ニテ又ハ署名シタル書面ヲ以テ之ヲ爲スコ
トヲ要ス

全 第七百七十六條

戶籍吏ハ婚姻カ第七百四十一條第一項、第七百四十四條第一項、第七百五十四條
第一項、第七百六十五條乃至第七百七十三條及ビ前條第二項ノ規定其他ノ法令ニ違反セサルコトヲ認
メタル後ニ非サレハ其届出ヲ受理スルコトヲ得ス但婚姻カ第七百四十一條第一項又ハ第七百五十四條第
一項ノ規定ニ違反スル場合ニ於テ戶籍吏カ注意ヲ爲シタルニ拘ハラズ當事者カ其届出ヲ爲サント欲ス
ルトキハ此限ニ在ラス

「第七百四十一條 婚姻又ハ養子縁組ニ因リテ他家ニ入りタル者カ更ニ婚姻又ハ養子縁組ニ因リテ他

家ニ入ラント欲スルトキハ婚家又ハ養家及ビ實家ノ戸主ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ同意ヲ爲ササリシ戸主ハ婚姻又ハ養子縁組ノ日ヨリ一年內ニ復籍ヲ拒ムコトヲ
得

第七百四十四條 法定ノ推定家督相繼人ハ他家ニ入り又ハ一家ヲ創立スルコトヲ得ス但本家相繼ノ

必要アルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ハ第七百五十條第二項ノ適用ヲ妨ケス

第七百五十條 家族カ婚姻又ハ養子縁組ヲ爲スニハ戸主ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

家族カ前項ノ規定ニ違反シテ婚姻又ハ養子縁組ヲ爲シタルトキハ戸主ハ其婚姻又ハ養子縁組ノ日
ヨリ一年內ニ離籍ヲ爲シ又ハ復籍ヲ拒ムコトヲ得

家族カ養子ヲ爲シタル場合ニ於テ前項ノ規定ニ從ヒ離籍セラレタルトキハ其養子ハ養親ニ從ヒテ
其家ニ入ル

第七百五十四條 戸主カ婚姻ニ因リテ他家ニ入ラント欲スルトキハ前條ノ規定ニ從ヒ隱居ヲ爲スコ
トヲ得

戸主カ隱居ヲ爲サスシテ婚姻ニ因リ他家ニ入ラント欲スル場合ニ於テ戶籍吏カ其届出ヲ受理シタ
ルトキハ其戸主ハ婚姻ノ日ニ於テ隱居ヲ爲シタルモノト看做ス

第七百六十五條 男ハ滿十七年女ハ滿十五年ニ至ラサレハ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス

第七百六十六條 醜偶者アル者ハ重子テ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス

○第四章 身分ニ關スル届出 第一百一條

第七百六十七條 女ハ前婚ノ解消又ハ取消ノ日ヨリ六ヶ月ヲ經過シタル後ニ非ラサレハ再婚ヲ爲スコトヲ得ス

女カ前婚ノ解消又ハ取消ノ前ヨリ懷胎シタル場合ニ於テハ其分娩ノ日ヨリ前項ノ規定ヲ適用セス

第七百六十八條 姦通ニ因リテ離婚又ハ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ハ相姦者ト婚姻ヲ爲スコトヲ得ス

第七百六十九條 直系血族又ハ三親等内ノ傍系血族ノ間ニ於テハ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス但養子ト養方ノ傍系血族トノ間ハ此限ニ在ラス

第七百七十條 直系姻族ノ間ニ於テハ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス第七百二十九條ノ規定ニ依リ姻 關係カ止ミタル後亦同シ

第七百七十一條 養子、其配偶者、直系卑屬又ハ其配偶者ト養親又ハ其直系尊屬トノ間ニ於テハ第七百三十條ノ規定ニ依リ親族關係カ止ミタル後ト雖モ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス

第七百七十二條 子カ婚姻ヲ爲スニハ其家ニ在ル父母ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス但男方滿三 年女カ滿二十五年ニ達シタル後ハ此限ニ在ラス、

父母ノ一方カ知レサルトキ、死亡シタルトキ、家ヲ去リタルトキ又ハ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ他ノ一方ノ同意ノミヲ以テ足ル

父母共ニ知レサルトキ、死亡シタルトキ、家ヲ去リタルトキ、又ハ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ未成年者ハ其後見人及ヒ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第七百七十三條 親父母又ハ嫡母カ子ノ婚姻ニ同意セサルトキハ子ハ親 會ノ同意ヲ得テ婚姻ヲ爲スコトヲ得

全 第七百七十八條 婚姻ハ左ノ場合ニ限リ無効トス

一 入違其他ノ事由ニ因リ當事者間ニ婚姻ヲ爲ス意思ナキトキ

二 當事者カ婚姻ノ届出ヲ爲サルトキ但届出方第七百七十五條第二項ニ掲ケタル條件ヲ缺クニ止マルトキハ婚姻ハ之カ爲メニ其効力ヲ妨ケララルコトナシ

第二百二條 婚姻ノ届書ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス

一 當事者ノ氏名、出生ノ年月日及ヒ本籍地

二 父母ノ氏名、職業及ヒ本籍地

三 當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名、職業及ヒ本籍地

四 入夫婚姻又ハ婿養子縁組ナルトキハ其旨

五 入夫婚姻ノ場合ニ於テ入夫カ戸主ト爲ラサルトキハ其旨

六 婚姻ニ因リテ嫡出子タル身分ヲ取得スル庶子アルトキハ其名及ヒ出生ノ年月日

當事者ノ一方カ婚家又ハ養家ヨリ更ニ婚姻ニ因リテ他家ニ入ル場合ニ於テハ前

項ニ掲ケタル事項ノ外前婚家ノ戸主又ハ養親ノ氏名、職業及ヒ本籍地ヲ記載スルコトヲ要ス

婚姻ハ之ヲ戸籍吏ニ届出ツルニ因リテ效力ヲ生スル旨民法第七百七十五條本節題下參照參看ニ規定アルヲ以テ本條ニハ養子縁組又ハ離縁ノ場合ト同シク單ニ届出ニ關スル手續ノミヲ規定セリ

婚姻届出ハ口頭又ハ署名シタル書面ヲ以テ當事者雙方及成年ノ證人二人以上ヨリ第百四條ニ依リ夫ノ本籍地又ハ所在地(入夫婚姻及ヒ婿養子縁組ナルトキハ妻ノ本籍地又ハ所在地)ノ戸籍吏ニ届出テ婚姻ニ同意ヲ要スルモノアル場合ハ第百三條ニ依リ同意證書ヲ添付シ又ハ届書ニ同意ノ旨ヲ付記署名捺印セシメ口頭ヲ以テ届出ツル場合ハ第百八條ニ依リ代理人ヲ許ササルモノナリ

本條ニ規定スル届書ニ記載スヘキ必要條件ハ左ノ如シ

- 一 夫婦ノ氏名、出生ノ年月日及ヒ本籍地
- 二 夫婦雙方ノ父母ノ氏名、業職及ヒ本籍地
- 三 夫婦ノ一方又ハ雙方カ戸主ニ非ラスシテ家族ナルトキハ戸主ノ氏名、職業及ヒ本籍地

四 入夫婚姻(民法第七百三十六條)又ハ婿養子縁組(民法第八百三十九條但書)ナルトキハ其旨

五 入夫婚姻ノ場合ハ入夫ハ當然其家ノ戸主ト爲ルモノナルヲ以テ當事者カ婚姻ノ際反對ノ意思ヲ表示シタルトキハ其旨(民法第七百三十六條)

六 庶子ハ父母ノ婚姻ニ因リテ嫡出子タル身分ヲ取得スルモノナルヲ以テ(民法第八百三十六條)之レニ該當スル庶子アルトキハ其庶子ノ名及出生ノ年月日

以上列記シタルモノノ外當事者(夫婦)ノ一方カ婚姻又ハ養子縁組ニ因リ他家ニ入り更ニ其婚家又ハ養家ヨリ婚姻ヲ爲シタルモノナルトハ前婚家ノ戸主又ハ養親ノ氏名、職業及本籍地ヲ届書ニ記載スヘキモノトス

本條ニ於テ届書ニ記載スヘキ事項ヲ規定シタルモノハ以上ノ如クナルモ尙通則ノ規定ニ依リテ届出ツルモノナリ今之レヲ應用シテ普通婚姻ノ例及ヒ入夫婚姻(婿養子縁組)ハ入夫婚姻ニ準ス(ノ)例ノ届出書式ヲ附録トシテ示ス

爰ニ注意ス可キコトハ婿養子縁組ナルトキハ同時ニ養子ノ身分ヲ取得スルヲ以テ通則第二十三條ニ依リ養子縁組ノ身分登記簿及ヒ婚姻ノ身分登記簿ニ登記スヘキモノトス

○第四章 身分ニ關スル届出 第百二條

(參照)民法第七百三十六條 女戸主カ入夫婚姻ヲ爲シタルトキハ入夫ハ其家ノ戸主ト爲ル但當事者カ婚姻ノ當時反對ノ意思ヲ表示

シタルトキハ此限ニ在ラス

全 第七百三十九條 「第九十五條參照」

全 第八百三十六條 庶子ハ其父母ノ婚姻ニ因リテ嫡出子タル身分ヲ取得ス

婚姻中父母カ認知シタル私生子ハ其認知ノ時ヨリ嫡出子タル身分ヲ取得ス

前二項ノ規定ハ子カ既ニ死亡シタル場合ニ之ヲ準用ス

第七百三十二條 民法第七百四十一條第一項第七百五十條第一項第七百七十二條及ヒ第

七百七十三條ノ規定ニ依リ戸主、父母、後見人又ハ親族會ノ同意ヲ要スル場合ニ

於テハ届出人ハ届書ニ同意ノ證書ヲ添ヘ又ハ同意ヲ爲シタル者ヲシテ届書ニ同

意ノ旨ヲ附記シ之ニ署名、捺印セシムルコトヲ要ス

本條ハ婚姻ニ付戸主、父母、後見人又ハ親族會ノ同意ヲ要スル場合ノ手續ヲ規定シタル

モノナリ其同意ヲ要スル場合ハ民法第七百四十一條第一項第七百五十條第一項第七

百七十二條及第七百七十三條(本節題下參照參看)ニ規定スル所ニシテ即チ左ノ如シ

(一) 婚姻又ハ養子縁組ニ因リテ他家ニ入りタル者カ更ニ婚姻ニ因リテ他家ニ入ルト

キハ婚家、養家及ヒ實家ノ戸主ノ同意ヲ要ス(民法第七百四十一條)

(二) 婚姻ヲ爲ス者カ家族ナルトキハ戸主ノ同意ヲ要ス(民法第七百五十條)

(三) 三十年未滿ノ男又ハ二十五年未滿ノ女カ婚姻ヲ爲ストキハ父母ノ同意ヲ要ス但

父母ノ一方カ知レサルトキ、死亡シタルトキ、家ヲ去リタルトキ、又ハ其ノ意思ヲ表

示スルコト能ハサルトキハ他ノ一方ノ同意ヲ以テ足ル(民法第七百七十二條)

(四) 未成年者ニシテ父母共ニ知レサルトキ、死亡シタルトキ、家ヲ去リタルトキ、又ハ其

意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ其後見人及ヒ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要

ス(全上)

(五) 子カ婚姻ヲ爲スニ付キ繼父母又ハ嫡母カ同意セサルトキハ親族會ノ同意ヲ要ス

(民法第七百七十三條)

以上同意ヲ要スヘキ場合ニ於テ婚姻ノ届出ヲ爲スニハ婚姻届出人タル當事者ハ届書

ニ同意ノ證書ヲ添ユルカ又ハ届書ニ同意ノ旨ヲ附記シ之ニ署名捺印セシムヘキモノ

トス

第四百四條 婚姻ノ届出ハ夫ノ本籍地又ハ所在地ノ戸籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス但

入夫婚姻及ヒ婿養子縁組ナルトキハ妻ノ本籍地又ハ所在地ニ於テ其届出ヲ爲ス

コトヲ要ス

○第四章 身分ニ關スル届出 第三百三條 第四百四條

一四五

本條ハ養子縁組ニ於ケル第九十條ノ規定スル所ト同一趣旨ノ規定ヲ爲シタルモノナリ

身分ニ關スル届出ハ第四十條ノ規定ニ依リ本籍地又ハ所在地ノ戶籍吏ニ爲スモノナレトモ婚姻ノ場合ハ民法第七百八十八條ノ規定ニ依リ妻ハ夫ノ家ニ入ルヘキモノナルヲ以テ特ニ本條ハ夫ノ本籍地又ハ所在地ノ戶籍吏ニ届出ツヘキモノトセリ而シテ入夫婚姻又ハ婿養子縁組ナルトキハ如何此場合ハ前ト反對ニシテ夫カ妻ノ家ニ入ルヘキモノナルヲ以テ此場合ハ妻ノ本籍地又ハ所在地ノ戶籍吏ニ届出ツヘキモノナリ
(參照)民法第七百八十八條 妻ハ婚姻ニ因リテ夫ノ家ニ入ル

入夫及ヒ婿養子ハ妻ノ家ニ入ル

第二百五條 婚姻カ無効ナルトキハ届出人ハ其無効ナル事由ノ證明書ヲ提出シテ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

本條ハ裁判ニ因ラスシテ婚姻登記ノ取消ヲ申請スル手續ヲ規定シタルモノナリ
本條ノ規定ハ養子縁組登記取消ノ申請手續ヲ定メタル第九十一條ト同一趣旨ノモノナリ
婚姻ノ無効ナル場合ハ民法第七百七十八條(本節題下參照)ニ限定ス即チ人違其他ノ事

由ニ因リ當事者間ニ婚姻ヲ爲ス意思ナキトキ(二)當事者カ婚姻ノ届出ヲ爲ササルトキ之レナリ然レトモ(二)ノ場合ニ於テハ未タ婚姻ノ登記アラサルハ當然ナルヲ以テ取消ノ申請ヲ爲スヘキ場合アルコトナク獨リ(一)ノ場合ニ限り登記ノ取消ヲ申請スヘキ必要アリトス此申請ヲ爲スニハ届出人ハ無効ナル事由ノ證明書(戶籍吏ヲシテ婚姻ノ無効ナルコトヲ信認セシムルニ足ルヘキ書類)ヲ提出シ前ニ爲シタル婚姻登記ノ取消ヲ申請スヘキモノナリ
申請書々式ハ養子縁組登記取消申請書ヲ準用シ得ルヲ以テ之ヲ略ス宜シク該書式ヲ參看ス可シ

第百六條 婚姻ノ無効又ハ取消ノ裁判カ確定シタルトキハ其訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ一ヶ月内ニ裁判ノ謄本ヲ提出シテ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

檢事カ訴ヲ提起シタル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ從ヒ檢事ヨリ登記ノ取消ヲ請求スルコトヲ要ス

本條ハ裁判ニ因リ婚姻ノ登記取消ヲ申請スル手續ヲ規定シタルモノニシテ養子縁組

○第四章 身分ニ關スル届出 第二百五條 第六百條

ニ於ケル第九十二條ノ規定ト同一趣旨ノモノナリ
 婚姻ノ無効ナルコトハ必ス裁判ヲ要スルモノニアラス其無効ナルコトヲ争ハサルト
 キハ前條ニ依リ無効ナル事由ヲ證明スル證書ヲ提出シ婚姻登記ノ取消ヲ申請シ得ヘ
 キモ若シ之レニ争ヒアルトキハ裁判ニ因リテ決スルノ外ナシ故ニ此場合ニハ訴ヲ提
 起シ無効ナル旨ノ裁判ヲ受ケ其裁判カ確定シタル後一ヶ月内ニ訴ヲ提起シタル者ヨ
 リ裁判ノ謄本ヲ提出シ前ニ爲シタル婚姻登記ノ取消ヲ申請スヘキモノトス其申請書
 々式ニ付テモ養子縁組無効取消ノ場合ト異ナルコトナク之レヲ準用シ得ヘキヲ以テ
 該書式ヲ參看ス可シ

又婚姻カ無効ニアラサルモ民法第七百八十条乃至第七百八十六條ニ定メタル事由ア
 ル場合ハ婚姻ノ取消ヲ裁判所ニ請求シ得ルモノナリ故ニ婚姻取消ノ裁判カ確定シタ
 ルトキハ前項ノ場合ト同シク登記取消ノ申請ヲ爲スヘキモノトス婚姻取消ノ訴ハ民
 法第七百八十条ニ依リテ檢事ヨリモ請求スルコトヲ得ルモノナルヲ以テ此場合ニハ
 登記取消モ亦檢事ヨリ請求スヘキモノナリ是レ等シク登記ノ取消ヲ求ムルモノナレ
 トモ一ハ申請ト云ヒ一ハ檢事職權ヲ以テ爲スモノナルカ故ニ請求ト云フ所以ニシテ
 第十五條第五號ニ申請ト請求トヲ區別シ記載アルコトヲ知ル可シ

(參照)民法第七百八十条 第七百六十五條乃至第七百七十一條(本部通下參照參看)ノ規定ニ違反シタル婚姻ハ當事者、其戸主、親族

又ハ檢事ヨリ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但檢事ハ當事者ノ一方カ死亡シタル後ハ之ヲ請求スル

コトヲ得ス

第七百六十六條乃至第七百六十八條(同上)ノ規定ニ違反シタル婚姻ニ付テハ當事者ノ配偶者又ハ前配偶
 者モ亦其取消ヲ請求スルコトヲ得

全 第七百八十一條 第七百六十五條(同上)ノ規定ニ違反シタル婚姻ハ不適齡者カ適齡ニ達シタルトキハ其取消ヲ請求スルコトヲ
 得ス

不適齡者ハ適齡ニ達シタル後尙ホ三ヶ月間其婚姻ノ取消ヲ請求スルコトヲ得但適齡ニ達シタル後追認ヲ爲シ
 タルトキハ此限ニ在ラス

全 第七百八十二條 第七百六十七條(同上)ノ規定ニ違反シタル婚姻ハ前婚ノ解消者クハ取消ノ日ヨリ六ヶ月ヲ經過シ又ハ女カ再
 婚後懐胎シタルトキハ其取消ヲ請求スルコトヲ得ス

全 第七百八十三條 第七百七十二條(同上)ノ規定ニ違反シタル婚姻ハ同意ヲ爲ス權利ヲ有セシ者ヨリ其取消ヲ裁判所ニ請求スル
 コトヲ得同意カ詐欺又ハ強迫ニ因リタルトキ亦同シ

全 第七百八十四條 前條ノ取消權ハ左ノ場合ニ於テ消滅ス
 一 同意ヲ爲ス權利ヲ有セシ者カ婚姻アリタルコトヲ知りタル後又ハ詐欺ヲ發見シ若クハ強迫ヲ免カレタル
 後六ヶ月ヲ經過シタルトキ
 二 同意ヲ爲ス權利ヲ有セシ者カ追認ヲ爲シタルトキ

○第四章 身分ニ關スル届出 第六百六條

全 第七百八十五條

詐欺又ハ強迫ニ因リテ婚姻ヲ爲シタル者ハ其婚姻ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得
前項ノ取消權ハ當事者カ詐欺ヲ發見シ若クハ強迫ヲ免レタル後三ヶ月ヲ経過シ又ハ追認ヲ爲シタルトキハ消
滅ス

全 第七百八十六條

婚約子縁組ノ場合ニ於テハ各當事者ハ縁組ノ無効又ハ取消ヲ理由トシテ婚姻ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコト
ヲ得但縁組ノ無効又ハ取消ノ請求ニ附帶シテ婚姻ノ取消ヲ請求スルコトヲ妨ケス
前項ノ取消權ハ當事者カ縁組ノ無効ナルコト又ハ其取消アリタルコトヲ知りタル後三ヶ月ヲ経過シ又ハ其取
消權ヲ拋棄シタルトキハ消滅ス

第七百七條

第二百一條及第二百三條ノ規定ハ口頭ヲ以テ届出ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

婚姻ノ届出ヲ爲スニハ口頭ヲ以テスルモ署名シタル書面ヲ以テスルモ届出人ノ自由
ナルコトハ民法第七百七十五條本節題下參照參看ニ規定セリ故ニ本節第二百二條及ヒ
第二百三條ハ書面ヲ以テ届出ツル場合ヲ規定シタルモノナレハ口頭ヲ以テ婚姻ノ届出
ヲ爲ス場合ニモ亦第二百二條及ヒ第二百三條ノ規定ハ準用スヘキモノナルコトヲ本條ニ
於テ規定セリ本條ハ養子縁組ニ於ケル第九十三條養子縁組ニ於ケル第一百條ノ規定ト
同一趣旨ノモノナルヲ以テ理由ノ詳細ハ尙該條下ニ詳説スル處ヲ參看ス可シ

第一百八條 第五十八條ノ規定ハ婚姻ノ届出ニハ之ヲ適用セス

民法第七百七十五條第一項本節題下參照參看ニ婚姻ノ届出ハ婚姻ノ效力ヲ生スヘキ
モノナルコトヲ規定セリ故ニ口頭ヲ以テ届出ヲ爲ス場合ニ代理人ヲ以テ爲サシムル
コトヲ許スニ於テハ婚姻ヲ爲スノ意思アルトテ明ラカナラシムルニ適當セサルヲ以
テ必ス當事者自カラ戸籍吏ノ面前ニ出頭シテ之ヲ爲スカ又ハ署名シタル届書ヲ以テ
爲スヘキモノトシ決シテ代理人ヲ許ササルコトヲ規定セリ而シテ本條ハ第九十四條
(養子縁組)第一百一條(養子縁組)ト同一趣旨ナルニ依リ尙該條ニ詳説スル所ヲ參看ス可シ

第八節 離婚

離婚トハ婚姻ヲ解除スルヲ云フ本節ニ於テハ離婚ノ届出手續ヲ規定シタルモノナリ
離婚モ亦之ヲ戸籍吏ニ届出ツルニ因リテ其効力ヲ生スルモノナルコト民法第八百十
條ノ定ムル所ニシテ其届出カ適法ノモノニアラサレハ戸籍吏ハ之ヲ受理スルコトヲ
得ス然レトモ若シ戸籍吏カ規定ニ違反シテ届出ヲ受理シタレハトテ離婚ハ之レカ爲
メ其効力ヲ妨ケラル、コトナシ(民法第八百十一條)而シテ如何ナル届出カ適法ノモ
ノナルヤ即本法ノ規定ニ依リテ届出ヲ爲サ、ルモノハ勿論民法第八百十一條ニ規定
スル條項ニ適合スルニアラサレハ悉ク適法ノモノナリトス故ニ離婚届出手續ニ付キ
特別ノ規定ハ本節各條ノ下ニ於テ之ヲ解説シ民法ノ條項ハ左ニ列記シテ參照ニ便ス

○第四章 身分ニ關スル届出 第七百七條、第八百八條

(參照)民法第八百十條 第七百七十四條及七百七十五條ノ規定ハ協議上ノ離婚ニ之ヲ準用ス

「第七百七十四條 必要ナラサレハ法文ヲ畧ス

第七百七十五條 「第七節題下參照」

全 第八百一十一條

戶籍吏ハ離婚カ第七百七十五條第二項及七百九條ノ規定其他ノ法令ニ違反セサルコトヲ認メタル後ニ非ラサレハ其届出ヲ受理スルコトヲ得ス

戶籍吏カ前項ノ規定ニ違反シテ届出ヲ受理シタルトキト雖モ離婚ハ之カ爲メニ其効力ヲ妨ケラレハコトナシ

「第八百九條 滿二十五年ニ達セサル者カ協議上ノ離婚ヲ爲スニハ第七百七十二條及七百七十三條ノ規定

ニ依リ其婚姻ニ付キ同意ヲ爲ス權利ヲ有スル者ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第七百七十二條 「第七節題下參照」

第七百七十三條 「同上」

第九百九條 離婚ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 當事者ノ氏名、職業及ヒ本籍地
- 二 父母ノ氏名、職業及ヒ本籍地
- 三 當事者カ家族ナルトキハ戶主ノ氏名、職業及ヒ本籍地
- 四 婚姻ノ年月日
- 五 離婚カ協議又ハ裁判ニ因ルコト

六 當事者カ復籍スヘキ家ノ戶主ノ氏名、職業及ヒ本籍地

七 當事者カ復籍スヘキ家ナキトキハ其事由

離婚届出モ既ニ述ヘタル如ク之ヲ戶籍吏ニ届出ツルニ非サレハ其効力ヲ生セサルコトハ民法第八百十條(本節題下參照參看)ニ規定スルヲ以テ本條ニハ單ニ届出手續ノミヲ規定セリ

離婚届出ハ當事者雙方及成年ノ證人二人以上ヨリ口頭又ハ署名シタル書面ヲ以テ之ヲ爲ササルヘカラス又父母、後見人、親族會等ノ同意ヲ要スル場合ハ次條ニ依リ届書ニ同意ノ證書ヲ添付スルカ又ハ届書ニ同意ノ旨ヲ付記シ署名捺印セシムヘキ者ナリ(若シ此條件ヲ具ヘサルモノヲ誤テ戶籍吏カ受理シタルト雖モ離婚ノ効力ニハ妨ケナシ)民法第八百一十一條第二項(口頭ヲ以テ届出ヲ爲スルハ第百十三條ニ依リ決シテ代理人ヲ許サス又第百一十一條ニ依リ離婚ノ裁判確定シ訴イ提起者ヨリ届出ツル場合ハ相手方ノ同意又ハ證人等ヲ要セサルコト勿論ナリトス

本條ノ規定ニ依リ離婚届書ニ記載スヘキ事項ハ左ノ如シ

- 一 夫妻ノ氏名、職業及ヒ本籍地
- 二 夫妻雙方ノ父母ノ氏名、職業及ヒ本籍地

○第四章 身分ニ關スル届出 第九百九條

- 三 夫又ハ妻カ家族ニシテ戸主ニアラサルトキハ其屬スル家ノ戸主ノ氏名、職業及ヒ本籍地
- 四 婚姻ノ届出ヲ爲シタル年月日
- 五 離婚ハ民法第八百八條ニ依リ協議上ニテ爲ス場合ト民法第八百十三條ニ依リ裁判上ヲ以テ爲ス場合アルヲ以テ其旨
- 六 婚姻ニ因リテ他家ニ入りタル者ハ離婚ノ場合ニ於テ實家ニ復籍スヘキコトハ民法第七百三十九條(第九十五條參照參看)ニ規定スル所ナルヲ以テ其復籍スヘキ家ノ戸主ノ氏名、職業及ヒ本籍地
- 然レトモ婚姻又ハ養子縁組ニ因リテ他家ニ入りタル者カ更ニ婚姻ニ因リテ他家ニ入り離婚セラレタルモノナルトキハ實家又ハ婚家若クハ養家ニ復籍スルコトヲ得(民法第七百四十一條(第七節題下參照))
- 七 離婚者カ復籍スヘキ家ノ戸主ヨリ民法第七百四十一條第二項第七百五十條第二項(第五節題下參照參看)ニ依リ復籍ヲ拒絕セラルルカ又ハ其家ノ廢家若クハ絶家ト爲リ復籍スヘキ家ナキ場合ハ民法第七百四十條及ヒ第七百四十二條(第九十五條參照參看)ニ依リ一家ヲ創立スヘキモノニシテ本法第五百十一條ニ依リ別ニ届

出ヲ爲スヘキモノナルヲ以テ離婚者カ復籍スヘキ家ナキトキハ其事由

以上ノ事項ヲ記載スルノ外通則ノ規定ニ從ヒ届出ヲ爲スヘキコトハ既ニ述ヘタル如シ今之レヲ應用シ協議離婚及ヒ裁判ニ因ル離婚届出書式ヲ附録ヲ以テ之ヲ示ス

(參照)民法第八百八條 夫婦ハ其協議ヲ以テ離婚ヲ爲スコトヲ得

全 第八百十三條 夫婦ノ一方ハ左ノ場合ニ限リ離婚ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

- 一 配偶者カ重婚ヲ爲シタルトキ
- 二 妻カ姦通ヲ爲シタルトキ
- 三 夫カ姦通罪ニ因リテ刑ニ處セラレタルトキ
- 四 配偶者カ偽造、贗賤、強盜、窃盜、強盜、詐欺取財、受寄財物毀滅、贓物ニ關スル罪若クハ刑法第七十五條第二、二百六十條ニ掲ケタル罪ニ因リテ輕罪以上ノ刑ニ處セラレ又ハ其他ノ罪ニ因リテ重禁錮三年以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
- 五 配偶者ヨリ同居ニ堪ヘサル虐待又ハ重大ナル侮辱ヲ受ケタルトキ
- 六 配偶者ヨリ惡意ヲ以テ遺棄セラレタルトキ
- 七 配偶者ノ直系尊屬ヨリ虐待又ハ重大ナル侮辱ヲ受ケタルトキ
- 八 配偶者カ自己ノ直系尊屬ニ對シテ虐待ヲ爲シ又ハ之ニ重大ナル侮辱ヲ加ヘタルトキ
- 九 配偶者ノ生死カ三年以上分明ナラナルトキ
- 十 婚養子縁組ノ場合ニ於テ離縁アリタルトキ又ハ養子カ家女ト婚姻ヲ爲シタル場合ニ於テ離婚若クハ縁組ノ

○第四章 身分ニ關スル届出 第百九條

第一百十條 民法第八百九條ノ規定ニ依リ父母、後見人又ハ親族會ノ同意ヲ要スル
場合ニ於テハ届出人ハ届書ニ同意ノ證書ヲ添ヘ又ハ同意ヲ爲シタル者ヲシテ届
書ニ同意ノ旨ヲ附記シ之ニ署名捺印セシムルコトヲ要ス

本條ハ離婚ニ付キ父母、後見人又ハ親族會ノ同意ヲ要スル場合ノ手續ヲ定メタルモノ
ナリ其同意ヲ要スヘキ場合ハ民法第八百九條(本節題下參照參看)ニ規定スル所ニシテ
即左ノ如シ

- (一) 滿二十五年ニ達セサル當事者カ協議ノ上離婚ヲ爲スニハ其家ニ在ル父母ノ同意ヲ
得ルコトヲ要ス但父母ノ一方カ知レサルトキ死亡シタルトキ家ヲ去リタルトキ又
ハ其意思ヲ表示スルコト能ハサル場合ハ他ノ一方ノ同意ノミニテ足ル
 - (二) 父母共ニ知レサルトキ死亡シタルトキ家ヲ去リタルトキ又ハ意思ヲ表示スルコト
能ハサルトキニ於テ未成年者カ協議上ノ離婚ヲ爲スニハ後見人及ヒ親族會ノ同意
ヲ得ルコトヲ要ス
 - (三) 繼父母又ハ嫡母カ子ノ離婚ニ同意セサルトキハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス
- 以上ノ場合ニ於テハ離婚届出人ハ届書ニ右同意ノ證書ヲ添付スルカ又ハ同意シタル

者ヲシテ其同意ノ旨ヲ届書ニ付記シ之ニ署名捺印セシムヘキモノトス

第一百十一條 離婚ノ裁判カ確定シタルトキハ其訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日

ヨリ十日内ニ裁判ノ謄本ヲ添ヘテ届出ヲ爲スコトヲ要ス

本條ハ裁判ニ因ル離婚届出ノ手續ヲ規定シタルモノナリ

離婚ハ當事者即夫婦協議ヲ以テ爲スカ又ハ裁判ニ因ルニ非サレハ之ヲ爲ス能ハサル
モノニシテ協議ニ因ル離婚届出ハ第九條ニ定ムル届書及ヒ同意ヲ要スル者アルト
キハ前條ノ手續ニ依リテ爲スヘキモノナルコト既ニ詳カナリ若シ離婚カ夫婦ノ一方
ヨリ民法第八百十三條(第九條參照參看)ニ依リ訴ヲ提起シ其裁判カ上訴期間ヲ經過
シ又ハ上告審ノ判決アリテ確定シタルモノナルトキハ本條ニ依リ其裁判確定ノ日ヨ
リ十日内ニ訴ヲ提起シタル者ヨリ裁判ノ謄本ヲ添ヘテ届出ヲ爲スヘキモノナリ

第一百十二條 第九條及セ第十條ノ規定ハ口頭ヲ以テ届出ヲ爲ス場合ニ之ヲ準

用ス

離婚ノ届出ハ民法第七百七十五條第二項第七節題下參照參看ニ依リ口頭ニテモ署名
シタル書面ヲ以テスルモ當事者ノ隨意ナルヲ以テ此離婚届出ヲ口頭ニテ爲ス場合ハ

○第四章 身分ニ關スル届出 第一百十條、第一百十一條、第一百十二條 一五七

審而届出ニ付テ規定シタル第九條及ヒ第一百條ヲ準用スヘキモノナルヲ本條ニ於テ規定シタルモノナリ本條ハ第九十三條(養子縁組)第百條(養子離縁)第百七條(婚姻)ノ規定ト其理由同一ナルヲ以テ該條ニ説明セシ處ヲ參照ス可シ

第百十三條 第五十八條ノ規定ハ離婚ノ届出ニハ之ヲ適用セス

離婚モ亦届出ニ依リテ其効力ヲ生スヘキモノナレハ口頭ヲ以テ届出ヲ爲ス場合ニ代理人ヲ許スハ當事者カ離婚ヲ爲ス意思アルコトヲ明カナラシムルニ適當セサルヲ以テ本條ハ第五十八條ノ規定ヲ適用セス即代理人ヲ許ササルコトヲ規定シタルモノニシテ養子縁組ニ於ケル第九十四條(養子離縁)ニ於ケル第百一條(婚姻)ニ於ケル第百八條ノ規定ト同一趣旨ノモノナレハ尙詳細ハ該條下ニ詳説スル處ヲ參看ス可シ

第九節 後見

本節ハ後見ノ届出方ヲ規定シタルモノナリ
後見トハ法律上無能力者ニ代リ法律ニ定メタル範圍内ニ於テ法律行為ヲ爲スヲ云フ父母ナキ未成年及ヒ禁治産者ハ社界ニ處シテ自ラ万般ノ事ヲ處理スルハ危險ナルヲ以テ是等ノ者ニ代リテ前述ノ法律行為ヲ爲ス者之レヲ後見人ト云フナリ
後見人ニハ法定後見人、指定後見人、選任後見人ノ三種ノ別アリ法律ヲ以テ特ニ定メラ

レタル者ハ法定後見人ニシテ即チ禁治産者ノ父母及ヒ夫カ禁治産ナルトキハ妻、妻カ禁治産者ナルトキハ夫、是レナリ指定後見人トハ法定後見人ナキ場合ニ於テ後見人ヲ指定シタルトキ即チ未成年者ニ對シテ最後ニ親權ヲ行フ者カ遺言ヲ以テ後見人ヲ指定シタル場合はレナリ選任後見人トハ法定後見人指定後見人共ニナキトキ親族會ニ於テ選任シタル後見人は是レナリ此等ハ民法第九百一條乃至第九百五條ニ規定セラレタルハ其條文ヲ掲ク宜シク參照スヘシ

禁治産トハ已レノ財産ヲ自ラ處理スルコトヲ禁セラレタルモノニシテ即チ心神喪失ノ常況ニ在ル者ニ付テハ裁判所ハ本人又ハ親族若クハ檢事ノ請求ニ依リ禁治産ノ宣告ヲ爲スヲ以テ此宣告ヲ受ケタル者之ヲ禁治産者ト云フナリ(民法第七條第八條)

(參照)民法第七條 心神喪失ノ常況ニ在ル者ニ付テハ裁判所ハ本人、配偶者、四親等内ノ親族、戸主、後見人、保佐人、又ハ檢事ノ請求ニ

因リ禁治産ノ宣告ヲ爲スコトヲ得

全 第八條 禁治産者ハ之ヲ後見ニ附ス

全 第九百一條 未成年者ニ對シテ最後ニ親權ヲ行フ者ハ遺言ヲ以テ後見人ヲ指定スルヲ得但管理權ヲ有セサル者ハ此限ニ在ラス

親權ヲ行フ父ノ生前ニ於テ母カ餘メ財産ノ管理ヲ辭シタルトキハ父ハ前項ノ規定ニ依リテ後見人ノ指定ヲ爲スコトヲ得

全 第九百二條 親權ヲ行フ父又ハ母ハ禁治産者ノ後見人トナル

○第四章 身分ニ關スル届出 第百十三條

妻カ禁治産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ夫其後見人ト爲ル夫カ後見人タラサルトキハ前項ノ規定ニ依ル
夫カ禁治産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ妻其後見人ト爲ル妻カ後見人タラサルトキ又ハ夫カ未成年者ナルトキハ第一項
ノ規定ニ依ル

全 第九百三條 前二條ノ規定ニ依リテ家族ノ後見人タル者アラサルトキハ戶主其後見人ト爲ル

全 第九百四條 前三條ノ規定ニ依リテ後見人タル者アラサルトキハ後見人ハ親族會之ヲ撰任ス

全 第九百五條 母カ財産ノ管理ヲ辭シ、後見人カ其任務ヲ辭シ、親權ヲ行ヒタル父若クハ母カ家ヲ去リ又ハ戶主カ隱居ヲ爲シタルニ
因リ後見人ヲ撰任スル必要ヲ生シタルトキハ其父、母又ハ後見人ハ遲滞ナク親族會ヲ招集シ又ハ其招集ヲ裁判所ニ

請求スルコトヲ要ス

從前ハ二十歳未滿ノ幼者ノ父母ハ總テ後見人トシテ届出テ幼者ニ代リテ管理行爲ヲ
爲セシト雖モ民法施行後ノ今日ニ於テハ此等ノ父母ハ民法上後見人ト云フヘカラス
シテ親權ヲ行フ法定代理人ナレハ宜シク混同スヘカラス故ニ民法施行前ニ幼者ノ父
母カ後見ヲ爲スコトヲ其筋ニ届出テタルモノ今日ニ至リテハ親權ヲ行フ父又ハ母ノ
名義ニ於テ幼者ニ代リ諸般ノ行爲ヲ爲スヘキモノトス(民法施行法第七十二條)

(參照)民法施行法第七十二條 子ハ民法施行ノ日ヨリ民法ノ規定ニ從ヒテ父又ハ母ノ親權ニ服ス

本節重要ナル事項ヲ概括スレハ左ノ如シ

一 届出ハ被後見人ノ本籍地又ハ所在地ノ戶籍吏ニ爲スコト

二 届出ノ期間ハ十日内ナルコト

三 後見人ニハ概略法定後見人指定後見人選任後見人ノ三種アルコト

四 後見ノ開始ハ第一未成年者ニ對シテ親權ヲ行フモノナキトキ第二親權ヲ行フ
者カ管理權ヲ有セサルトキ第三禁治産ノ宣告アリタルトキ

五 後見人ハ一人タルコト

六 後見人ハ婦女ヲ除ク外或ル事由アルニ非ラサレハ其任務ヲ辭スルコトヲ得サ
ルコト

七 或ル者ハ後見人タルノ資格ナキコト

八 法定後見人指定後見人ハ後見監督人選任ノ手續ヲ爲スヘキコト

尙詳細ナルコトハ各條下ニ説明スヘシ其他通則第四十三條第四十四條第四十五條第
四十六條等ノ規定ニ注意スヘシ

第百十四條 後見ノ開始アリタルトキハ後見人ハ就職ノ日ヨリ十日内ニ左ノ諸件
ヲ具シテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

一 後見人ノ氏名、出生ノ年月日、職業、本籍地及ヒ住所

○第四章 身分ニ關スル届出 第百十四條

- 二 被後見人ノ氏名、生出ノ年月日、職業及本籍地
- 三 後見人カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名、職業及ヒ本籍地
- 四 後見開始ノ原因及ヒ年月日
- 五 後見人就職ノ年月日

本條ハ後見ノ開始ニ依リテ就職シタル後見人ハ其後見人トナリタル日ヨリ十日内ニ第一號ヨリ第五號迄ノ事項ヲ記載シタル届書ヲ作り第百十八條ニ依リ後見ヲサルルモノノ本籍地又ハ所在地ノ戸籍吏ニ届出ツヘキコトヲ規定シタルモノナリ
 後見ニ附セラルヘキモノハイ) 未成年者カ父母ナキトキロ) 未成年者カ父母又ハ父母ノ一方ヲ有スト唯モ其父又ハ母カ管理權ヲ有セサルトキハ禁治産ノ宣告ヲ受ケタルトキトス故ニ此場合ニ於テ後見開始ス(民法第九百條)

(參照)民法第九百條 後見ハ左ノ場合ニ開始ス

- 一 未成年者ニ對シテ親權ヲ行フ者ナキトキ又ハ親權ヲ行フ者カ管理權ヲ有セサルトキ
- 二 禁治産ノ宣告アリタルトキ

禁治産者ニ付テハ既ニ本節ニ於テ説明セシヲ以テ茲ニ贅セス

世間未成年者ニシテ充分ナル智識ヲ備フルアリ又成年者ニシテ限ニ一丁宇ナク且專

理ヲ解セサル愚夫愚婦アリト雖モ法律ハ未成年者ハ一般ニ智識ヲ備ヘ完全ノ能力ヲ有スルモノト推測セサルヲ以テ親權ヲ行フ者ナキ未成年者ニ對シテハ後見ニ附スト規定シタルモノナリ

届書ニ記載スヘキ諸件(一)ハ後見人ノ氏名、出生ノ年月日、職業、本籍地及住所ニシテ之レ後見人ハ被後見人ニ代リテ法律行為ヲ爲ス者ナレハ第三者ニ對シ生活ノ本據ヲ知ラシムルノ必要アレハナリ(二)ハ被後見人ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地ニシテ之レヲ記載セサレハ何人カ後見セラルルモノナルヤ又親權ヲ行フ者ナキ未成年者ナルヤ若クハ禁治産者ニシテ後見ニ附セラレシヤ等判然セサレハナリ(三)ハ被後見人カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名、職業及ヒ本籍地ニシテ被後見人カ家族ナルトキハ如何ナル戸主ヲ有スルモノナルカヲ見ルノ必要アルヲ以テ届書ニ記載スヘキモノトセリ(四)ハ後見開始ノ原因及ヒ年月日ニシテ後見開始ノ原因トハ未成年者ニ對シ親權ヲ行フ父母ナキトキ、又ハ親權ヲ行フ者カ管理權ヲ有セサルトキ、禁治産ノ宣告ヲ受ケタルトキ是レナリ(民法第九百條前項參照)而シテ開始ノ年月日トハ未成年者ニ對シテ親權ヲ行ヒタル父若クハ母カ死亡シタルトキ其死亡ノ年月日ヲ云ヒ禁治産者ニ對シテハ其宣告ノ年月日ヲ云フノ類ナリ(五)ハ後見人就職ノ年月日ニシテ後見人ノ任務ハ就職ノ日

○第四章 身分ニ關スル届出 第百十四條

ヨリ始マルモノナレハ此就職ノ年月日ヲ記載スルハ最モ必要ナルモノトス
後見人ハ數人ヲ選任スルコトヲ得ス必ス一人ニ限ルモノトス(民法第九百六條)又後見
人ニ選任セラレタル者ハ婦女ヲ除ク外民法第九百七條ノ事由アルニ非サレハ其任務
ヲ辭スルコトヲ得ス又後見人タルコトヲ得ルニハ民法第九百八條ニ定メラレタル以
外ノ者タルコトヲ要ス是レ後見人ノ任務ハ被後見人ニ至大ノ利害關係ヲ有スルモノ
ナレハナリ

(參照)民法第九百六條 後見人ハ一人タルコトヲ要ス

全、第九百七條 後見人ハ婦女ヲ除ク外左ノ事由アルニ非サレハ其任務ヲ辭スルコトヲ得ス

- 一 軍人トシテ現役ニ服スルコト
 - 二 被後見人ノ住所ノ市又ハ郡以外ニ於テ公務ニ従事スルコト
 - 三 自己ヨリ先ニ後見人タルヘキ者ニ付キ本條又ハ次條ニ掲ケタル事由ノ存セシ場合ニ於テ其事由カ消滅シタルコト
 - 四 禁治産者ニ付テハ十年以上後見ヲ爲シタルコト但配偶者、直系血族及ヒ戸主ハ此限ニ在ラス
 - 五 此他正當ノ事由
- 全、第九百八條 左ニ掲ケタル者ハ後見人タルコトヲ得ス
- 一 未成年者

- 二 禁治産者及ヒ準禁治産者
- 三 剥奪公權者及ヒ停止公權者
- 四 裁判所ニ於テ免職セラレタル法定代理人又ハ保佐人
- 五 破産者
- 六 被後見人ニ對シテ訴訟ヲ爲シ又ハ爲シタル者及ヒ其配偶者並ニ直系血族
- 七 行方ノ知レサル者
- 八 裁判所ニ於テ後見ノ任務ニ堪ヘサル事跡不正ノ行爲又ハ著シキ不行跡アリト認メタル者

法定後見人指定後見人カ就職シタルトキハ後見監督人選任ノ手續ヲ爲スヘキモノナ
レトモ其届出ハ爲スニ及ハサルモノトス
本條ノ届出書式ハ附録ヲ以テ之ヲ示ス

第百十五條 後見人ノ更迭アリタルトキハ後任ノ後見人ハ其就職ノ日ヨリ十日内

ニ前條ニ掲ケタル諸件及ヒ前任者ノ氏名ヲ具シテ之ヲ届出ヅルコトヲ要ス

本條ハ後見人ノ更迭即チ入り代リノアリタルトキハ其入り代リタル後見人ハ後見人
ノ職ニ就キタル日ヨリ十日内ニ前條ニ掲ケタル第一號乃至第五號ノ外ニ前任後見人
ノ氏名ヲモ記載シテ届出ツヘキコトヲ規定シタルモノナリ其届出書式ハ附録ニ之ヲ
示ス而シテ届出ノ場所其他ハ總テ前條ニ全シキヲ以テ茲ニ贅セズ

○第四章 身分ニ關スル届出 第百十五條

後見人更迭ノ場合左ノ如シ

一 後見人カ辭職シタルトキ(民法第九百七條前條參照參看)

二 後見人カ後見人タルノ資格ヲ失ヒタルトキ(民法第九百八條前條參照參看)

三 後見人カ免職セラレタルトキ(民法第九百一一條第九百十七條第九百十九條)

(參照)民法第九百一一條

前條ノ規定ニ依リテ指定シタル後見監督人ナキトキハ法定後見人又ハ指定後見人ハ其事務ニ著手スル前親族會ノ招集ヲ裁判所ニ請求シ後見監督人ヲ擔任セシムルコトヲ要ス若シ之ニ違反シタルトキハ親族會ハ其後見人ヲ免職スルコトヲ得

親族會ニ於テ後見人ヲ擔任シタルトキハ直チニ後見監督人ヲ擔任スルコトヲ要ス

「第九百十條 後見人ヲ指定スルコトヲ得ル者ハ遺言ヲ以テ後見監督人ヲ指定スルコトヲ得

全 第九百十七條

後見人ハ遲滞ナク被後見人ノ財産ノ調査ニ著手シ一ヶ月内ニ其調査ヲ終ハリ且其日録ヲ調製スルコトヲ要ス但此期間ハ親族會ニ於テ之ヲ伸長スルコトヲ得

財産ノ調査及ヒ其日録ノ調製ハ後見監督人ノ立會ヲ以テ之ヲ爲スニ非ラサレハ其効ナシ

後見人カ前二項ノ規定ニ從ヒ財産ノ日録ヲ調製セサルトキハ親族會ハ之ヲ免職スルコトヲ得

全 第九百十九條

後見人カ被後見人ニ對シ債權ヲ有シ又ハ債務ヲ負フトキハ財産ノ調査ニ著手スル前ニ之ヲ後見監督人ニ申出ツルコトヲ要ス

後見人カ被後見人ニ對シ債權ヲ有スルコトヲ知リテ之ヲ申出テサルトキハ其債權ヲ失フ

後見人カ被後見人ニ對シテ債務ヲ負フコトヲ知リテ之ヲ申出テサルトキハ親族會ハ其後見人ヲ免職スルコトヲ得

第一百十六條

後見人カ遺言ヲ以テ指定セラレタル者ナルトキハ屆書ニ其指定ニ關スル遺言ノ謄本ヲ添フルコトヲ要ス

後見人カ親族會ニ於テ選任セラレタル者ナルトキハ屆書ニ其選任ニ關スル證明書ヲ添フルコトヲ要ス

本條第一項ハ指定後見人ノ届出方ヲ規定シタルモノニシテ屆書ノ式ハ別ニ異ナリタル廉ナキヲ以テ第一百十四條ニ於テ述ヘタル書式ニ因リテ差出スヘキモノナレトモ此場合ニハ指定ニ關スル遺言ノ謄本ヲ添付スルコトヲ必要トス指定後見人ノ規定ハ民法第九百一一條(本節題下參照參看)ニアリ

第二項ハ選任後見人ノ届出ニハ其選任ニ關スル證明書ヲ添付スルコトヲ規定シタルモノニシテ此證明書ハ親族會ニ於テ選任シタル事柄ヲ證明シ得ヘキモノナレハ足ルモノトス

選任セラレタル後見人トハ民法第九百四條第九百五條(本節題下參照參看)ノ規定ニ因リテ親族會ニ於テ選任シタル後見人ヲ云フ

○第四章 身分ニ關スル届出 第一百十六條

第百十七條 後見人ノ任務カ終了シタルトキハ後見人ハ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

- 一 被後見人ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地
- 二 就職ノ年月日
- 三 任務終了ノ原因及ヒ年月日

後見人ノ任務カ其死亡ニ因リテ終了シタルトキハ前項ノ届出ハ後見監督人ヨリ之ヲ爲スコトヲ要ス

一項 後見人ノ任務即チ後見人ノ役目カ終リタルトキハ其後見人ハ役目ノ終リタル日ヨリ十日内ニ第一號乃至第三號ノ事項ヲ届書ニ記載シテ被後見人ノ本籍地又ハ所在地ノ戸籍吏ニ届出ツヘキコトヲ規定シタルモノナリ其書式ハ附録トシテ之ヲ示ス

二項 後見人カ死亡セシトキハ其任務終了ノ届出人ハ後見監督人トス故ニ後見監督人ハ後見人死亡ノ日ヨリ十日以内ニ此届出ヲ爲スヘシ
 後見人任務終了ノ場合ハ概略左ノ如シ

- (一) 未成年者カ成年ニ達シタルトキ
- (二) 被後見人カ死亡シタルトキ
- (三) 禁治産者カ其ノ宣告ヲ取消サレタルトキ
- (四) 未成年者ニ對シテ親權ヲ行フモノアルニ至リタルトキ
- (五) 親權ヲ行フモノカ管理權ヲ有スルニ至リタルトキ
- (六) 後見人カ死亡シタルトキ、又ハ其任務ヲ辭シタルトキ
- (七) 後見人カ其資格ヲ失ヒタルトキ

以上ハ後見人任務ノ終了シタル原因ヲ例示シタルモノニシテ其終了ノ年月日ハ明ラカニ記載セサルヘカラス例ヘハ未成年者カ成年ニ達シタルトキハ其達シタル年月日禁治産者カ禁治産ノ宣告ヲ取消サレタルトキハ其取消サレタル年月日は即チ終了ノ年月日ナリトス

第百十八條 後見ニ關スル届出ハ被後見人ノ本籍地又ハ所在地ノ戸籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

本條ハ後見開始ノ届出、後見人更迭ノ届出、後見人ノ任務終了ノ届出ハ何レノ地ノ戸籍吏ニ爲スヘキヤヲ規定シタルモノニシテ即チ被後見人ノ本籍地又ハ所在地ノ戸籍吏

○第四章 身分ニ關スル届出 第百十七條、第百十八條

ニ届出ツヘキモノトス本條ハ第四十二條ノ例外ヲ定メタルモノナレハ届出人ハ誤ラサル様注意スヘシ

右ノ如シ本節ノ届出ハ總テ被後見人ノ本籍地又ハ所在地ノ戸籍吏ニ爲スコトヲ要スト特ニ本條ニ規定セラレタル所以ハ後見ニ關スル登記カ被後見人ノ本籍地又ハ所在地ニ登記シアラサレハ第三者カ後見ニ付テノ關係ヲ知ルニ不便ナルヲ以テナリ

第十節 隠居

本節ハ隠居ニ關スル届出方ヲ定メタルモノニシテ隠居トハ戸主タル者カ其戸主ヲ去リタルノ謂ニシテ之ニ關スル規定ハ民法第七百五十二條乃至第七百六十四條ナレトモ先ツ其法文ノ内直接必要ナリト認ムルモノノミヲ摘載シ參照ノ便ニ供ス

(參照民法第七百五十二條 戸主ハ左ニ掲ケタル條件ノ具備スルニアラサレハ隠居ヲ爲スコトヲ得ス

一 滿六十一年以上ナルコト

二 完全ノ能力ヲ有スル家督相續人カ相續ノ單純承認ヲ爲スコト

全 第七百五十三條

戸主カ疾病、本家ノ相續又ハ再興其他己ムコトヲ得サル事由ニ因リテ爾後家政ヲ執ルコト能ハサルニ至リタルトキハ前條ノ規定ニ拘ハラズ裁判所ノ許可ヲ得テ隠居ヲ爲スコトヲ得但法定ノ推定家督相續人アラサルトキハ豫メ家督相續人タルヘキ者ヲ定メ其承認ヲ得ルコトヲ要ス

全 第七百五十四條

戸主カ婚姻ニ因リテ他家ニ入ラント欲スルトキハ前條ノ規定ニ從ヒ隠居ヲ爲スコトヲ得

全 第七百五十五條

女戸主ハ年齢ニ拘ハラズ隠居ヲ爲スコトヲ得

全 第七百五十六條

無能力者カ隠居ヲ爲スニハ其法定代理人ノ同意ヲ得ルコトヲ要セス

全 第七百五十七條

隠居ハ隠居者及ヒ其家督相續人ヨリ之ヲ戸籍吏ニ届出ツルニ因リテ其効力ヲ生ス

右ノ規定ニ依レハ隠居ヲ爲スニハ第一年齢滿六十一年以上ナルコト第二成年者ニシテ瘋癲白痴ハ勿論心神耗弱者聾者盲者等ノ如キモノニアラスシテ完全ノ能力ヲ有スル家督相續人カ相續ニ付テ何等ノ條件ヲ付スルコトナク單一ニ承認ヲ爲スコトノ二條件具備スルヲ以テ原則トシ戸主カ病身ニテ家事ヲ端ヲ執リ行フコト能ハサルトキ又ハ戸主カ本家ノ相續ヲ爲ストキ本家再興ヲ爲ストキ婚姻ニ因リテ他家ニ入ルトキノ如キ事由ニ因リテ隠居ヲ爲ストキハ法定ノ推定家督相續人アル場合ハ議論ナキモ若シ其相續人アラサルトキハ豫メ其家督相續人ヲ定メテ其者ノ承認ヲ得タル後裁判所ノ許可ヲ受ケサルヘカラス此ノ規定ニ抵觸スルモノハ隠居ヲ爲ス能ハサルハ勿論若シ隠居ヲ爲スモ隠居者ノ親族又ハ檢事ヨリ請求ニ因リ裁判所ニ於テ其隠居ハ取

○第四章 身分ニ關スル届出 第百十八條

消サルヘキ者ト知ルヘシ(民法第七百五十八條)但シ女戸主ハ年齢六十年以下ト雖モ隱居ヲ爲シ得ル者トセリ前ニ述ヘタル如ク隱居ハ戸主權ヲ喪失シタル者ナレハ隱居者アレハ必ス家督相續人ナカル可カラス故ニ隱居届出ト家督相續届出トハ互ニ相牽連スルモノトス而シテ本節ノ届出期間ニ付キ別段ノ定メナキ所以ハ隱居ハ戸籍吏ニ届出テタルニ依リテ効力ヲ生スルモノナレハ届出ナキ間ハ事實隱居セサルモノト相同シケレハナリ

(參照)民法第七百五十八條 隱居者ノ親族及ヒ被扶ハ隱居届出ノ日ヨリ三ヶ月内ニ第七百五十二條又ハ第七百五十三條(前出)ノ規

定ニ違反シタル隱居ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

女戸主カ第七百五十五條第二項(前出)ノ規定ニ違反シテ隱居ヲ爲シタルトキハ夫ハ前項ノ期間内ニ其

取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

本節ノ重要ナル事項ヲ概括シテ之ニ通則附則ノ適用ヲ爲セハ左ノ如シ

- 一 届出ノ場所ハ隱居者ノ本籍地又ハ所在地ノ戸籍吏ナルコト(第四十二條)
- 二 届出ハ書面ヲ以テ爲スヲ通例トスルモ正當ノ事由アルトキハ口頭ニテ届出ヲ爲スコトヲ得(第四十三條)
- 三 本籍地ノ戸籍吏ノ管轄地外ニ於テ届出ヲ爲スニハ届書ハ二通ナルコト(第五十

三條)

四 事故アルトキハ代人ニテ届出ヲ爲スコトヲ得(第五十八條)

五 隱居ニ付テハ届出ニ因リ効力ヲ生スルモノナレハ届出ノ期間ナシ但シ裁判ニ

因リテ隱居取消ノ申請ヲ爲スニハ裁判確定ノ日ヨリ一ヶ月以内ナルコト(第百

二十二條)

六 隱居ヲ爲スニハ年齢其他ノ條件ヲ必要トス條件具備セサレハ訴ニ因リテ取消

サルヘシ但女戸主ハ年齢ニ拘ハラヌ夫ノ同意ヲ得テ隱居ヲ爲スコトヲ得(民法

第七百五十二條第七百五十五條第七百五十八條第七百五十九條(前出))

尙ホ詳細ハ各條下ニ説明スヘシ

第百十九條 隱居ノ届書ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス

一 隱居者ノ氏名、族稱、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地

二 家督相續人ノ名、出生ノ年月日、職業及ヒ家督相續人ト隱居者トノ續柄

三 隱居ノ原因

本條ハ隱居ノ届書ニ記載スヘキ必要ノ事項ヲ定メタルモノニシテ此事項ヲ記載セル

○第四章 身分ニ關スル届出 第百十九條

届書ハ戸籍吏ニ於テ受理セサルモノトス此届書々式ハ附録ニ之ヲ示ス
 届書ニ記載スヘキ諸件(一)ハ隠居者ノ氏名族稱出生ノ年月日職業及ヒ本籍地ニシテ隠
 居者ノ何人タルカヲ明示スル者ナリ殊ニ出生年月日ヲ記載セサレハ滿六十年ニ達シ
 タルヤ否ヲ知ル能ハス(二)ハ家督相續人ノ名出生ノ年月日職業及家督相續人ト隠居者
 トノ續柄トス既ニ本節ノ説明ニ於テ述ヘタル如ク隠居ハ家督相續ト相關係ス若シ家
 督相續人ナキトハ豫メ家督相續人タルヘキ者ヲ定メ其承認ヲ得ルモノナルヲ以テ(民
 法第七百五十二條第七百五十三條本節題下參照)家督相續人ノ名氏ハ記載スルニ及ハ
 ス(出生ノ年月日職業及ヒ家督相續人ト隠居者トハ如何ナル續柄ナルカヲ記載スルモ
 ノトセリ此續柄ハ家督相續ノ順序ヲ見ルニ最モ必要ナルモノトス(三)ハ隠居ノ原因ニ
 シテ滿六十年以上ニ達シタル者カ完全ノ能力ヲ有スル家督相續人ノ相續ニ付テ單純
 承認ヲ爲シタルトキ(民法第七百五十二條本節題下參照)戸主カ疾病又ハ本家ノ相續若
 シハ再興其他已ムコトヲ得サル事由ニ因リテ爾後家政ヲ執ルコト能ハサルニ至リタ
 ル場合ニ裁判所ノ許可ヲ得テ隠居ヲ爲ストキ(民法第七百五十三條全上)戸主カ婚姻ニ
 因リテ他家ニ入ラント欲シ裁判所ノ許可ヲ得テ隠居ヲ爲ストキ(民法第七百五十四條
 全上)又女戸主ハ年齢ニ拘ラス隠居ヲ爲スコトヲ得(有夫ノ女戸主ナルトキハ夫ノ同意
 ヲ要ス)然レトモ(民法第七百五十二條第二號及第七百五十三條但書本節題下參照)ニ依
 リ承認ヲ得ルハ勿論ナリ(民法第七百五十五條全上)

右ノ如ク隠居ヲ爲スニ付テハ隠居ノ原因ヲ異ニスルヲ以テ其原因ヲ記載セサル可カ
 ラス

**第二百十條 裁判所ノ許可ヲ得テ隠居ヲ爲ス場合ニ於テハ届出人ハ届書ニ裁判ノ
 謄本ヲ添フルコトヲ要ス**

本條ハ裁判所ノ許可ヲ得テ隠居ヲ爲ス場合ハ其届書ニ裁判ノ謄本ヲ添フヘキコトヲ
 定メタルモノニシテ既ニ本節ノ題下ニ於テ畧述シタルトモ今其許可ヲ得ヘキ場合ヲ
 分ツテ左ニ之ヲ説明スヘシ

- (一)六十歳未滿ノ戸主カ疾病本家ノ相續又ハ再興其他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ
 爾後家政ヲ執ルコト能ハサル場合ニ於テ法定ノ推定家督相續人アラサルトキハ
 豫メ家督相續人タルヘキ者ヲ定メ其承認ヲ得タル後裁判所ノ許可ヲ得テ隠居ヲ
 爲スコトヲ得ヘシ但女戸主ハ前條ニ於テ説明シタル如ク年齢ニ拘ラス又裁判所
 ノ許可ヲ得スシテ隠居ヲ爲スコトヲ得ルモノナリ(民法第七百五十三條第七百五
 十五條本節題下參照)

○第四章 身分ニ關スル届出 第二百十條

(二) 戸主カ婚姻ニ因リテ他家へ入ラントスルモハ一ノ場合ト同シク相續人ノ承認ヲ得タル後裁判所ノ許可ヲ經テ隱居ヲ爲スコトヲ得ヘシ此場合ハ實際女戸主ニ其例多シ(民法第七百五十四條第一項本節題下參照)

第二百一十一條 隱居ノ届出人ハ届書ニ家督相續人ノ承認ノ證書ヲ添ヘ又ハ承認ヲ爲シタル者ヲシテ届書ニ其旨ヲ附記シ之ニ署名捺印セシムルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ民法第七百五十五條二項第ノ規定ニ依リ夫ノ同意ヲ要スル場合ノ届出ニ之ヲ準用ス

一項 家督相續人カ相續ニ付キ承認ノコトハ已ニ前ニ述ヘタルヲ以テ重キテ其説明ヲ爲サスト雖モ家督相續人カ果シテ相續ノ承認ヲナシタルヤ否ハ隱居ニ付テ必要條件ナレハ隱居届書ニハ家督相續人ノ承認ノ證書ヲ添フルカ又ハ届書ニ承認ノ旨ヲ附記シテ署名捺印セシムルコトヲ必要トス故ニ隱居届出ハ隱居者ヨリ届出ヲ爲スヘキ者ノ如クナルモ民法第七百五十七條本節題下參照參看)ニ因レハ隱居届ハ隱居者及ヒ家督相續人ヨリ届出ツルニ非サレハ其効ナシトスルヲ以テ隱居者及ヒ相續人雙方ヨリ届出ヲ爲スヘキモノナリ而シテ又家督相續人ヨリ民法第七百五十二

條第二號本節題下參照參看)ニ基キ更ニ本條ノ規定ニ依リ隱居届書ニ承認ノ證書ヲ添ヘ又ハ承認ヲ爲シタル旨ヲ届書ニ附記スヘキモノトス

二項 有夫ノ女戸主カ隱居ヲ爲スニハ夫ノ同意ヲ要スルヲ以テ此場合ノ届書ニハ前項同様夫ノ同意ノ證書ヲ添フルカ又ハ同意ノ旨ヲ附記シテ署名捺印スヘキモノト規定セリ(民法第七百五十五條本節參照參看届書式ハ附録ニ之ヲ示ス

承認トハ單純承認及ヒ限定承認ノ二種アリ單純承認ノコトハ民法第千二十三條第千二十四條ニ規定シ又限定承認ノコトハ民法第千二十五條乃至第千三十七條ニ規定シアルモ本條ニ所謂承認ハ前述スルカ如ク民法第七百五十二條第二號ニ胚胎シタルモノナレハ單純承認ヲ指シタルモノナリ

(參照民法第千二十三條 相續人カ單純承認ヲ爲シタルトキハ無限ニ被相續人ノ權利義務ヲ承繼ス

全 第千二十四條 左ニ掲ケタル場合ニ於テハ相續人ハ單純承認ヲ爲シタルモノト看做ス

- 一 相續人カ相續財産ノ全部又ハ一部ヲ處分シタルトキ但保存行爲及ヒ第六百二條ニ定メタル期間ヲ超エサル貸貸ヲ爲スハ此限ニ在ラス
- 二 相續人カ第千十七條第一項ノ期間内ニ限定承認又ハ拋棄ヲ爲サリシトキ
- 三 相續人カ限定承認又ハ拋棄ヲ爲シタル後ト雖モ相續財産ノ全部若クハ一部ヲ隱匿シ私ニ之ヲ消費シ又ハ惡意ヲ以テ之ヲ財産目錄中ニ記載セサリシトキ但相續人カ拋棄ヲ爲シタルニ因リテ相續人ト爲リタル者カ

○第四章 身分ニ關スル届出 第二百一十一條、第二百一十二條 一七七

全 第一千二十五條 相続人ハ相続ニ因リテ得タル財産ノ限度ニ於テノミ被相続人ノ債務及ヒ遺贈ヲ弁済スヘキコトヲ留保シテ承認
ヲ爲スコトヲ得
承認ヲ爲シタル後ハ此限ニ在ラス

第二百二十二條 隠居ノ取消ノ裁判カ確定シタルトキハ其訴ヲ提起シタル者ハ裁判
確定ノ日ヨリ一ヶ月内ニ裁判ノ謄本ヲ提出シテ登記ノ取消ヲ申請スルコト要ス
第六六條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

一項 民法第七百五十八條第七百五十九條ニ依リ爲シタル隠居ノ取消ノ裁判確定シ
タルトキハ其裁判確定ノ日ヨリ起算シテ一ヶ月内ニ其訴ヲ爲シタル者ヨリ曩キニ
隠居ノ届出ヲ爲シタル戸籍吏ニ其登記取消ヲ申請スヘク此場合ニハ申請書ニ其裁
判ノ謄本ヲ添付スヘキモノトス
隠居ノ取消シ得ヘキ場合ハ左ノ如シ
(一) 男ノ戸主カ滿六十年ニ達セザルトキ(民法第七百五十二條本節題下參照參看)
(二) 完全ノ能力ヲ有スル家督相續人カ相續ノ單純承認ヲ爲サザリシトキ(全上)
(三) 戸主カ疾病本家ノ相續又ハ再與其他止ムコトヲ得サル事由ニ依リ爾後家政ヲ執
ルコト能ハサルニ至リ裁判所ノ許可ヲ得スシテ隠居ヲ爲シタルトキ(民法第七百七

五十三條本節題下參照參看)

(四) 有夫ノ女戸主カ夫ノ同意ヲ得スシテ隠居シタルトキ(民法第七百五十五條全上)
(五) 隠居者又ハ家督相續人カ詐欺又ハ強迫ニ因リテ隠居ノ届出ヲ爲シタルトキ(民法
第七百五十九條)

右ノ場合ニ於テハ隠居者家督相續人夫隠居者ノ親族及ヒ檢事ヨリ隠居取消ノ訴ヲ請
求スルコトヲ得ルヲ以テ其取消ノ裁判カ確定シタルトキハ一ヶ月内ニ裁判ノ謄本ヲ
添ヘテ登記取消ノ申請ヲ爲スヘシ此申請ヲ受理シタル戸籍吏ハ身分登記簿隠居ノ部
ニ於テ第二十四條ニ依リ既ニ登記シタル欄外ヘ登記取消ノ記載ヲ爲シ原登記ヲ抹消
スヘキモノトス

二項 前項説明ノ(一)(二)(三)ノ場合ニ於テハ檢事ヨリ隠居ノ取消ヲ裁判所ニ請求シ得ル
ヲ以テ檢事ヨリ請求シテ隠居ノ取消ノ裁判確定シタルトキ婚姻ノ無効又ハ取消ノ
裁判ニ因リ婚姻登記取消請求ノ場合ニ於ケル第六六條第二項ノ規定ヲ準用シ檢事
ヨリ隠居取消ノ請求ヲ戸籍吏ニ爲スヘキモノトス此場合ニ於テモ裁判ノ謄本ヲ添
付スヘキハ勿論ナリトス

(參照)民法第七百五十八條 隠居者ノ親族及ヒ檢事ハ隠居届出ノ日ヨリ三ヶ月内ニ第七百五十二條又ハ第七百五十三條ノ規定ニ違
○第四章 身分ニ關スル届出 第二百二十二條
一七九

反シタル隠居ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得
女戸主カ第七百五十五條第二項ノ規定ニ違反シテ隠居ヲ爲シタルトキハ夫ハ前項ノ期間内ニ其取消ヲ
裁判所ニ請求スルコトヲ得

全 第七百五十九條

隠居者又ハ家督相續人カ詐欺又ハ強迫ニ因リテ隠居ノ届出ヲ爲シタルトキハ隠居者又ハ家督相續人ハ其詐欺
ヲ發見シ又ハ強迫ヲ免レタル時ヨリ一年内ニ隠居ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但追認ヲ爲シタルトキ
ハ此限ニ在ラス

隠居者又ハ家督相續人カ詐欺ヲ發見セス又ハ強迫ヲ免レサル間ハ其親族又ハ檢事ヨリ隠居ノ取消ヲ請求スル
コトヲ得但其請求ノ後隠居者又ハ家督相續人カ追認ヲ爲シタルトキハ取消權ハ之ニ因リテ消滅ス
前二項ノ取消權ハ隠居届出ノ日ヨリ十年ヲ經過シタルトキハ時効ニ依リテ消滅ス

第十一節 失踪

本節ハ失踪ニ關スル届出方ヲ規定シタルモノニシテ失踪トハ不在者ノ生死カ七年間
分明ナラサルカ又ハ戰地ニ臨ミタル者沈没シタル船舶中ニ在リタル者其他死亡ノ原
因タルヘキ危難ニ遭遇シタル者ノ生死カ戰爭ノ止ミタル後船舶ノ沈没シタル後又ハ
其他ノ危難ノ去リタル後三年間分明ナラサルトキハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因
リテ失踪ノ宣告ヲ爲スモノナリ(民法第三十條此宣告ヲ受ケタル者ハ七年又ハ三年ノ
期間滿了ノ時ニ死亡者ト看做サルルヲ以テ(民法第三十一條)身分ニ至大ノ關係ヲ生ス

ルニ依リ届出ヲ爲シ隨テ身分登記簿ニ登記ヲ爲スヘキモノトセリ而シテ失踪宣告ノ
手續ニ付テハ人事訴訟手續法第十七條乃至第八十條及ヒ民法施行法第十八條ニ規定
シタルハ就テ看ルヘシ

(参照)民法第三十條

不在者ノ生死カ七年間分明ナラサルトキハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ失踪ノ宣告ヲ爲スコトヲ得

戰地ニ臨ミタル者、沈没シタル船舶中ニ在リタル者、其他死亡ノ原因タルヘキ危難ニ遭遇シタル者ノ生死カ戰爭
ノ止ミタル後、船舶ノ沈没シタル後其他ノ危難ノ去リタル後三年間分明ナラサルトキ亦同シ

全 第三十一條

失踪ノ宣告ヲ受ケタル者ハ前條ノ期間滿了ノ時ニ死亡シタルモノト看做ス

人事訴訟手續法第七十條

失踪ノ宣告及ヒ其宣告ノ取消ニハ以下數條ニ定メタルモノノ外民事訴訟法第七百六十五條乃至第七百
七十五條ノ規定ヲ準用ス

「民事訴訟法第七百六十五條 公示催告ノ申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得
此申立ニ付テノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

申立ヲ許ス可キトキハ裁判所ハ公示催告ヲ爲スコク其公示催告ニハ殊ニ左ノ諸件ヲ掲ク可シ

第一 申立人ノ表示

第二 請求又ハ權利ヲ公示催告期日マテニ届出ツ可キコトノ催告

第三 届出ヲ爲サルニ因リ生ス可キ失權ノ表示

第四 公示催告期日ノ指定

○第四章 身分ニ關スル届出 第二百二十二條

「民事訴訟法第七百六十六條 公示催告ニ付テノ公告ハ裁判所ノ掲示板ニ掲示シ及ヒ官報又ハ公報ニ掲載シテ之ヲ爲シ其他法律ニ別段ノ規定ナクサルトキハ第五百五十七條第三項ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス

「全第七百六十七條 公示催告ノ官報又ハ公報ニ掲載シタル日ト公示催告期日トノ間ニハ法律ニ別段ノ規定ナクサルトキハ少ナクモ二ヶ月ノ時間ヲ存スルコトヲ要ス

「第七百六十八條 公示催告期日ヲ終リタル後ト雖除權判決前ニ届出ヲ爲スモハ適當ナル時間ニ之ヲ爲シタル者ト看做ス

「全第七百六十九條 除權判決ハ申立ニ因リテ之ヲ爲ス
右判決前ニ詳細ナル探知ヲ爲ス可キ旨ヲ命スルコトヲ得

除權判決ノ申立ヲ却下スル決定及除權判決ニ付シタル制限又ハ留保ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スヲ得

「全第七百七十條 申立人ノ申立ノ理由トシテ主張シタル權利ヲ争フコトノ届出アリタルトキハ其事情ニ從ヒ届出テタル權利ニ付テノ裁判確定スルマテ公示催告手續ヲ中止シ又ハ除權判決ニ於テ届出タル權利ヲ留保ス可シ

「全第七百七十一條 申立人カ公示催告期間ニ出頭セザルトキハ其申立ニ依リ新期日ヲ定ム可シ此申立ハ公示催告期日ヨリ六ヶ月ノ期間内ニ限リ之ヲ爲スコトヲ許ス

「全第七百七十二條 公示催告手續ヲ完結スル爲メ新期日ヲ定メタルトキハ其期日ノ公告ヲ爲スコトヲ要セス

「全第七百七十三條 裁判所ハ除權判決ノ重要ナル旨趣ヲ官報又ハ公報ニ掲載シテ公告ヲ爲スコトヲ得

「全第七百七十四條 除權判決ニ對シテハ上訴ヲ爲スコトヲ得

除權判決ニ對シテハ左ノ場合ニ於テ申立人ニ對スル訴ヲ以テ催告裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ不服ヲ申立ツルコトヲ得

第一 法律ニ於テ公示催告手續ヲ許ス場合ニ非ザルトキ

第二 公示催告ニ付テノ公示ヲ爲サス又ハ法律ニ定メタル方法ヲ以テ公告ヲ爲サザルトキ

第三 公示催告ノ期間ヲ遵守セザルトキ

第四 判決ヲ爲ス列事カ法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラレタルトキ

第五 請求又ハ權利ノ届出アリタルニ拘ハラズ判決ニ於テ其届出ヲ法律ニ從ヒ願ミザルトキ

第六 第四百六十九條第一號乃至第五號ノ場合ニ於テ原狀回復ノ訴ヲ許ス條件ノ存スルトキ

「全第七百七十五條 不服申立ノ訴ハ一ヶ月ノ不變期間内ニ之ヲ起ス可シ此期間ハ原告カ除權判決ヲ知りタル日ヲ以テ始マル然レモ前條第四號及ヒ第六號ニ掲ケタル不服申立ノ理由ノ一ニ基キ訴ヲ起シ且原告カ右ノ日ニ其理由ヲ知ラザリシ場合ニ於テハ其期間ハ不服ノ理由ノ原告ニ知ラタル日ヲ以テ始マル
除權判決ノ言渡ノ日ヨリ起算シテ五ヶ年滿了後ハ此訴ヲ起スコトヲ得ス

人事訴訟手續法第七十一條 失踪ノ宣告又ハ其取消ノ申立ハ不在者ノ住所地ノ區裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第一條 第二項及ヒ第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

全 第七十二條 公示催告ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 不在者ハ公示催告期日マテニ其生存ノ届出ヲ爲スヘク其ノ届出ヲ爲サザルトキハ失踪ノ宣告ヲ受クヘキコト

○第四章 身分ニ關スル届出 第二百二十二條